

横浜市民の防災・減災の
意識、取組に関するアンケート調査
報告書

令和7年3月

横浜市総務局危機管理室

目次

第1章 調査の概要	4
1. 調査の目的	4
2. 調査の方法	4
3. 調査の項目	4
4. 調査票回収結果	4
5. 調査結果の見方	5
6. 調査票	7
第2章 調査結果	25
1. 地震対策	25
(1) あなたのご家庭での日ごろからの地震対策	25
2. 災害への備えや避難について	49
(1) あなたのご家庭での日ごろからの災害対策	49
(2) 地域での取組	61
(3) 避難場所等	70
3. 災害時に配慮が必要な方について	79
(1) 災害時に配慮が必要なご家族	79
4. 災害情報について	90
(1) 災害に関する情報収集	90
5. 横浜市の災害対策に係るご意見について	96
(1) 横浜市の災害対策に係るご意見	96
6. あなたご自身のことについて	101
(1) あなた自身やご家族のことについて	101
7. 【その他を選択した場合の自由記述内容】	104

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

横浜市民の防災・減災の意識、取組に関する今回のアンケート調査は、能登半島地震を踏まえ、横浜市の地震対策にいかすため、市民の皆様の日ごろからの震災に対する意識や自助・共助の取組状況を把握し、取り組むべき防災・減災行動について、全市的な普及啓発の促進及び効果的な施策検討の基礎資料として活用することを目的とする。

2. 調査の方法

- (1) 調査対象：横浜市内に居住する満15歳以上の男女個人（外国籍市民を含む）
- (2) 標本数：10,000人（その内、外国籍300人）
- (3) 抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出
- (4) 調査方法：郵送・インターネット回答方式併用（調査票を郵送、回答は郵送又はインターネットによる）
- (5) 調査期間：令和6年6月13日～7月11日
- (6) 調査実施機関：株式会社ジャンボ

3. 調査の項目

- (1) 地震対策
- (2) 災害への備えや避難について
- (3) 災害時に配慮が必要な方について
- (4) 災害情報について
- (5) 横浜市の災害対策に係るご意見について
- (6) あなたご自身のことについて

4. 調査票回収結果

標本数	調査票未着数	有効回答数	回収率	有効回収率
10,000	49	3,419	34.2%	34.4%

※調査票未着数とは、宛先不明等で返送された調査票を指す。

※有効回収率は、「有効回答数／（標本数－調査票未着数）×100」とする。

5. 調査結果の見方

- (1) 図表中のnは該当設問での回答者数を表す。設問によっては、回答対象が限られるため、有効回答数にならない場合がある。
- (2) 設問により回答がなくても、全体のいずれかを回答していれば、有効回答数に含める。
- (3) 回答枝の選択数を指定している間については、指定の数以外を選択した回答はエラーデータとしている。
- (4) 百分比はnを100.0%として算出し、少数第2位を四捨五入して少数第1位まで示している。このため、百分比の合計が100.0%に満たない場合や、上回る場合がある。
- (5) 複数回答の設問では、百分比の合計が100.0%を上回る場合がある。
- (6) 本文や図表中の選択枝表記では、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (7) 「経年比較」の「※参考」について
各年の経年比較については、平成30年、令和3年に実施した「横浜市民の危機管理アンケート調査」及び「横浜市民の防災・減災の意識、取組に関するアンケート調査」のうち、該当する設問について比較している。調査ごとに設問や選択枝が一部異なることがあることから、正確な比較ができないため図表（グラフ）を参考程度にとどめる。
- (8) この調査の標本誤差は、およそ以下の表のとおりである。また、標本誤差は次の式によって得られる。

$$\text{標本誤差} = 2 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

N = 母集団（横浜市15歳以上人口）
n = 比率算出の基数（回答者数）
P = 回答比率（%）

統計学上よく使用される信頼度は95%（許容できる誤差の範囲が5%）であり、本アンケート調査の標本誤差も信頼度95%で計算する。

各回答比率における標本誤差早見表

	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
3,419	1.0%	1.4%	1.6%	1.7%	1.7%
3,000	1.1%	1.5%	1.7%	1.8%	1.8%
2,000	1.3%	1.8%	2.0%	2.2%	2.2%
1,000	1.9%	2.5%	2.9%	3.1%	3.2%
800	2.1%	2.8%	3.2%	3.5%	3.5%

※母集団は横浜市全体の15歳以上の人口3,251,998人である。（令和6年1月1日）

有効回答数3,419を100.0%とする比率で、ある質問の回答が50%のとき、実際の回答は、48.3%～51.7%の間にあると考えてよい。

横浜市民の防災・減災の意識、取組に関する アンケート調査票

横浜市では、今後の災害対策の推進に活かすために、防災・減災の意識や取組状況に関するアンケート調査を実施しています。

このたび、あなたは市民を代表してお答えいただく本アンケート調査の対象者に選ばれました。

インターネット(推奨)または郵送のいずれかの方法により、回答のご協力をお願いします。

また、回答に要する時間は15分程度(設問：最大で37問)です。

※別冊で「用語解説」が付いています。ご参考にしてください。

■ インターネットで回答する場合（推奨）

下記の URL または右の二次元コードから専用サイトにアクセスし、ご回答ください。

URL: <https://bo-gensai.city.yokohama.lg.jp/>

ID : _____ パスワード : _____



【回答期限】令和6年7月3日（水）まで

■ 郵送で回答する場合 ※切手不要・当日消印有効

調査票にご記入のうえ、返信用封筒に入れて投函してください。

◆お問合せ先◆横浜市総務局防災企画課

電話：045-671-4096（平日 09：00～17：00）

電子メール：so-b-gensai@city.yokohama.lg.jp



よくある質問集

<土日・祝日>※スマートフォン・パソコンをお持ちでない方

横浜市コールセンター（8時～21時、年中無休）

電話 045-664-2525、ファクス 045-664-2828

※問合せ内容によっては、担当部署へ転送もしくはおかけ直しをお願いすることがあります。

※この調査は、市内にお住まいの15歳以上の方々10,000人を無作為に抽出して実施しています。回答は無記名で行うため、この調査により個人が特定されることはございません。集計した調査結果については、今後、市のホームページなどで公開する予定です。

※ご回答いただいた内容は本調査の目的のみに使用いたします。個人情報の保護につきましても、本調査の事務を行う受託会社と横浜市との契約において、調査で知り得た内容を他に漏らすことがないよう保護策を講じております。

<調査主体>

横浜市総務局危機管理室危機管理部防災企画課

[〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地の10 10階]

■あなたのご家庭での日ごろからの地震対策についてお伺いします。

問1 あなたのお住まい（住宅）の形態はどれですか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | | | |
|---------------|------|-------------------|-------|
| 1. 持家（一戸建て） | 47.4 | 4. 持家（マンション・共同住宅） | 29.7 |
| 2. 借家（一戸建て） | 1.7 | 5. 借家（マンション・共同住宅） | 19.0 |
| 3. 社宅・公務員住宅・寮 | 1.2 | 6. その他（ | ） 0.8 |
| （無回答・無効票） | 0.2 | | |

問2 あなたのご自宅の耐震化について伺います。ご自宅の構造は、次のうちどれにあたりますか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | | | |
|-------------------------|------|------------------------|------|
| 1. 木造住宅 | 43.4 | 4. 鉄骨鉄筋コンクリート造住宅（SRC造） | 11.9 |
| 2. 鉄筋コンクリート造住宅
（RC造） | 22.6 | 5. その他 | 1.0 |
| 3. 鉄骨造住宅（S造） | 5.4 | 6. 分からない | 14.4 |
| | | （無回答・無効票） | 1.3 |

問3 あなたのご自宅は、いつ頃建てられた建物ですか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | | |
|------------------------|-------------|------|
| 1. 昭和56年5月以前（新耐震基準*以前） | ※P. 22 解説参照 | 16.8 |
| 2. 昭和56年6月以降（新耐震基準以降） | | 75.9 |
| 3. 分からない | | 6.9 |
| （無回答・無効票） | | 0.4 |

（問3で「1」と答えた方はご回答ください）

問3-1 ご自宅の建物の耐震対策について、該当するものを選んでください。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | |
|----------------------------------|------|
| 1. 耐震診断・耐震改修*等を実施している※P. 22 解説参照 | 19.9 |
| 2. 耐震診断の結果、安全と判定された | 8.7 |
| 3. 今後、耐震診断・耐震改修等を実施する予定である | 6.8 |
| 4. 耐震診断、耐震改修等を実施する予定はない | 28.6 |
| 5. 分からない | 35.2 |
| （無回答・無効票） | 0.9 |

(問3-1で「4」と答えた方はご回答ください)

→問3-2 耐震診断を受けていない、あるいは、耐震改修等を実施しない理由について、該当するものを選んでください。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | | | |
|-----------------|------|------------------------------|------|
| 1. 費用がかかるため | 40.9 | 5. 耐震診断・耐震改修等を知らなかったため | 9.8 |
| 2. 危険性を感じないため | 15.9 | 6. 防災ベッド※を設置しているから※P.22 解説参照 | 0.0 |
| 3. 手続き・手配が面倒なため | 4.3 | 7. その他 () | 18.9 |
| 4. 賃貸物件であるため | 7.9 | | |
| (無回答・無効票) | 2.4 | | |

問4 あなたのご自宅では、地震によって転倒するおそれのあるタンスや食器棚等の家具類を固定（転倒防止）していますか（粘着マットも含みます）。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | |
|-----------------------|------|
| 1. 全ての家具を固定（転倒防止）している | 12.8 |
| 2. 一部の家具を固定（転倒防止）している | 46.5 |
| 3. 固定（転倒防止）していない | 30.0 |
| 4. 固定（転倒防止）が必要な家具類がない | 9.2 |
| (無回答・無効票) | 1.4 |

(問4で「2」「3」と答えた方はご回答ください)

→問4-1 あなたが家具類の固定（転倒防止）をしていない（一部のみの固定も含む）理由について、次の中からお選びください。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | |
|---------------------------------|------|
| 1. 方法が分からないから | 4.7 |
| 2. 必要な器具をどこで購入できるか分からないから | 1.6 |
| 3. 自分ではできないと思うから | 8.8 |
| 4. 費用がかかるから | 8.8 |
| 5. 手間がかかり、面倒だから | 23.2 |
| 6. 部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから | 9.7 |
| 7. 賃貸住宅のため色々と制約があるから | 9.1 |
| 8. 必要性を感じないから | 18.8 |
| 9. その他 () | 11.2 |
| (無回答・無効票) | 4.2 |

問5 あなたのご自宅は横浜市が指定する「密集市街地※」の対象区域内にありますか。

※密集市街地については、P.24の町名をご確認ください。

1つ選択して番号を○で囲んでください。

- | | | | | | |
|-------------|------|--------------|------|-----------|-----|
| 1. 対象地域内にある | 18.2 | 2. 対象地域内ではない | 80.5 | (無回答・無効票) | 1.3 |
|-------------|------|--------------|------|-----------|-----|

問6 地震による停電から復旧した際に、切れた電源コードや倒れた電気ヒーター等の器具に電気が流れて「通電火災*」が発生することがあります。通電火災の発生を防ぐため、地震時に自宅から離れる際、自らブレーカーを落とすことが有効であることを知っていますか。※P.22 解説参照

1つ選択して番号を○で囲んでください。

1. 知っている 72.9 2. 知らない 26.2 (無回答・無効票) 0.9

問7 あなたのご自宅では、通電火災の発生を防ぐために有効な「感震ブレーカー*」を設置していますか。※P.22 解説参照

1つ選択して番号を○で囲んでください。

- | | |
|-------------------------|------|
| 1. 感震ブレーカーを設置している | 30.1 |
| 2. 設置していないが、今後設置する予定である | 12.6 |
| 3. 設置しておらず、今後設置する予定もない | 52.4 |
| (無回答・無効票) | 4.9 |

(問7で「1」と答えた方はご回答ください)

→問7-1 あなたが設置している「感震ブレーカー」のタイプは、次のうちどれですか。

該当するものすべて選択して番号を○で囲んでください

- | | |
|---|------|
| 1. 分電盤タイプ
(分電盤に内蔵又は接続した感震センサーが揺れを感知し、住宅内すべての電気を止める) | 63.0 |
| 2. コンセントタイプ
(コンセントに内蔵した感震センサーが揺れを感知し、そのコンセントからの電気を止める) | 2.2 |
| 3. 簡易タイプ (おもり玉又はバネの作動により、直接ブレーカーを落とす) | 8.6 |
| 4. 分からない | 23.3 |
| 5. その他 () | 0.9 |
| (無回答・無効票) | 2.7 |

(問7で「2」「3」と答えた方はご回答ください。)

→問7-2 あなたが「感震ブレーカー」を設置していなかった理由は、次のうちのどれですか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | | | |
|---------------------|------|---------------------|------|
| 1. 設置方法が分からないから | 12.5 | 5. 手間がかかり、面倒だから | 4.7 |
| 2. 費用がかかるから | 10.6 | 6. 感震ブレーカーを知らなかったため | 35.3 |
| 3. 必要性を感じないから | 6.3 | 7. 持ち家ではないから | 15.8 |
| 4. どこで購入できるか分からないから | 5.0 | 8. その他 () | 5.8 |
| (無回答・無効票) | 4.1 | | |

災害への備えや避難について

■あなたのご家庭での日ごろからの災害対策についてお伺いします。

問8 災害が起こった場合、あなたのご家庭に今ある食料、飲料水（1人1日あたりの目安は3リットル以上）でお住いの家族全員がおよそ何日過ごすことができますか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

1. 0日	6.1	4. 5日～6日	10.7
2. 1日～2日	28.9	5. 7日以上	7.7
3. 3日～4日	45.2	(無回答・無効票)	1.5

(問8で「1」「2」を選んだ方はご回答ください)

→ 問8-1 横浜市では、ローリングストック法*などを活用し、ご家族全員分の食料や飲料水を3日以上、日常的に用意することを推奨しています。あなたのご家庭で、3日以上分の食料や飲料水の準備をしていない、又はできない主な理由は何ですか。

1つ選択して番号を○で囲んでください ※P. 22 解説参照

1. 何を準備すればよいか分からないから	11.4	6. 面倒だから	12.3
2. 保管する場所がないから	36.6	7. 費用がかかるから	9.9
3. 準備が必要だと知らなかったから	3.3	8. 大規模な災害は起こらないと思うから	1.4
4. 行政が準備していると思うから	4.0	9. その他 ()	9.9
5. 3日以上必要だと思わないから	8.4	(無回答・無効票)	2.8

問9 能登半島地震では、長期間にわたる上下水道の途絶が生じ、災害時のトイレの重要性が問われることになりました。あなたのご家庭では、災害に備えて何日分のトイレパック（1人1日あたりの目安は5個）を準備していますか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

1. 1日～2日分	25.9	3. 4日以上	18.1
2. 3日分	16.1	4. 準備していない	38.8
(無回答・無効票)	1.1		

(問9で「4」と答えた方はご回答ください)

→ 問9-1 準備していない理由は何ですか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

1. どこで購入すればよいか分からないから	18.8	6. 代わりとなる方法があると思うから	17.1
2. 保管する場所がないから	4.5	7. 面倒だから	9.7
3. 準備が必要だと知らなかったから	17.4	8. 費用がかかるから	11.3
4. 容易に入手できると思うから	4.9	9. 大規模な災害は起こらないと思うから	2.3
5. 行政が準備していると思うから	3.5	10. その他 ()	8.8
(無回答・無効票)	1.7		

問 10 あなたやあなたのご家庭では、家具の固定や水・食料の準備等以外で現在、どのような対策をしていますか。

該当するものすべて選択して番号を○で囲んでください

家庭での備え	1. ラジオ、懐中電灯などを準備している	83.9
	2. 発電機、蓄電池、モバイルバッテリーなどの電源を準備している	36.5
	3. いつも風呂に水をためおきしている	28.7
	4. 日用品（医薬品、おむつ等）をすぐ持ち出せるように準備している	30.8
	5. 感染症用品（マスクなど）をすぐに持ち出せるように準備している	46.1
	6. 家族との連絡方法を決めている	28.6
	7. 避難する場所を決めている	38.3
	8. 避難場所への避難経路を確認している	27.9
	9. 自宅周辺の危険箇所を確認している	19.4
	10. いざという時に隣近所で助け合える関係をつくっている	18.9
	11. 地域の防災訓練に参加している	16.5
家や家具の備え (火災対策含む)	12. 自分の家を地震に強い構造にしている	28.7
	13. 自分の家を火災に強い構造にしている	13.2
	14. 消火器や消火スプレーなどを備えている	44.0
	15. 窓ガラスに飛散防止フィルムを貼り付けている	7.8
	16. カーテンなどの日用品を燃えにくいものになっている	17.2
	17. 防災ベッドを設置している	0.6
	勤務先や外出先で 被災した時の備え	18. 職場等で宿泊する準備
19. 職場から自宅までの徒歩経路の確認		29.0
20. 徒歩経路にある災害時帰宅支援ステーション [※] の確認		3.6
21. 一時滞在施設 [※] 等の場所の確認		4.8
22. 防災グッズを携行する（例：帰宅支援マップ、ラジオ、絆創膏等）		11.4
	23. 特に何もしていない	2.6
	24. その他（ ）	1.7

※P. 22 解説参照
0.9

(無回答・無効票)

問 12 あなたは、防災訓練や研修等をとおして、どのような内容を学んでみたいと思いますか。

2つ選択して番号を○で囲んでください

- | | |
|---------------------------|------|
| 1. 必要な防災用品や生活備蓄について | 35.6 |
| 2. 被災経験に基づいた日頃から役立つ情報について | 26.5 |
| 3. 家具・家電の転倒等による被害の軽減について | 5.0 |
| 4. 避難生活（持ち物や過ごし方）について | 29.6 |
| 5. 身近なものを利用した災害時の対応方法について | 23.7 |
| 6. 自宅の耐震診断や耐震補強について | 6.1 |
| 7. 初期消火や応急救護の方法について | 12.3 |
| 8. 被災後の生活再建の流れについて | 13.3 |
| 9. 災害時の地域での連携の仕方について | 11.8 |
| (無回答・無効票) | 18.0 |

問 13 災害が起こった時に、あなたは、ご近所の方にはどのような支援(手助け)ができると思いますか。

該当するものすべて選択して番号を○で囲んでください

- | | | | |
|--------------------|------|--------------------------|------|
| 1. 「大丈夫ですか」などの声かけ | 76.1 | 7. 相談相手や話し相手になる | 32.2 |
| 2. 余剰備蓄品の提供 | 22.8 | 8. 避難の手助け・避難場所の提供 | 20.0 |
| 3. 災害状況や避難情報などの伝達 | 33.4 | 9. 介助や応急手当 | 17.0 |
| 4. その方の母語での支援・情報提供 | 4.2 | 10. 支援したいが余裕がないため出来そうにない | |
| 5. 家族や親族・知人への連絡 | 36.8 | | 15.6 |
| 6. 一時的な保護・預かり | 15.0 | 11. その他 | 1.4 |
| 12. わからない | 5.8 | (無回答・無効票) | 1.5 |

問 14 あなたは、自然災害が起こった時に、被害を少なくするために「自助」「共助」「公助」のどれが重要だと考えていますか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | |
|----------------------------|------|
| 1. 自助（自分の身は自分で守ること） | 28.4 |
| 2. 共助（地域や身近にいる人どうしが助け合うこと） | 13.9 |
| 3. 公助（国や地方自治体が行う救助・援助・支援） | 8.6 |
| 4. 「自助」「共助」「公助」のバランスをとるべき | 46.2 |
| (無回答・無効票) | 2.9 |

■避難場所等についてお伺いします。

問 15 あなたが自宅にいて大規模な地震が発生し、次のような状況になった場合、当面の期間、どこで避難生活をしますか。

それぞれ右のあてはまる番号を○で囲んでください

	避難所 (地域防 災拠点)	親族・友 人の家等	公園等	車の中	自宅にいる
ア. 自宅建物に被害はない (水道・ガス・電気等は使える)	2.8	1.2	0.3	0.4	92.6
イ. 自宅建物に被害はない (水道・ガス・電気等は使えない)	23.3	9.7	0.7	2.0	60.3
ウ. 自宅建物が半壊、一部破損している場合	51.4	19.4	1.1	8.9	14.5
エ. 自宅建物が全壊している場合	66.9	20.7	1.2	5.4	0.8

(無回答・無効票) ア 2.7 イ 4.1 ウ 4.7 エ 5.0

問 16 あなたが震災時にインターネット等の通信環境が使えない状況になったとき、行政から発信される情報をどのように入手しようと考えていますか。

該当するものすべて選択して番号を○で囲んでください

- | | |
|-----------------------|------|
| 1. 避難所へ行って教えてもらう | 75.1 |
| 2. 自治会・町内会の人から教えてもらう | 42.7 |
| 3. 家族、友人・知人から教えてもらう | 43.5 |
| 4. 最寄りの区役所に行って教えてもらう | 19.8 |
| 5. ラジオやテレビなどから情報を入手する | 75.2 |
| 6. その他 | 1.3 |
| 7. 行政からの情報は必要ない | 0.1 |
| (無回答・無効票) | 1.6 |

問 17 発災後に避難所へ行かず、自宅で避難生活をする際に心配なことは何ですか。

2つ選択して番号を○で囲んでください

- | | |
|------------------------|------------|
| 1. 飲料水や食料の確保 | 62.9 |
| 2. 生活用水（炊事・風呂等）の確保 | 20.9 |
| 3. 電気・ガス等、ライフラインの復旧 | 43.9 |
| 4. 情報収集手段の確保 | 8.4 |
| 5. 利用できるトイレ設備 | 29.6 |
| 6. 安心できる治安環境 | 5.5 |
| 7. 一人暮らし等で手助けが受けられないこと | 2.3 |
| 8. 余震の影響などによる建物の倒壊 | 10.4 |
| 9. その他（
（無回答・無効票） | 0.7
7.8 |

問 18 自宅等に被害があり、避難所で避難生活を送らなければならなくなった際に心配なことは何ですか。

該当するものすべて選択して番号を○で囲んでください

- | | | | |
|-------------------------------|------|------------------------|------------|
| 1. 集団生活を送ること | 55.3 | 10. 栄養・食事・アレルギーへの配慮 | 17.5 |
| 2. 自身が抱える事情（持病、障害など） | 18.3 | 11. トイレ設備 | 72.3 |
| 3. 避難生活が自力では困難な家族の存在 | 9.1 | 12. プライバシー確保 | 60.6 |
| 4. 日常の医療や介護 | 15.9 | 13. 治安面の対策 | 35.2 |
| 5. 日常で使用する生活支援品
（おむつ、流動食等） | 11.8 | 14. ペット同行避難の可否 | 13.7 |
| 6. 避難生活の介添え・支援者の不在 | 4.4 | 15. コミュニケーション面（言語・手話等） | 2.0 |
| 7. 就寝環境を整える備品 | 40.8 | 16. 特にない | 0.8 |
| 8. 空調設備 | 31.1 | 17. その他（
（無回答・無効票） | 1.5
1.6 |
| 9. 衛生面（口腔ケア・感染症など） | 60.3 | | |

問 19 避難所（地域防災拠点）の運営は、地域の方達によって組織する運営委員会が担っています。
あなたが、避難所運営において担うことができる支援は、次のどれですか。

2つ選択して番号を○で囲んでください

- | | |
|------------------------------|-------------|
| 1. 書類整理やパソコン操作などの事務的支援 | 27.6 |
| 2. 食料・飲料水などの物資の管理や炊き出し管理 | 38.1 |
| 3. 救護・救助・防犯活動の支援 | 10.0 |
| 4. 物資や資機材の搬送支援 | 15.7 |
| 5. 避難所における疾病予防・健康管理に関する支援 | 4.6 |
| 6. 避難所の清掃・ごみの分別などに関する支援 | 25.3 |
| 7. なにができるかわからない
（無回答・無効票） | 0.0
39.4 |

災害時に配慮が必要な方について

■災害時に配慮が必要なご家族についてお伺いします。

問 20 あなた自身やあなたの同居のご家族に、災害時に自力での避難が困難な方はいますか。

該当するものすべてを選択して番号を○で囲んでください

1. 乳児（0歳～1歳未満）	1.7	7. こころの病気の方	2.8
2. 幼児（1歳～7歳未満）	5.7	8. 在宅での医療的ケアが必要な方	2.0
3. 小学生（7歳～12歳）	6.7	9. 療養等で身体が不自由な方	2.5
4. 妊産婦	0.7	10. 日本語が不慣れな方	0.4
5. 介護等が必要な高齢者（65歳以上）	11.9	11. いずれもない	64.8
6. 身体・知的障害がある方	4.4	（無回答・無効票）	5.4

（問 20 で「1」～「10」と答えた方はご回答ください）

▶ 問 20-1 災害時に配慮が必要なご家族（あなた自身も含む）について、災害時の避難等を手助けしてくれる方（ご家族以外）はいますか。

該当するものすべてを選択して番号を○で囲んでください

1. 利用施設等の従事者	10.3	5. 近くに住む友人・知人	26.0
2. 地域の民生委員	4.6	6. その他	3.2
3. 自治会・町内会の会員	12.7	7. いずれもない	38.8
4. 近くに住む親せき縁者	25.3	（無回答・無効票）	1.9

災害情報について

■災害に関する情報収集についてお伺いします。

問 21 あなたは、防災情報（日頃の備え）をどのような方法で入手している又はしたいですか。

該当するものすべてを選択して番号に○をつけてください

1. テレビ・ラジオ	82.8	9. 新聞	25.2
2. 市のホームページ	21.9	10. 市や県の広報紙	31.6
3. 市からの防災情報Eメール	18.8	11. 防災マップ	23.5
4. 横浜市避難ナビ	13.1	12. 雑誌	1.6
5. Yahoo!防災速報	29.2	13. 町内の回覧板や掲示板	30.4
6. LINE（ライン）	33.6	14. その他（ ）	2.0
7. X（旧 Twitter）	15.4	15. 特にない	1.4
8. フェイスブック	2.8	（無回答・無効票）	1.8

問 22 あなたが、災害時への備えとして平常時に行政から特に発信してほしい情報は何か。
また、大地震の発災時に行政から特に発信してほしい情報は何か。

該当するものを平常時、災害時それぞれ2つ選択して番号を○で囲んでください。

1－【平常時】

1. 必要な防災用品について（携帯ラジオ、懐中電灯等）	16.7
2. 食料・飲料水などの生活備蓄品の必要な量について	25.3
3. 家族や友人・知人との安否確認方法について	14.3
4. 家具・家電の転倒防止策について	2.3
5. 自宅の耐震診断・耐震補強について	5.1
6. 感震ブレーカーの設置について	9.9
7. 応急手当の知識や方法を学ぶ機会について	7.6
8. 近隣との災害時の協力体制について	8.0
9. 適切な初期消火や救助活動について	4.7
10. 災害時の避難場所・避難所について	21.5
11. 災害時の情報取得方法について	19.0
12. 避難所生活での必要なこと（持ち物、過ごし方）について	16.9
13. 災害後の生活支援・生活再建について	15.9
14. その他	0.6
15. 特にない	0.0
（無回答・無効票）	16.1

2－【災害時】

1. 家族や友人・知人の安否情報	30.7
2. 地震の規模や震源地、津波、余震の情報など	22.4
3. 火災の発生や建物倒壊などの被害情報	7.9
4. 災害時の情報の信ぴょう性やデマ拡散についての注意喚起	4.5
5. ライフラインの被害・復旧情報	31.6
6. 交通機関の運行情報	2.1
7. 避難が必要かどうかの指示情報	16.5
8. 避難場所・避難所の情報	10.7
9. 食料・飲料水の入手方法	27.4
10. 病院等、治療を受けられる場所の情報	10.6
11. 避難生活における健康維持方法	1.5
12. 災害後の生活支援・生活再建について	7.4
13. その他	0.3
14. 特にない	0.0
（無回答・無効票）	13.2

横浜市の災害対策に係るご意見について

■横浜市の災害対策に係るご意見についてお伺いします。

問 23 災害対策について、横浜市に力を入れて取り組んでほしいことはどれですか。

5つまで選択して番号を○で囲んでください。

1. 緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化	45.9
2. 災害に関する情報提供や広報	21.7
3. 応援部隊や支援物資の受け入れ態勢の整備	26.2
4. 水・食料・毛布などの十分な備蓄	62.5
5. 地域における防災組織の確立	8.7
6. 防災訓練などの意識啓発の強化	3.4
7. 学校や公共施設の耐震化・安全化	15.9
8. 地下街や高層ビルに対する防災指導の強化	4.3
9. 一般住宅の耐震診断・耐震改修・防災ベッド等の設置補助	10.5
10. がけ崩れや液状化などへの対策	12.3
11. 津波・高潮・洪水などによる浸水への対策	9.2
12. ハザードマップの作成や使い方に関する啓発	6.0
13. 避難方法や避難場所の周知	19.3
14. 災害時要援護者（高齢者、障害者など）への支援対策	14.9
15. 帰宅困難者への対策	11.6
16. 国や近隣自治体、企業などとの協力体制の強化	9.9
17. 災害ボランティアの育成や受け入れ態勢の整備	5.1
18. 避難場所への道路の整備	3.8
19. 医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化	24.9
20. 電気・ガス・水道・電話通信などのライフライン施設の耐震性の向上	57.1
21. 停電や電力不足への対策	20.9
22. 放射性物質による汚染への対策	1.9
23. 火山噴火による降灰への対策	3.0
24. 地震における火災対策	7.6
25. 防災・減災に関する研修の拡充	1.4
26. 避難所（地域防災拠点）の快適性向上のための資器材購入	23.5
27. 地域防災拠点以外への公的避難所整備の仕組みの強化	7.5
28. その他（具体的に)	2.3
29. 特にない	0.6
（無回答・無効票）	4.4

あなたご自身のことについて

■最後にあなた自身やご家族のことについてお尋ねします。統計上、必要なものですので、ご記入を
よろしくお願いいたします。

問 24 あなたのお住まいの区はどちらですか。

1つ選択して番号を○で囲んでください。

- | | | | | | |
|---------------|-----|---------|-----|-----------|-----|
| 1. 青葉区 | 8.7 | 7. 港南区 | 5.2 | 13. 戸塚区 | 8.1 |
| 2. 旭区 | 6.8 | 8. 港北区 | 9.9 | 14. 中区 | 3.7 |
| 3. 泉区 | 4.3 | 9. 栄区 | 3.1 | 15. 西区 | 2.5 |
| 4. 磯子区 | 4.1 | 10. 瀬谷区 | 2.7 | 16. 保土ヶ谷区 | 5.4 |
| 5. 神奈川区 | 5.4 | 11. 都筑区 | 6.1 | 17. 緑区 | 4.3 |
| 6. 金沢区 | 5.6 | 12. 鶴見区 | 6.7 | 18. 南区 | 5.3 |
| (無回答・無効票) 2.3 | | | | | |

問 25 あなたの年齢（年代）はどれですか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | | | |
|----------|------|---------------|------|
| 1. 10 歳代 | 2.1 | 5. 50 歳代 | 19.1 |
| 2. 20 歳代 | 6.8 | 6. 60 歳代 | 16.8 |
| 3. 30 歳代 | 9.2 | 7. 70 歳代以上 | 29.2 |
| 4. 40 歳代 | 14.3 | (無回答・無効票) 2.5 | |

問 26 あなたの性別はどれですか。

1つ選択して番号を○で囲んでください※選択することに違和感のある場合は回答不要です。

- | | | | | | |
|-------|------|-------|------|-----------|-----|
| 1. 女性 | 54.6 | 2. 男性 | 42.2 | (無回答・無効票) | 3.2 |
|-------|------|-------|------|-----------|-----|

問 27 あなたは、自治会、町内会に加入していますか。

1つ選択して番号を○で囲んでください

- | | | | | | |
|---------------|------|------------|------|----------|-----|
| 1. 加入している | 72.3 | 2. 加入していない | 19.8 | 3. 分からない | 5.5 |
| (無回答・無効票) 2.4 | | | | | |

問 28 あなたは、どのような家族形態で暮らしていますか。

1つ選択して番号を○で囲んでください。

- | | | | |
|------------------|------|---------------|------|
| 1. ひとり | 12.8 | 4. 親と子（2世代） | 44.3 |
| 2. 夫婦またはパートナーと二人 | 32.6 | 5. その他 | 4.6 |
| 3. 祖父母と親と子（3世代） | 3.3 | (無回答・無効票) 2.4 | |

質問は以上です。お疲れさまでした。ありがとうございました。

◆用語解説◆

問番号	用語	説明
3	新耐震基準	震度6強～7に達する程度の揺れでも倒壊しないような構造基準。 昭和56年6月1日以降に建設された建物はこの基準の適用を受けている。
3-1	耐震診断	新耐震基準以前に建設された建物に対して、新耐震基準を満たしているか否かを確認すること。
	耐震改修	耐震診断の結果、基準を満たしていない場合や耐震性に問題がある建物に対して行う補強工事。
3-2	防災ベッド	木造住宅の耐震改修が難しい場合に、建物が倒壊しても生存空間を確保するため、ベッドにフレーム等を設置するもの。住宅の一部屋(居間や寝室)に設置する「耐震シェルター」もある。
6	通電火災	地震や台風などの自然災害による長時間の停電後、復旧時に出火する電気火災のこと。損傷した配線などに電気が流れ、発熱発火する場合や、転倒したヒーターに可燃物(カーテン、じゅうたん等)が触れている状態で電気が流れ着火する場合などがある。
7	感震ブレーカー	地震の大きな揺れを感知して電気を自動的に遮断し、電気火災を防ぐ器具。
8-1	ローリングストック法	日常的に非常食を食べ、食べたらいきなり買い足すという行為を繰り返し、常に家庭に新しい非常食を備蓄する方法。
10	災害時帰宅支援ステーション	徒歩帰宅者支援のための協定を締結したコンビニエンスストアやファミリーレストラン、ガソリンスタンドなどを「災害時帰宅支援ステーション」又は「災害時徒歩帰宅者支援ステーション」と呼び、専用のステッカーを店舗の入口など、利用者の見やすい位置に掲示している。これらの店舗では、トイレ、水道水を利用できるほか、道路交通情報などを可能な範囲で提供してもらえる。
	一時滞在施設	帰宅が可能になるまで待機する場所がない帰宅困難者を一時的に受け入れ、休憩場所のほか、可能な範囲でトイレ、水道水、情報の提供等を実施する施設。

◆用語解説◆

問番号	用語	説明
11	地域防災拠点	身近な市立の小・中学校等を災害時の避難所として指定。避難所としての機能に併せ、水・食料の提供や情報の提供等の役割を持つ。 震度5強以上の地震で開設される。
	地域防災拠点の訓練	避難所の開設、避難者の受入れ、区災害対策本部との情報の受伝達など、地域防災拠点における対応を確認する訓練。
	横浜防災ライセンス講習会	地域防災拠点に備えている資機材の取扱い方法を学ぶ講習会。講習会を受講された方に資機材取扱リーダーとしてリーダー証を発行し、名簿に登載している。
	よこはま防災研修 <small>(旧：防災・減災推進研修)</small>	地域の防災の担い手を育成し、地域の防災力の向上を図ることを目的とし、町の防災組織（自治会・町内会等）の中で活動している方々などに対し、市が進めようとしている防災・減災に関する講義やグループワーク等を行うもの。基礎編、応用編、支援編がある。
	消防団	消防団とは、普段は本業の仕事を持ちながら、火災発生時における消火活動、地震や風水害といった大規模災害発生時における救助・救出活動、警戒巡視、避難誘導、災害防ぎょ活動などを行う消防組織法第九条に定められた市町村の消防機関の一つ。 消防団員は、災害活動のほか、平常時では、訓練や、応急手当の普及指導、住宅への防火指導、特別警戒、広報活動など、地域における消防力・防災力の向上や地域コミュニティの維持・振興において重要な役割を担っている。
	家庭防災員研修	自助から始まり地域防災の担い手にもつなげる研修制度として、自治会・町内会から推薦を受けた方を対象に、防火・防災に関して必要な知識及び技術を身に付けていただくことを目的とした研修。

問5における対象地域一覧表

(青葉区、旭区、港南区、栄区、瀬谷区、都筑区、緑区にお住まいの方は、地域外です。)

密集市街地の対象地域(「横浜市密集市街地における地震火災対策計画」より)

泉区	白幡上町	西柴3丁目	下野谷町 1~4丁目	柏葉	妙香寺台	元久保町	白妙町 1、2丁目
白百合 1~3丁目	白幡町	平潟町	下末吉 1、4丁目	北方町 1、2丁目	麦田町 1~4丁目	保土ヶ谷区	高根町1丁目
中田北 2、3丁目	白幡仲町	町屋町	諏訪坂	鷺山	元町 1~5丁目	岩崎町	通町4丁目
中田西 2~4丁目	白幡西町	谷津町	佃野町	諏訪町	矢口台	岡沢町	中里 1~4丁目
中田東 1~4丁目	白幡東町	港北区	鶴見 1、2丁目	滝之上	山下町	霞台	永田北 1~3丁目
中田南 1~5丁目	白幡南町	菊名1丁目	寺谷 1、2丁目	竹之丸	山手町	帷子町 1、2丁目	永田山王台
磯子区	白幡向町	篠原台町	豊岡町	立野	大和町 1、2丁目	鎌谷町	永田東 1、2丁目
磯子 1、2、8丁目	立町	篠原町	仲通1丁目	千代崎町 1~4丁目	山元町 1~4丁目	神戸町	永田南 1、2丁目
岡村 1~7丁目	中丸	篠原西町	馬場 1~7丁目	寺久保	西区	桜ヶ丘 1、2丁目	中村町 1~3丁目
滝頭 1~3丁目	七島町	篠原東 1~3丁目	東寺尾 3、6丁目	仲尾台	赤門町2丁目	月見台	西中町4丁目
中浜町	西大口	新吉田東 5、6丁目	東寺尾北台	西竹之丸	東ヶ丘	初音ヶ丘	八幡町
久木町	西神奈川 2、3丁目	高田東 1、4丁目	東寺尾中台	西之谷町	伊勢町 1~3丁目	星川1丁目	東蒔田町
広地町	二本榎	綱島西5丁目	東寺尾東台	初音町 1~3丁目	老松町	峰岡町 1~3丁目	伏見町
丸山 1、2丁目	白楽	仲手原2丁目	本町通 1~3丁目	英町	霞ヶ丘	宮田町 1~3丁目	平楽
神奈川区	平川町	錦が丘	向井町 1、2丁目	日ノ出町 2丁目	久保町	和田2丁目	別所 2~5丁目
旭ヶ丘	広台太田町	日吉本町 4丁目	戸塚区	本郷町 1~3丁目	御所山町	南区	別所中里台
入江2丁目	松本町 1~5丁目	富士塚 1、2丁目	汲沢 1、3~8 丁目	本牧荒井	境之谷	井土ヶ谷上町	堀ノ内町 1、2丁目
浦島丘	三ツ沢上町	鶴見区	戸塚町	本牧大里町	浅間台	浦舟町1丁目	蒔田町
浦島町	三ツ沢下町	市場上町	中区	本牧三之谷	浅間町 2~5丁目	永楽町1丁目	真金町 1、2丁目
大口通	三ツ沢中町	市場西中町	赤門町1丁目	本牧町 1、2丁目	中央 1、2丁目	榎町 1、2丁目	南太田1丁目
大口仲町	六角橋 1~6丁目	市場東中町	池袋	本牧原	戸部本町	大岡 1~5丁目	三春台
神之木台	金沢区	潮田町 1、2丁目	石川町 1~5丁目	本牧満坂	西戸部町 1~3丁目	庚台	宮元町3丁目
神大寺 1、4丁目	金沢町	小野町	上野町 1~4丁目	本牧緑ヶ丘	西前町 2、3丁目	唐沢	六ツ川 1、2丁目
栗田谷	洲崎町	岸谷 1~4丁目	打越	本牧元町	浜松町	共進町 1~3丁目	睦町 1、2丁目
子安通1丁目	泥亀2丁目	北寺尾 1、2、5~7 丁目	大芝台	豆口台	東久保町	山谷	若宮町 1~4丁目
斎藤分町	寺前 1、2丁目	汐入町1丁目	大平町	簗沢	藤棚町 1、2丁目	清水ヶ丘	

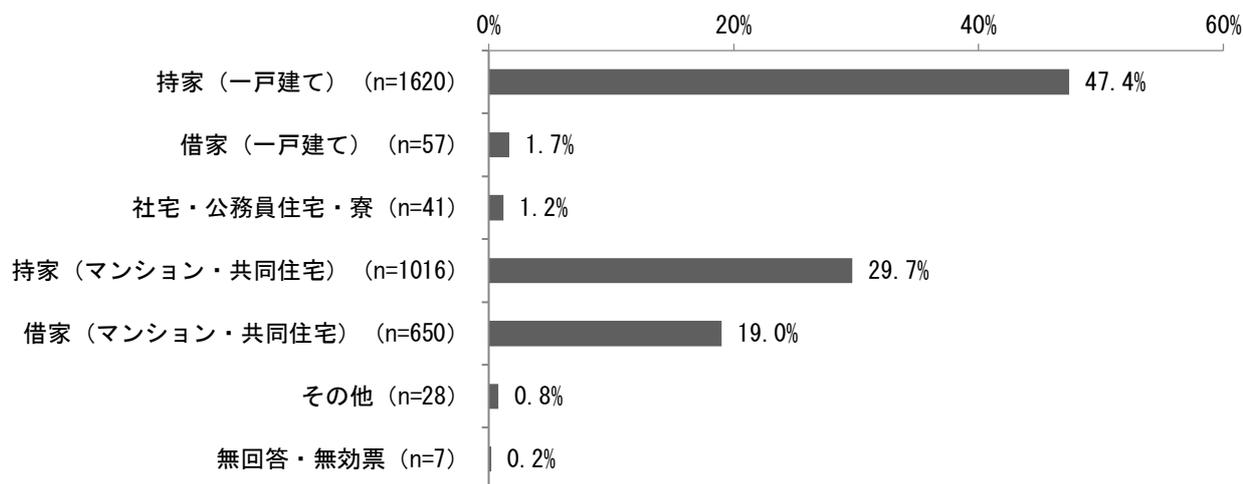
第2章 調査結果

1. 地震対策

(1) あなたのご家庭での日ごろからの地震対策

問1 あなたのお住まい（住宅）の形態はどれですか。（1つ選択）

【全体集計】 n=3,419



図表 1-1：住居形態

※【その他回答】（抜粋、一部要約）

市営住宅/公営住宅/UR 賃貸住宅/親族名義の家/テラスハウス、等

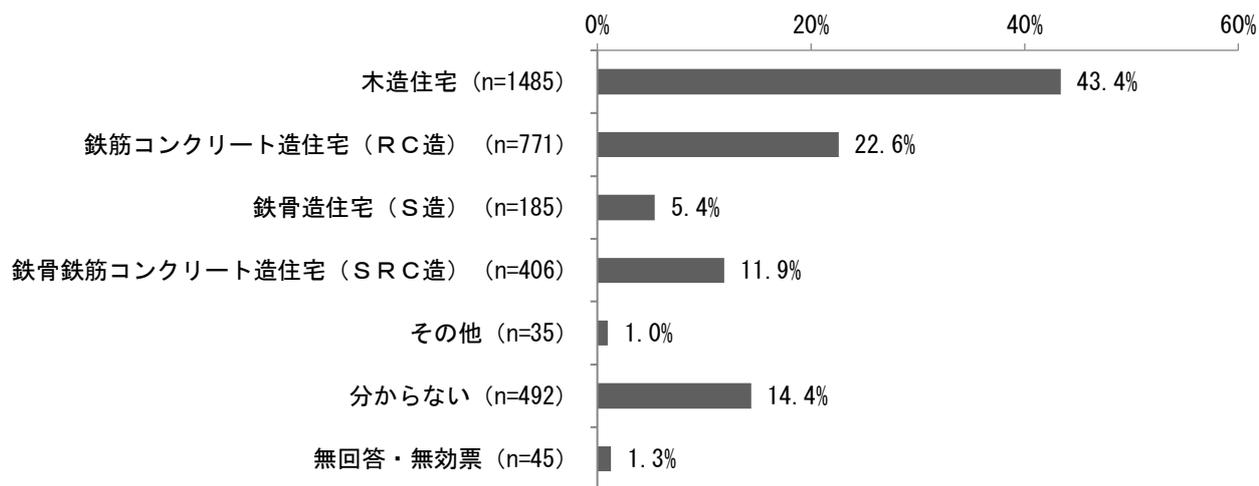
問2 あなたのご自宅の耐震化について伺います。ご自宅の構造は、次のうちどれにあたりますか。
(1つ選択)

◇自宅の構造は「木造住宅」が4割超

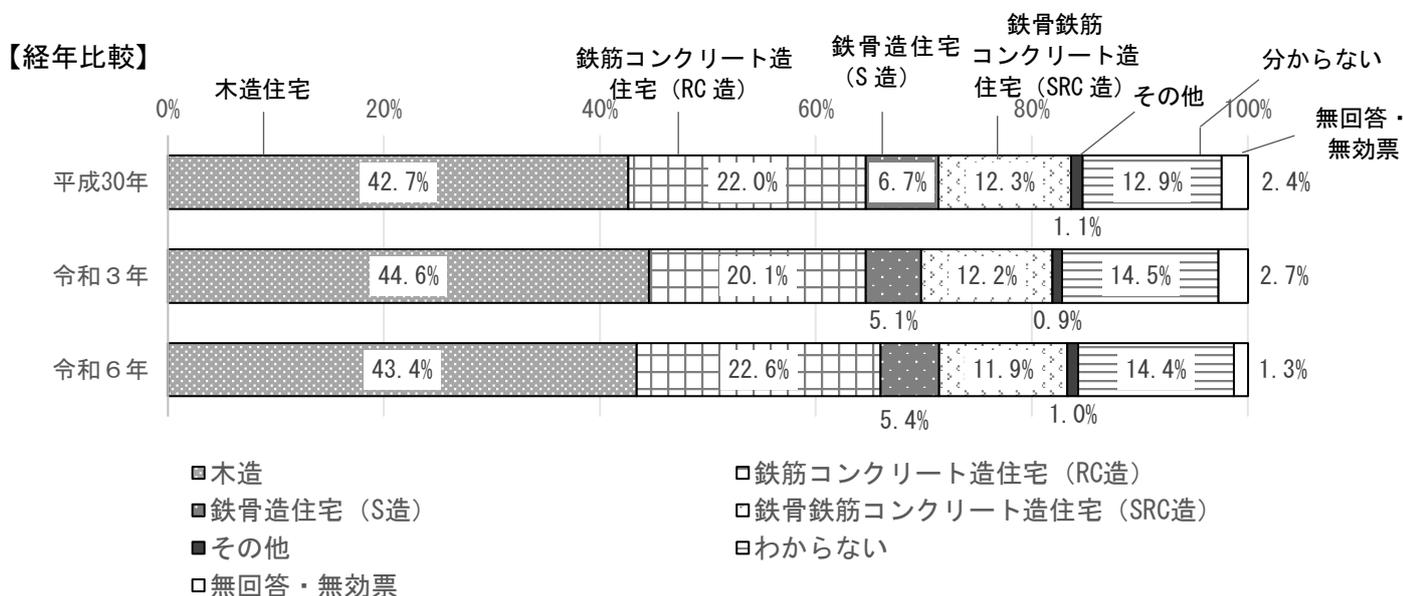
自宅の構造は「木造住宅」が43.4%と最も多く、次いで「鉄筋コンクリート造住宅（RC造）」が22.6%となった。

経年比較では、概ね前回調査と同様の傾向である。

【全体集計】 n=3,419



図表 2-1 : 自宅の構造



図表 2-2 : 自宅の構造 経年比較

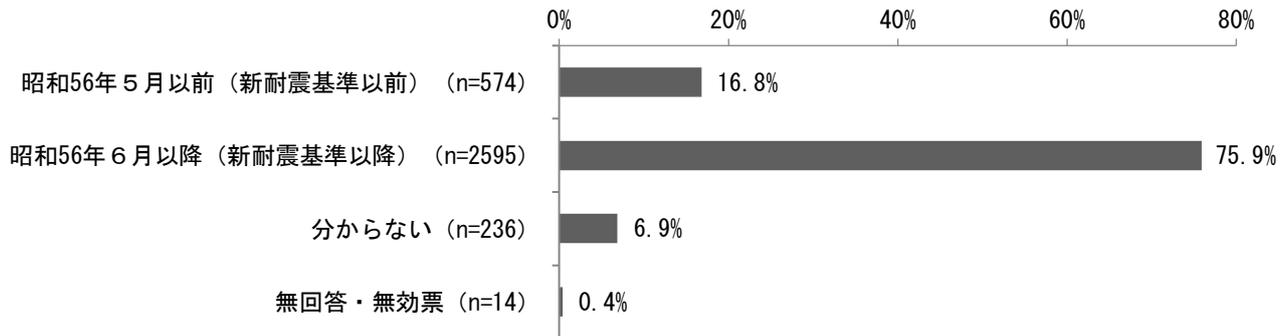
問3 あなたのご自宅は、いつ頃建てられた建物ですか。(1つ選択)

◇昭和56年6月以降(新耐震基準以降)に建設された自宅が7割超

自宅が建設された年代は、「昭和56年6月以降(新耐震基準以降)」が75.9%で、「昭和56年5月以前(新耐震基準以前)」が16.8%となった。

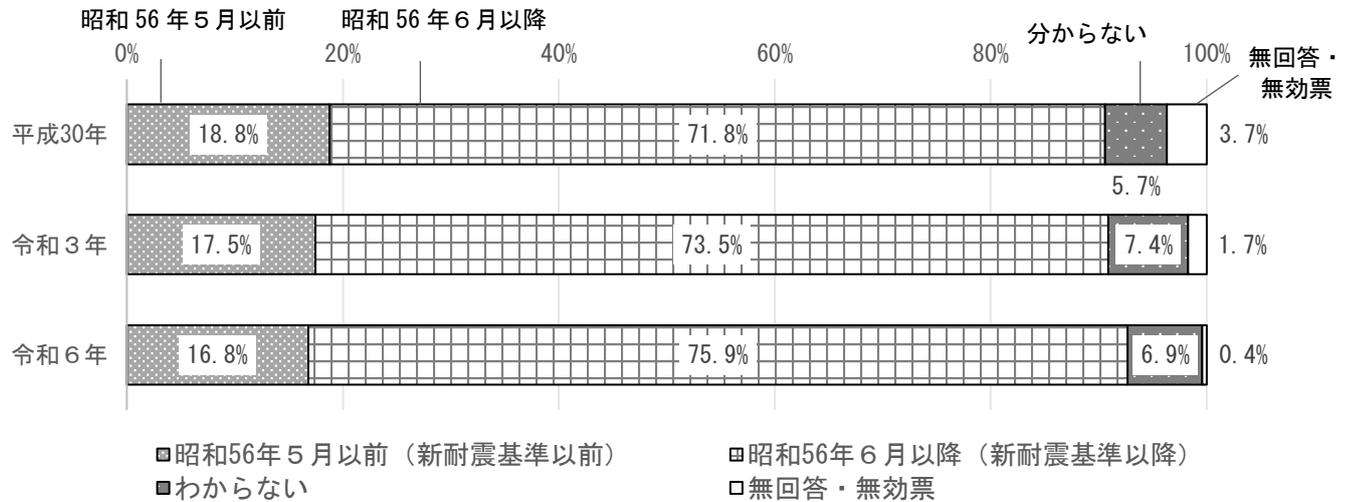
経年比較では、「昭和56年6月(新耐震基準以降)」の割合が年々増加している。

【全体集計】 n=3,419



図表 3-1 : 自宅の耐震化

【経年比較】



図表 3-2 : 自宅の耐震化 経年比較

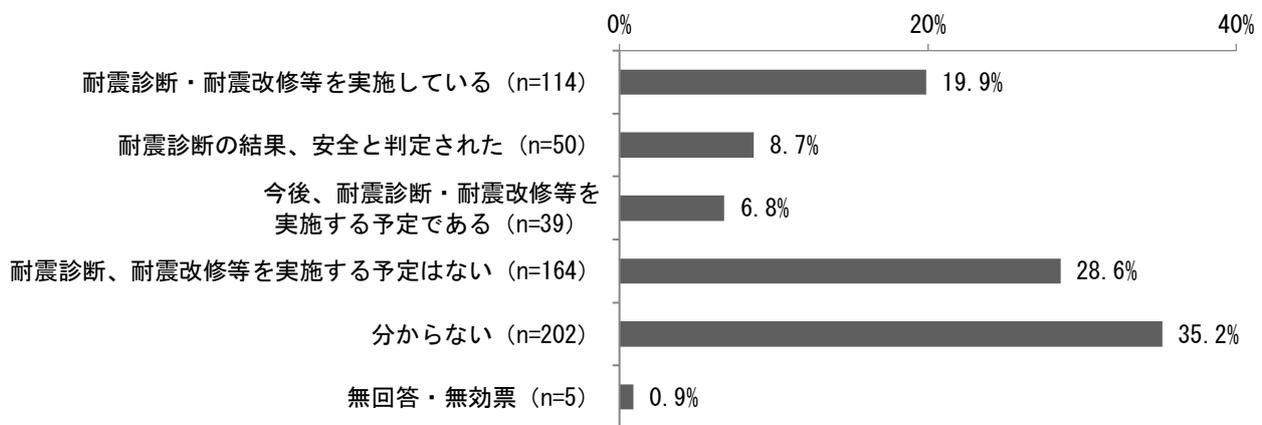
(問3で「昭和56年5月以前」と答えた方はご回答ください)
 問3-1 ご自宅の建物の耐震対策について、該当するものを選んでください。(1つ選択)

◇「耐震診断を実施している」又は「実施予定」が3割超

新耐震基準以前に建築された自宅の耐震対策については、「耐震診断・耐震改修等を実施している」、「耐震診断の結果、安全と判定された」、「今後、耐震診断・耐震改修等を実施する予定である」の合計が35.4%となった。一方で「耐震診断、耐震改修等を実施する予定はない」が28.6%となった。

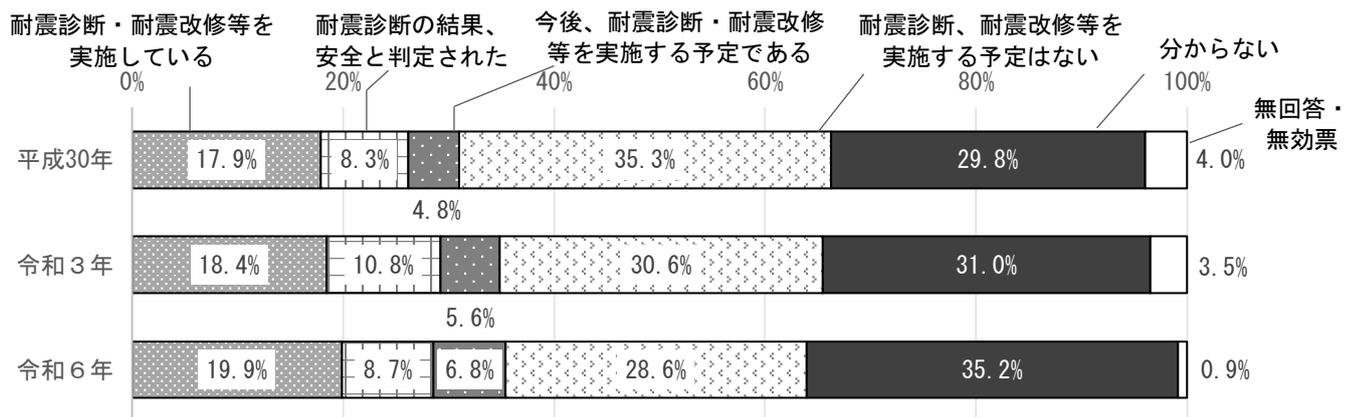
経年比較では、「耐震診断、耐震改修等を実施する予定はない」の割合が年々減少しており、前回調査の30.6%から2ポイント減少し、28.6%となった。また、「耐震診断・耐震改修等を実施している」の割合は年々増加しており、前回調査の18.4%から1.5ポイント増加し、19.9%となった。

【全体集計】 n=574



図表 3-1-1：自宅の耐震対策

【経年比較】



- 耐震診断・耐震改修等を実施している
- 今後、耐震診断・耐震改修等を実施する予定である
- わからない
- 耐震診断の結果、安全と判定された
- 耐震診断、耐震改修等を実施する予定はない
- 無回答・無効票

図表 3-1-2：自宅の耐震対策 経年比較

(問3-1で「耐震診断、耐震改修等を実施する予定はない」と答えた方にご回答ください)
 問3-2 耐震診断を受けていない、あるいは、耐震改修等を実施しない理由について、該当するものを選んでください。(1つ選択)

◇耐震対策をしない理由は「費用がかかるため」が最も多い

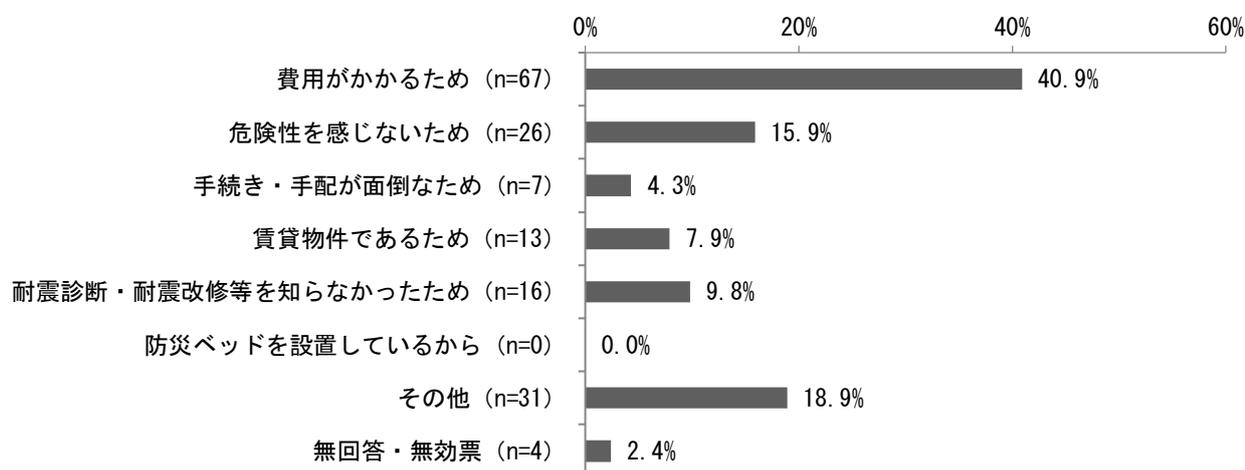
耐震診断、耐震改修等を実施する予定がない理由は、「費用がかかるため」が40.9%と最も多く、次いで「その他」が18.9%、「危険性を感じないため」が15.9%となった。

経年比較では、概ね前回調査と同様の傾向であるが、「費用がかかるため」の割合が年々減少しており、前回調査の48.4%から7.5ポイント減少し、40.9%となった。

また、「耐震診断・耐震改修等を知らなかったため」及び「その他」の割合が年々増加しており、「耐震診断・耐震改修等を知らなかったため」は前回調査の7.9%から1.9ポイント増加し9.8%に、「その他」は前回調査の14.7%から4.2ポイント増加し18.9%となった。

なお、今回調査から追加した「防災ベッドを設置しているから」は0.0%だった。

【全体集計】 n=164

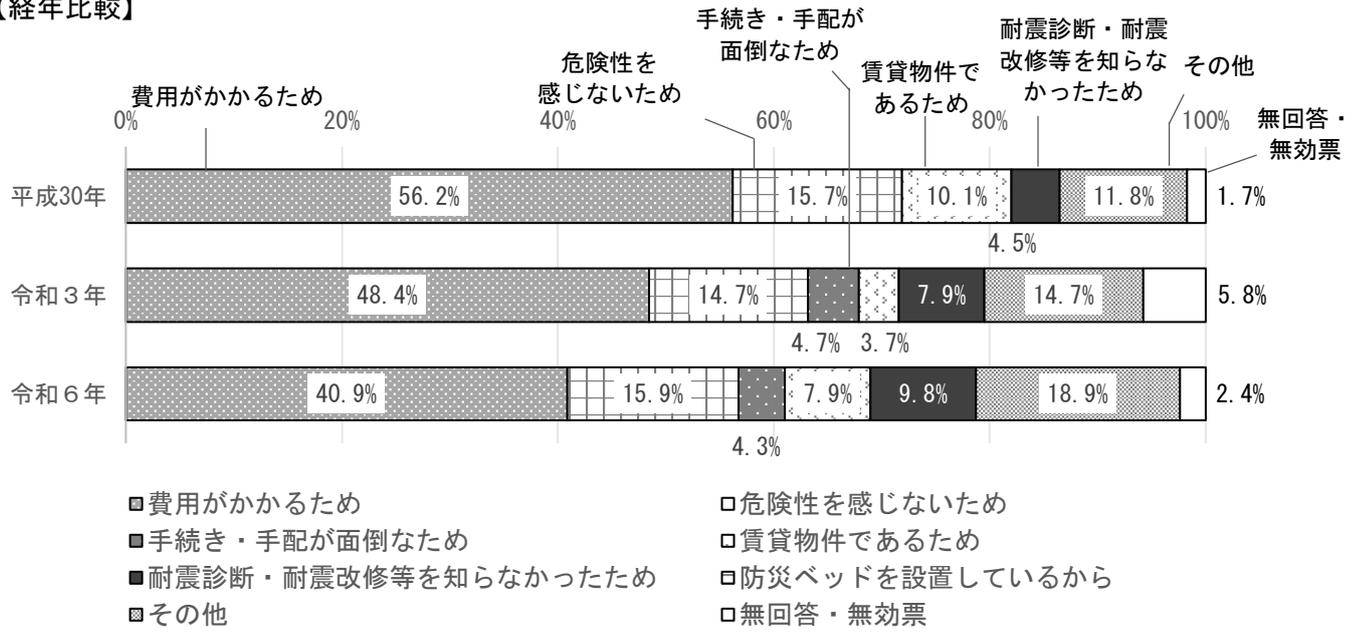


図表 3-2-1：自宅の耐震化をしない理由

※【その他回答】(抜粋、一部要約)

解体・建替え・売却・住み替え予定/必要性を感じない、等

【経年比較】



図表 3-2-2：自宅の耐震化をしない理由 経年比較

※1「手続き・手配が面倒なため」は令和3年調査から追加した選択肢。

※2「防災ベッドを設置しているから」は今回調査からの新設選択肢。

問4 あなたのご自宅では、地震によって転倒するおそれのあるタンスや食器棚等の家具類を固定（転倒防止）していますか（粘着マットも含みます）。（1つ選択）

◇「全ての家具を固定（転倒防止）している」は1割超

家具類の固定については、「全ての家具を固定（転倒防止）している」の割合は12.8%、さらに「固定（転倒防止）が必要な家具類がない」を含めると、22.0%となった。また、「一部の家具を固定（転倒防止）している」は46.5%となった。

経年比較では、「全ての家具を固定（転倒防止）している」の割合が年々増加しており、前回調査の7.5%から5.3ポイント増加し12.8%となった。また、「固定（転倒防止）していない」の割合は年々減少しており、前回調査の36.1%から6.1ポイント減少し30.0%となった。

家族形態別集計では、「固定（転倒防止）していない」の割合が最も高かったのは「ひとり」であり、38.8%である一方、「固定（転倒防止）が必要な家具類が無い」も「ひとり」で最も高く18.9%となった。

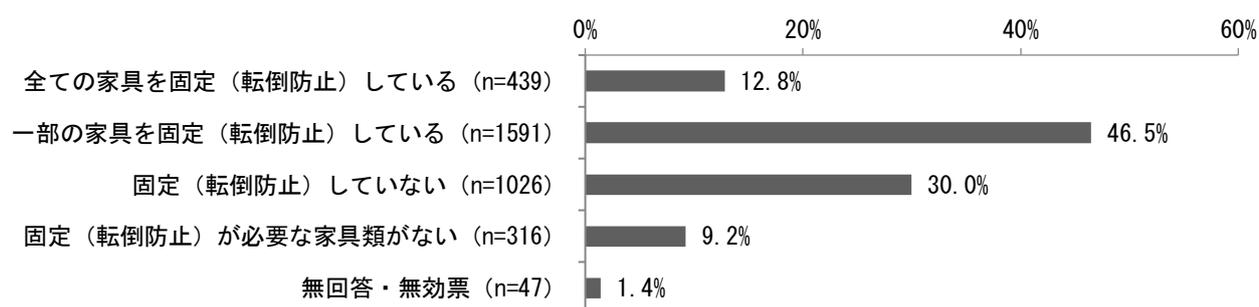
住居形態別集計では、持家のほうが「全ての家具を固定（転倒防止）している」及び「一部の家具を固定（転倒防止）している」を合計した割合が高い傾向にあり、「持ち家（一戸建て）」では63.2%、「持ち家（マンション・共同住宅）」では65.1%となった。

自治会・町内会加入別集計では、加入しているほうが「全ての家具を固定（転倒防止）している」及び「一部の家具を固定（転倒防止）している」を合計した割合が高く、「加入している」では63.7%、「加入していない」では47.1%となった。

食料・飲料水の保有状況別集計では、保有している食料・飲料水で多くの日数を過ごせると答えたほうが「全ての家具を固定（転倒防止）している」及び「一部の家具を固定（転倒防止）している」を合計した割合が概ね高い傾向にあり、「0日」は38.2%だが「5～6日以上」では71.2%となった。

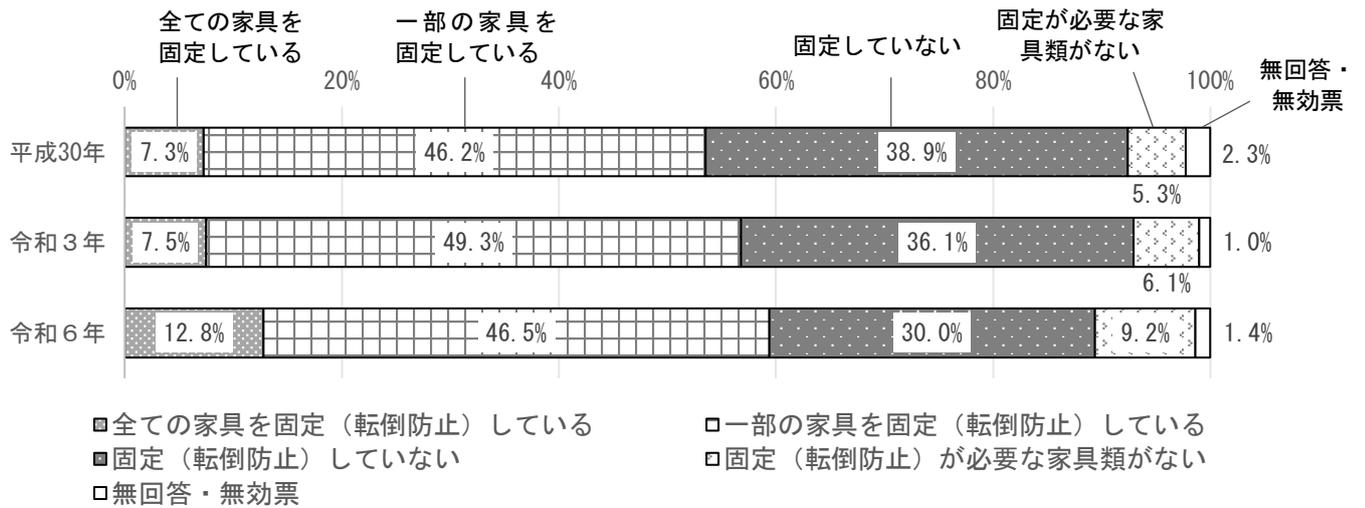
ご自宅の建設が昭和56年5月以前の方の耐震診断・改修等の予定別集計では、「全ての家具を固定（転倒防止）している」及び「一部の家具を固定（転倒防止）している」を合計した割合において、「耐震診断、耐震改修等を実施する予定はない」と回答した方が一番低く54.9%となった。

【全体集計】 n=3,419



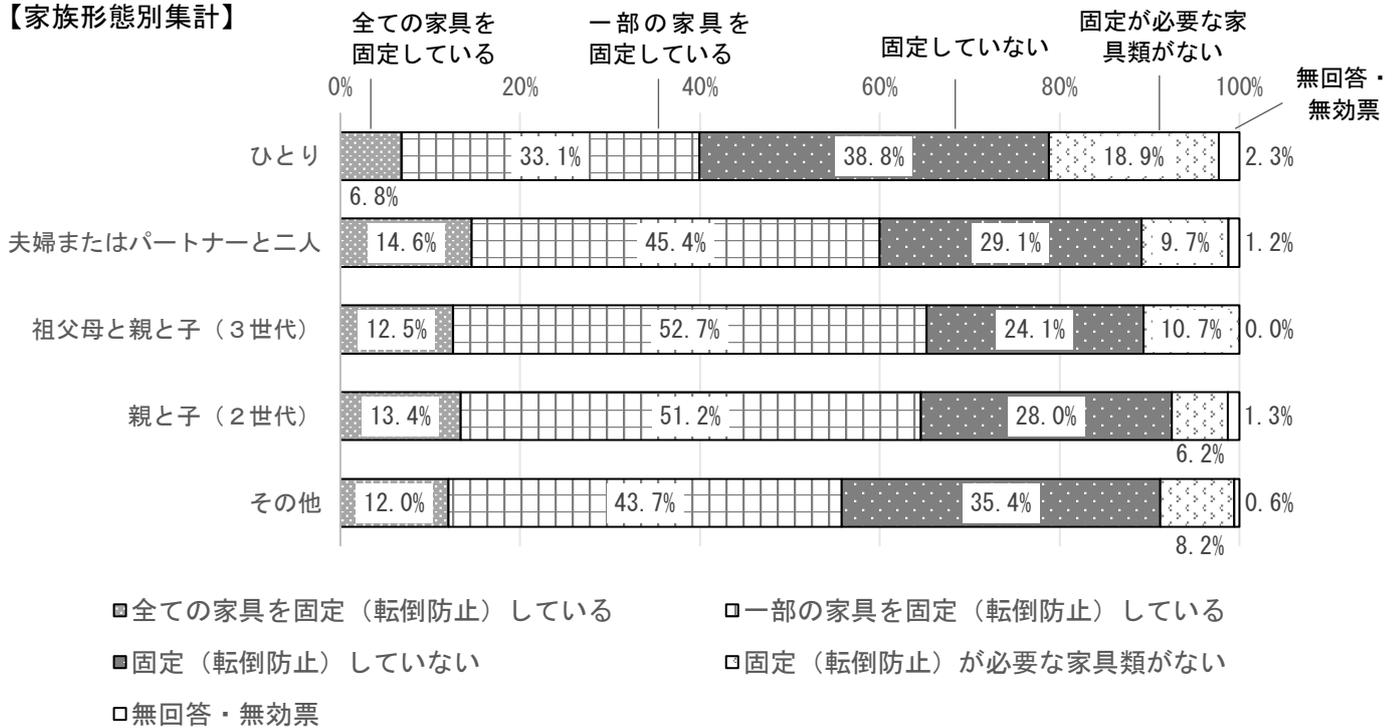
図表 4-1：家具類の固定

【経年比較】



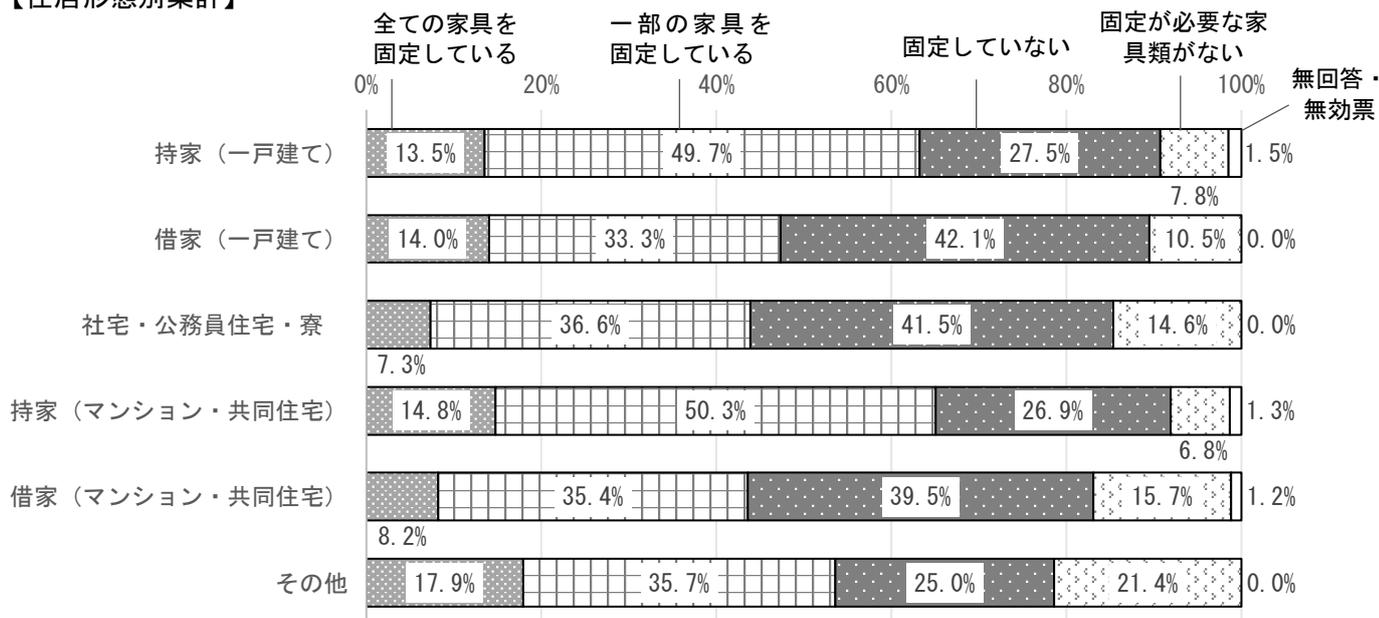
図表 4-2：家具類の固定 経年比較

【家族形態別集計】



図表 4-3：家具類の固定 家族形態別集計

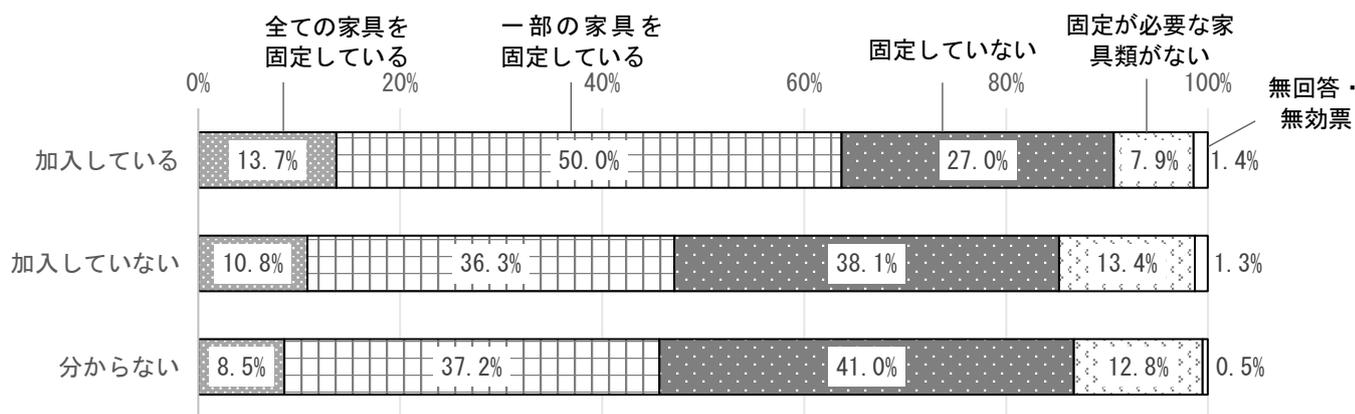
【住居形態別集計】



- 全ての家具を固定（転倒防止）している
- 一部の家具を固定（転倒防止）している
- 固定（転倒防止）していない
- 固定（転倒防止）が必要な家具類がない
- 無回答・無効票

図表 4-4：家具類の固定 住居形態別集計

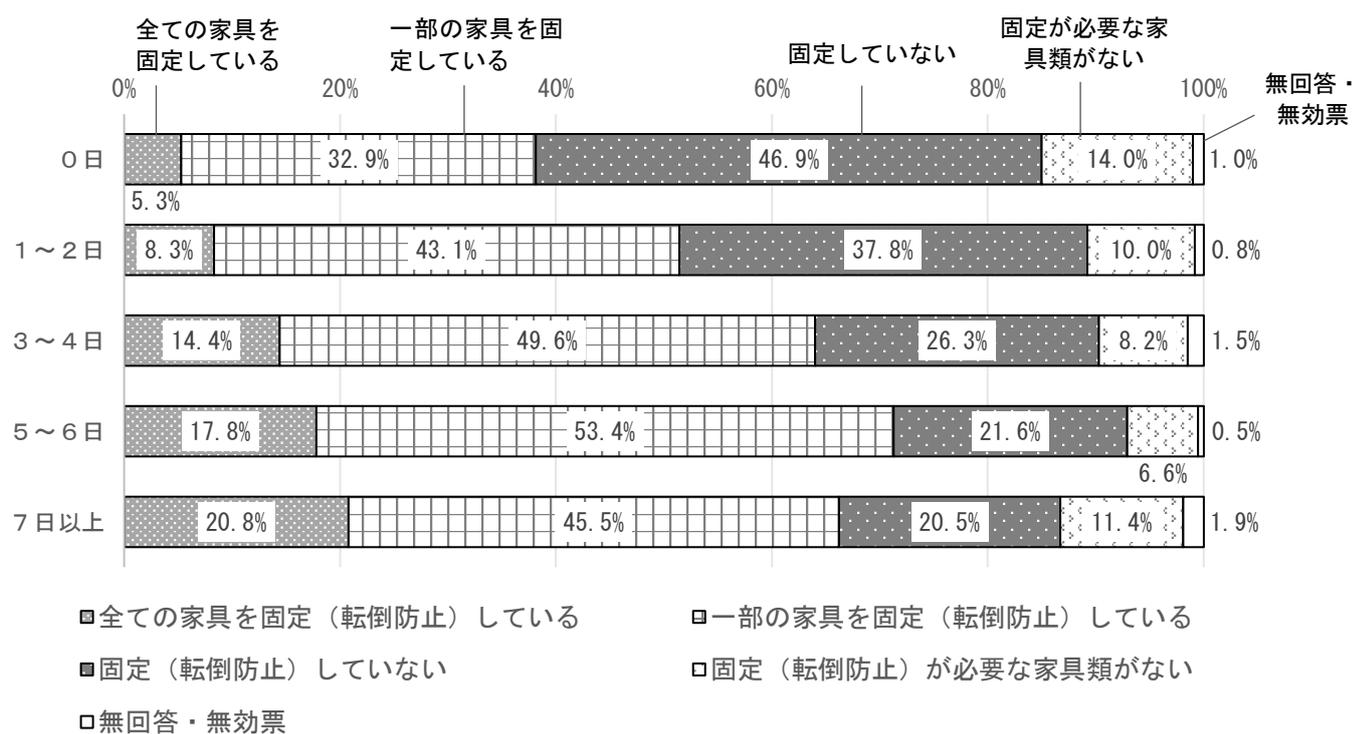
【自治会・町内会加入別集計】



- 全ての家具を固定（転倒防止）している
- 一部の家具を固定（転倒防止）している
- 固定（転倒防止）していない
- 固定（転倒防止）が必要な家具類がない
- 無回答・無効票

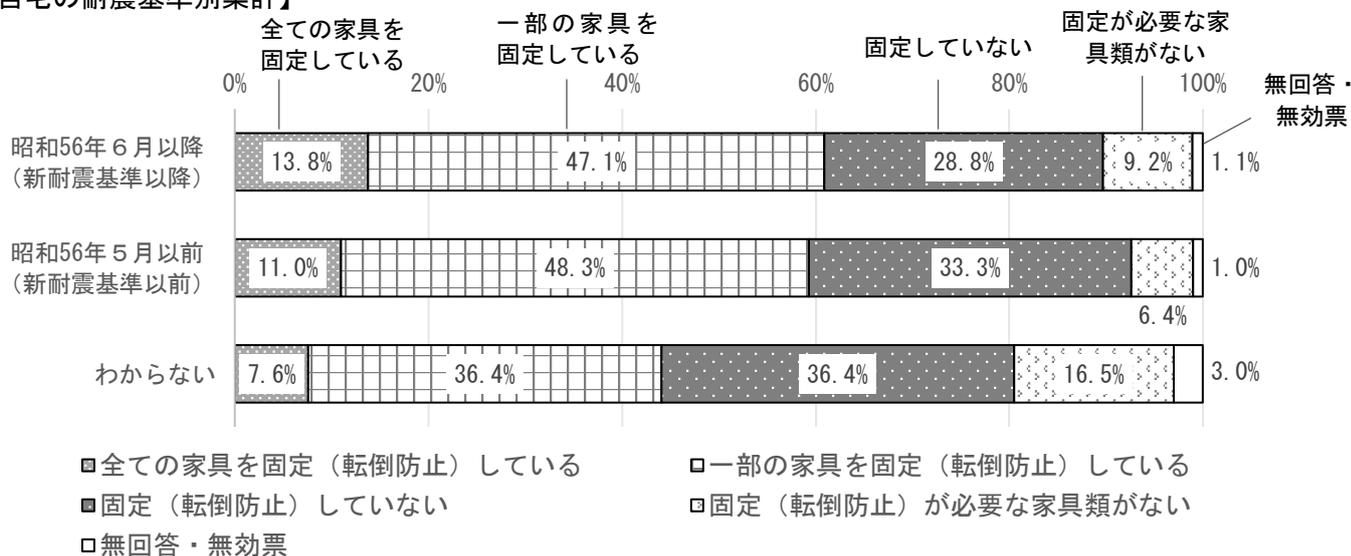
図表 4-5：家具類の固定 自治会・町内会加入別集計

【食料・飲料水の保有状況別集計】



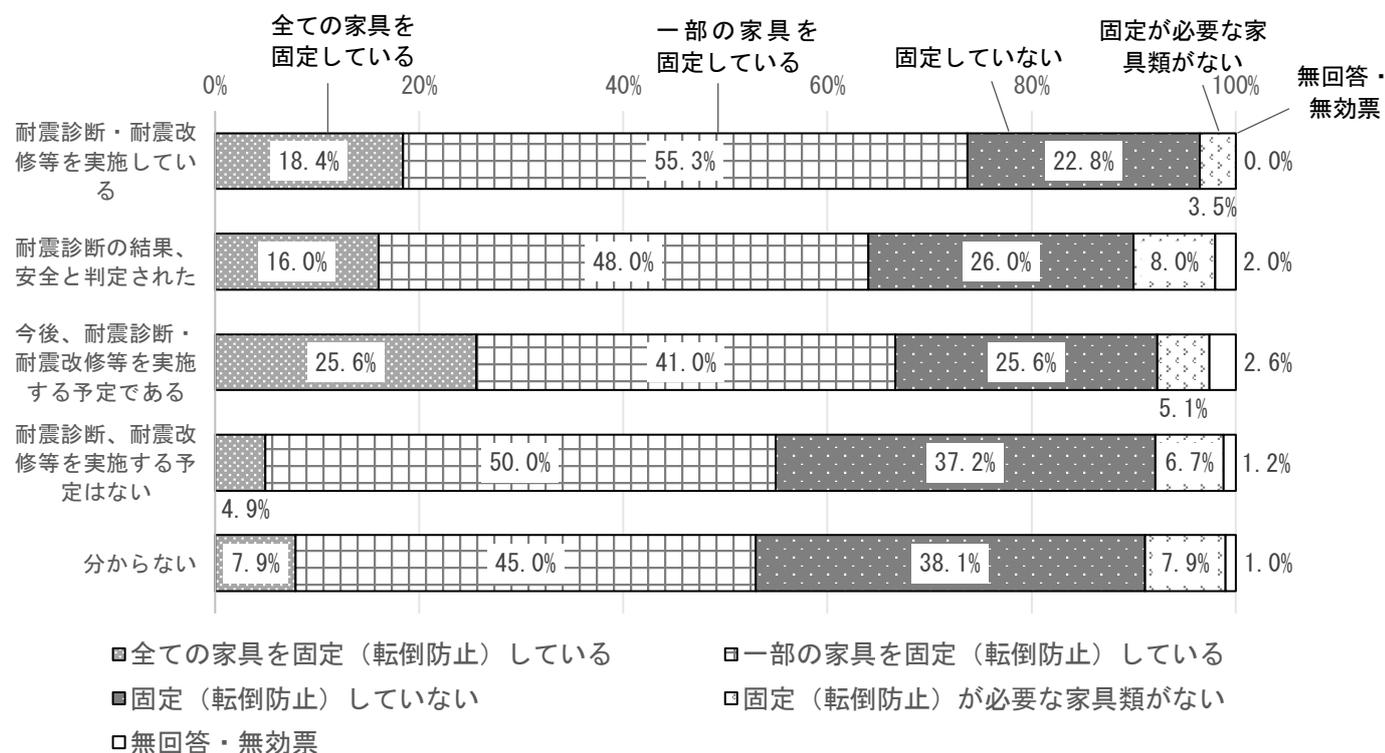
図表 4-6：家具類の固定 食料・飲料水の保有状況別集計

【自宅の耐震基準別集計】



図表 4-7：家具類の固定 自宅の耐震基準別集計

【耐震診断・改修等の予定別集計】※ご自宅が昭和 56 年 5 月以前（新耐震基準以前）の方



図表 4-8 : 家具類の固定 耐震診断・改修等の予定別集計

(問4で「一部の家具を固定(転倒防止)している」または「固定(転倒防止)していない」と答え
た方にご回答ください)

問4-1 あなたが家具類の固定(転倒防止)をしていない(一部のみの固定も含む)理由につい
て、次の中からお選びください。(1つ選択)

◇家具類を固定していない理由は「手間がかかり、面倒だから」が最も多い

家具類を固定していない理由は、「手間がかかり、面倒だから」が23.2%と最も多く、次いで「必要性を感じないから」が18.8%となった。

経年比較では、前回調査と比較して「自分ではできないと思うから(10.3%)」に代わり「その他(11.2%)」が上位5位の中に入っている。

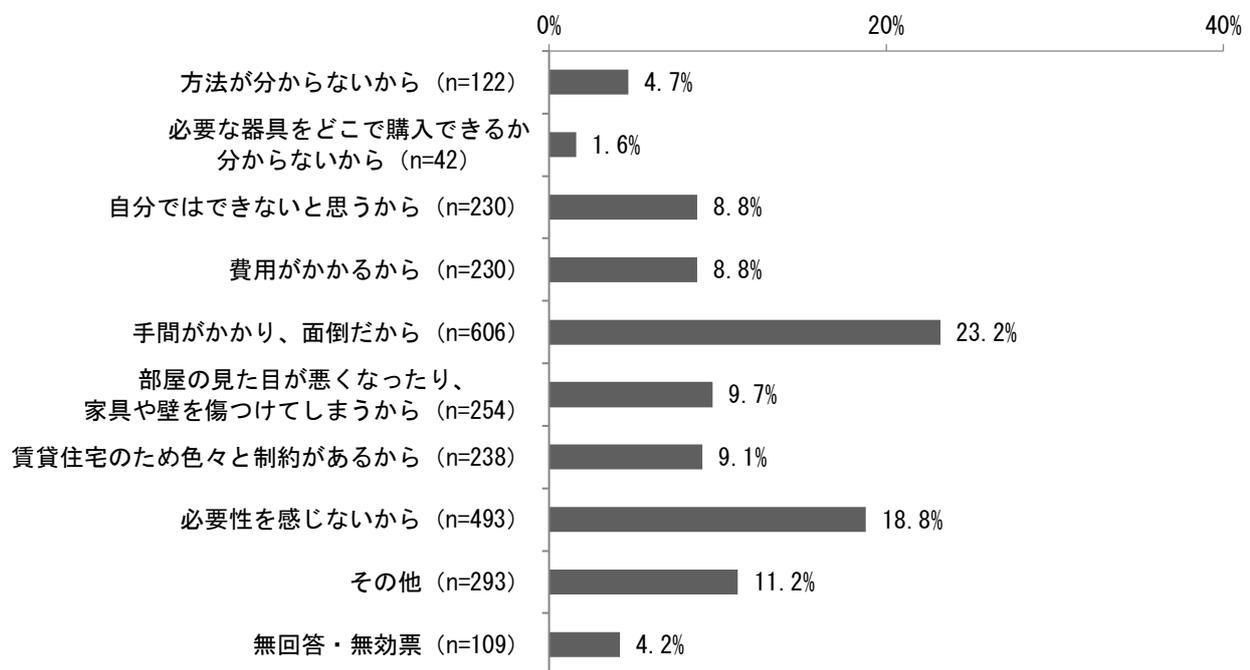
年代別集計では、「70歳代以上」は「必要性を感じないから」が23.6%と最も多く、「10歳代～60歳代」では、「手間がかかり、面倒だから」が最も多かった。

家族形態別集計では、「祖父母と親と子(3世代)」及び「親と子(2世代)」では、「費用がかかるから」がそれぞれ16.3%(3位)、10.5%(5位)となっている。

住居形態別集計では、「借家(一戸建て)」、「社宅・公務員住宅・寮」及び「借家(マンション・共同住宅)」では「賃貸住宅のため色々制約があるから」がそれぞれ1位となり、「持家(一戸建て)」及び「持家(マンション・共同住宅)」では、「手間がかかり、面倒だから」がそれぞれ1位となった。

密集市街地地域別集計では、「対象地域内にある」では「自分ではできないと思うから」が5位となっている一方で、「対象地域内ではない」では、「費用がかかるから」が5位となった。

【全体集計】 n=2,617



図表 4-1-1：家具類を固定しない理由

※【その他回答】(抜粋、一部要約)

高い家具が無い/普段使用しない部屋だから/転倒防止できる部屋の構造ではない/考えていなかった/なんとなくしていない(特に理由はない)、等

【経年比較】※参考 上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
30年 (n=1,043)	手間がかかり、面倒だから 25.8%	必要性を感じないから 23.5%	部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 15.7%	自分ではできないと思うから 11.1%	その他 8.1%
令和3年 (n=1,281)	手間がかかり、面倒だから 24.3%	必要性を感じないから 20.5%	賃貸住宅のため色々 と制約があるから※1 11.8%	自分ではできないと思うから 10.3%	部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 8.5%
令和6年 (n=2,617)	手間がかかり、面倒だから 23.2%	必要性を感じないから 18.8%	その他 11.2%	部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 9.7%	賃貸住宅のため色々 と制約があるから※1 9.1%

図表 4-1-2：家具類を固定しない理由 経年比較

※1 「賃貸住宅のため色々
と制約があるから」は令和3年調査から追加した選択肢。

※2 今回調査から対象者に「一部の家具を固定（転倒防止）している」も含むこととした。

【年代別集計】

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=2,617)	手間がかかり、面倒だから 23.2%	必要性を感じないから 18.8%	その他 11.2%	部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 9.7%	賃貸住宅のため色々 と制約があるから※1 9.1%
10歳代～ 20歳代 (n=243)	手間がかかり、面倒だから 37.9%	賃貸住宅のため色々 と制約があるから※1 12.8%	必要性を感じないから 12.3%	部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 9.7%	費用がかかるから 8.6%
30歳代～ 40歳代 (n=599)	手間がかかり、面倒だから 25.0%	必要性を感じないから 15.0%	部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 14.5%	賃貸住宅のため色々 と制約があるから※1 13.2%	費用がかかるから 11.0%
50歳代～ 60歳代 (n=947)	手間がかかり、面倒だから 24.2%	必要性を感じないから 18.8%	その他 13.6%	費用がかかるから 9.9%	部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 9.8%
70歳代以上 (n=763)	必要性を感じないから 23.6%	自分ではできないと思うから 15.7%	手間がかかり、面倒だから 15.5%	その他 13.8%	部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 6.3%

図表 4-1-3：家具類を固定しない理由 年代別集計

※1 「賃貸住宅のため色々
と制約があるから」は令和3年調査から追加した選択肢

【家族形態別集計】

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=2,617)	手間がかかり、面倒だから 23.2%	必要性を感じないから 18.8%	その他 11.2%	部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 9.7%	賃貸住宅のため色々制約があるから※1 9.1%
ひとり (n=315)	賃貸住宅のため色々制約があるから※1 19.0%	手間がかかり、面倒だから 18.4%	自分ではできないと思うから 14.6%	必要性を感じないから 13.0%	その他 7.6%
夫婦またはパートナーと二人 (n=832)	必要性を感じないから 21.9%	手間がかかり、面倒だから 21.0%	その他 13.8%	賃貸住宅のため色々制約があるから※1 10.1%	部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 9.5%
祖父母と親子 (3世代) (n=86)	手間がかかり、面倒だから 24.4%	必要性を感じないから 20.9%	費用がかかるから 16.3%	自分ではできないと思うから 11.6%	部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 8.1%
親と子 (2世代) (n=1,197)	手間がかかり、面倒だから 25.9%	必要性を感じないから 17.9%	部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから/その他(同率) 10.7%		費用がかかるから 10.5%
その他 (n=125)	必要性を感じないから/手間がかかり、面倒だから(同率) 20.0%		部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 14.4%	その他 12.0%	自分ではできないと思うから 8.8%

図表 4-1-4：家具類を固定しない理由 家族形態別集計

※1 「賃貸住宅のため色々制約があるから」は令和3年調査から追加した選択肢

【住居形態別集計】

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=2,617)	手間がかかり、面倒だから 23.2%	必要性を感じないから 18.8%	その他 11.2%	部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 9.7%	賃貸住宅のため色々制約があるから※1 11.8%
持家 (一戸建て) (n=1,251)	手間がかかり、面倒だから 24.3%	必要性を感じないから 21.8%	その他 13.1%	自分ではできないと思うから 10.6%	部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 10.2%
借家 (一戸建て) (n=43)	賃貸住宅のため色々制約があるから※1 39.5%	手間がかかり、面倒だから 20.9%	必要性を感じないから 9.3%	自分ではできないと思うから 7.0%	費用がかかるから 4.7%
社宅・公務員住宅・寮 (n=32)	賃貸住宅のため色々制約があるから※1 31.3%	手間がかかり、面倒だから 25.0%	必要性を感じないから 15.6%	方法が分からないから/費用がかかるから (同率) 12.5%	
持家 (マンション・共同住宅) (n=784)	手間がかかり、面倒だから 24.4%	必要性を感じないから 21.4%	その他 13.1%	部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 12.8%	自分ではできないと思うから 8.9%
借家 (マンション・共同住宅) (n=487)	賃貸住宅のため色々制約があるから※1 41.5%	手間がかかり、面倒だから 18.5%	費用がかかるから/必要性を感じないから (同率) 8.4%	その他 4.7%	

図表 4-1-5：家具類を固定しない理由 住居形態別集計

※1 「賃貸住宅のため色々制約があるから」は令和3年調査から追加した選択肢

【密集市街地地域別集計】

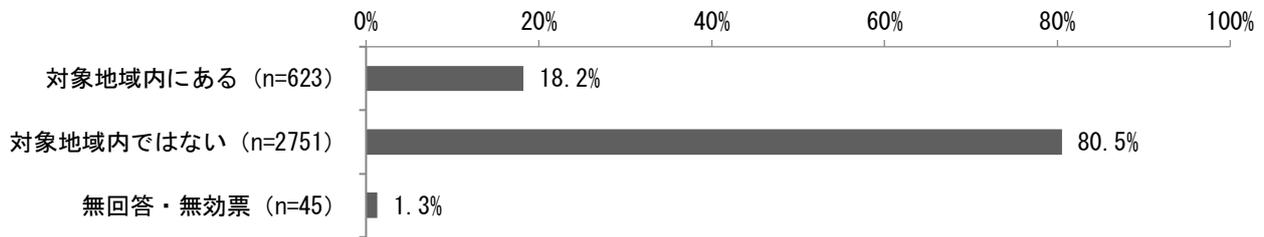
	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=2,617)	手間がかかり、面倒だから 23.2%	必要性を感じないから 18.8%	その他 11.2%	部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 9.7%	賃貸住宅のため色々制約があるから※1 11.8%
対象地域内にある (n=465)	手間がかかり、面倒だから 23.4%	必要性を感じないから 20.4%	賃貸住宅のため色々制約があるから※1 11.0%	その他 10.5%	自分ではできないと思うから 8.2%
対象地域内ではない (n=2,123)	手間がかかり、面倒だから 23.4%	必要性を感じないから 18.6%	その他 11.3%	部屋の見た目が悪くなったり、家具や壁を傷つけてしまうから 10.1%	費用がかかるから 9.1%

図表 4-1-6：家具類を固定しない理由 密集市街地地域別集計

※1 「賃貸住宅のため色々制約があるから」は令和3年調査から追加した選択肢

問5 あなたのご自宅は横浜市が指定する「密集市街地※」の対象区域内にありますか。
 ※密集市街地については、P.24の町名をご確認ください。(1つ選択)

【全体集計】 n=3,419



図表 5-1 : 密集市街地

問6 地震による停電から復旧した際に、切れた電源コードや倒れた電気ヒーター等の器具に電気が流れて「通電火災」が発生することがあります。通電火災の発生を防ぐため、地震時に自宅から離れる際、自らブレーカーを落とすことが有効であることを知っていますか。
 (1つ選択)

◇有効であることを知っている人は7割超

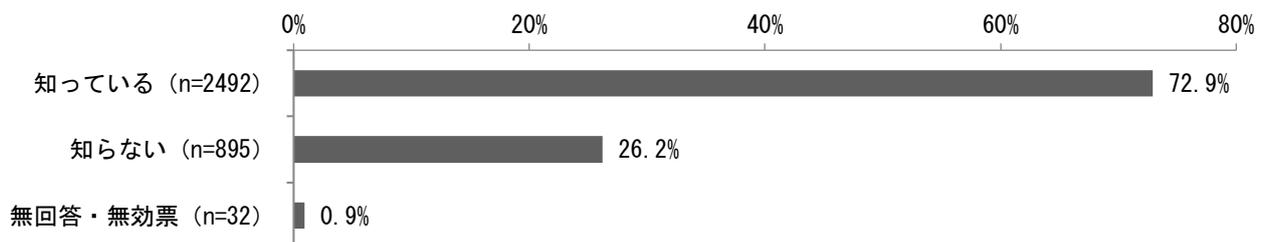
通電火災の発生を防ぐため、地震時に自宅から離れる際、自らブレーカーを落とすことが有効であることを「知っている」が72.9%、「知らない」が26.2%となった。

密集市街地地域別集計では、「対象地域内にある」で「知っている」の割合が全体集計より2.4ポイント高い75.3%となった。

年代別集計では、「知っている」の割合が「70歳代以上」で最も高く84.5%となり、「知らない」の割合は「20歳代」で最も高く、46.2%となった。

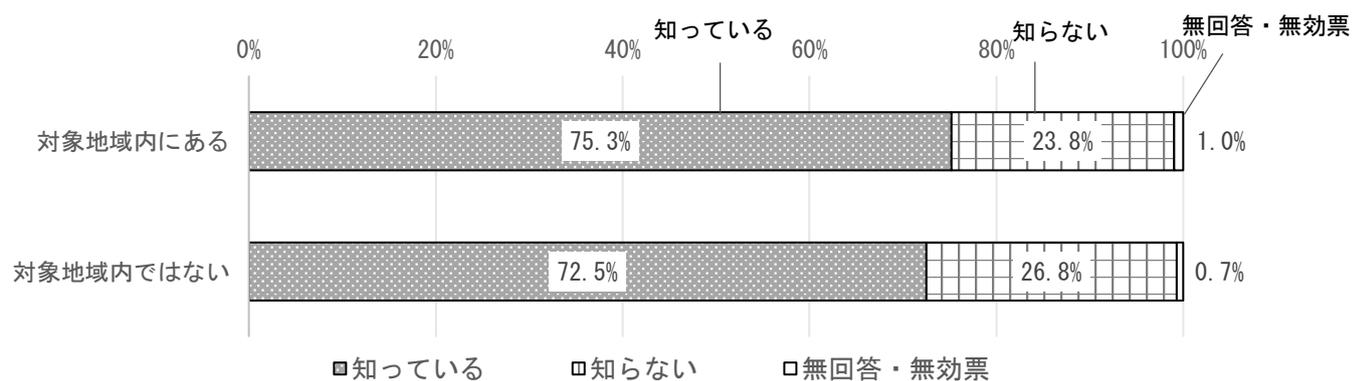
住居形態別集計では、「知っている」の割合が「借家（一戸建て）」で最も高く77.2%となり、「知らない」の割合は「借家（マンション・共同住宅）」で最も高く33.8%となった。

【全体集計】 n=3,419



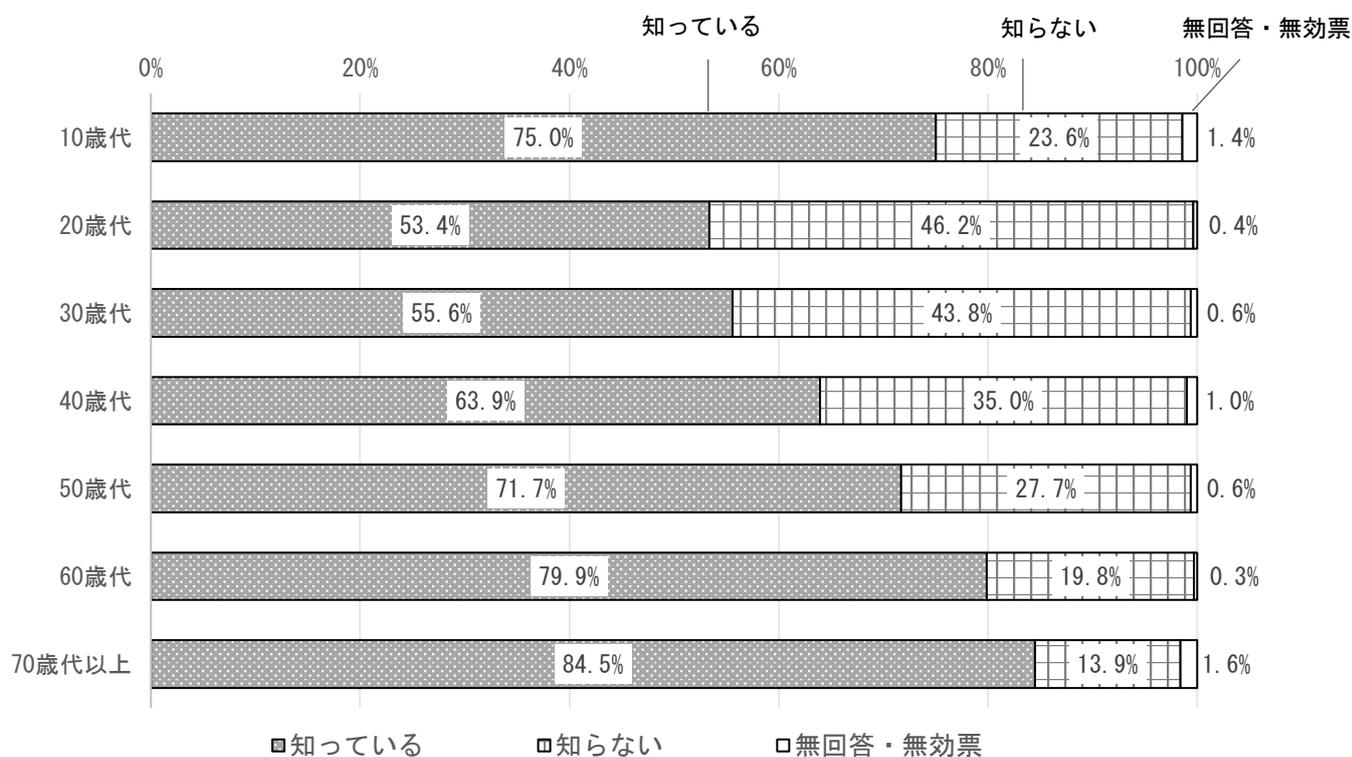
図表 6-1 : 地震時のブレーカー

【密集市街地地域別集計】



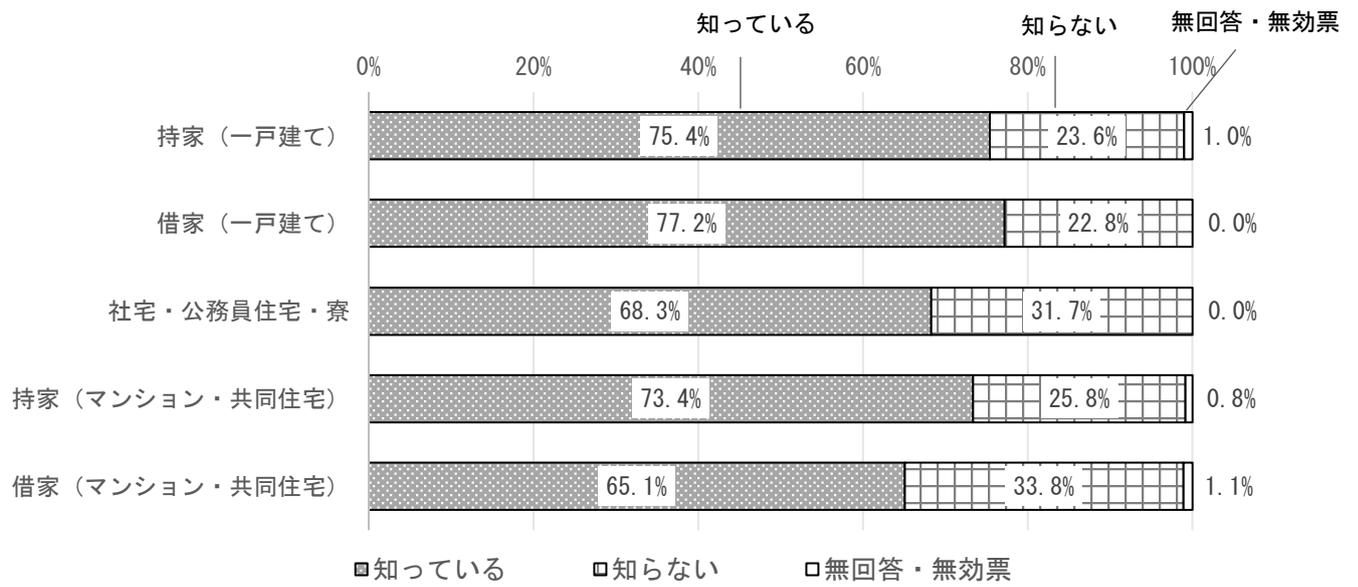
図表 6-2：地震時のブレイカー 密集市街地地域別集計

【年代別集計】



図表 6-3：地震時のブレイカー 年代別集計

【住居形態別集計】



図表 6-4：地震時のブレーカー 住居形態別集計

問7 あなたのご自宅では、通電火災の発生を防ぐために有効な「感震ブレーカー」を設置していますか。(1つ選択)

◇感震ブレーカーは「設置している」が約3割

感震ブレーカーの設置状況は、「設置している」の割合が30.1%となった。

また、前回調査から「設置していないが、今後設置する予定である」の割合が大きく減り、22.6ポイント減の12.6%となった一方で、「設置しておらず今後設置する予定もない」の割合が大きく増え、27.6ポイント増の52.4%となった。

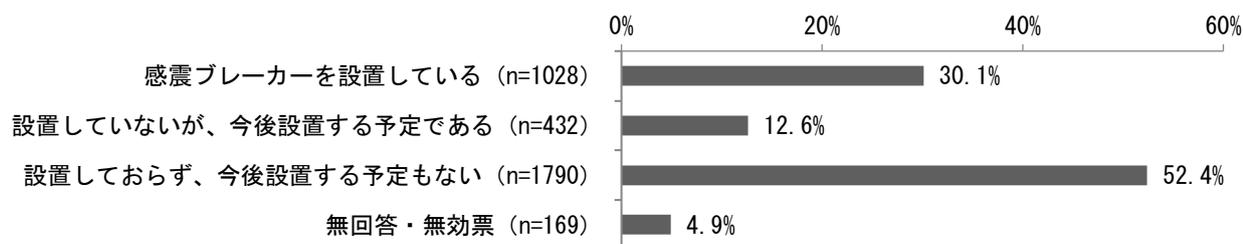
密集市街地地域別集計では、「対象地域内にある」方が「感震ブレーカーを設置している」割合が高く、31.3%となった。

訓練参加実績別集計では、「いずれかの訓練に参加したことがある」方が「感震ブレーカーを設置している」割合が高く、34.4%となった。

自治会町内会加入別集計では、「加入している」方が「感震ブレーカーを設置している」割合が高く、31.7%となった。

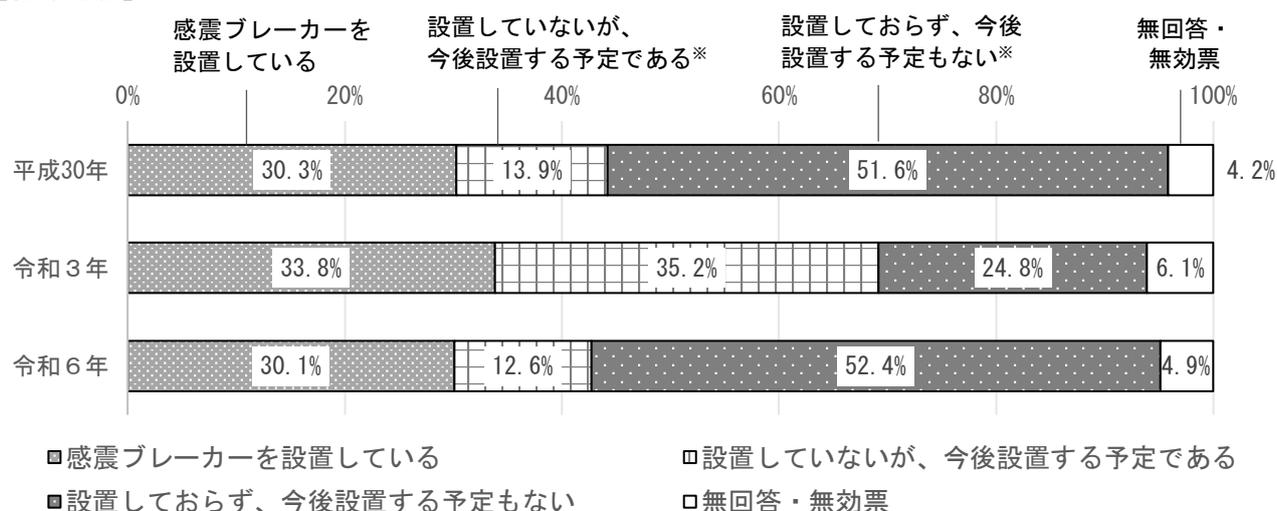
住居形態別集計では、「社宅・公務員住宅・寮」で「感震ブレーカーを設置している」割合が著しく低く、12.2%となった。

【全体集計】 n=3,419



図表 7-1：感震ブレーカーの設置状況

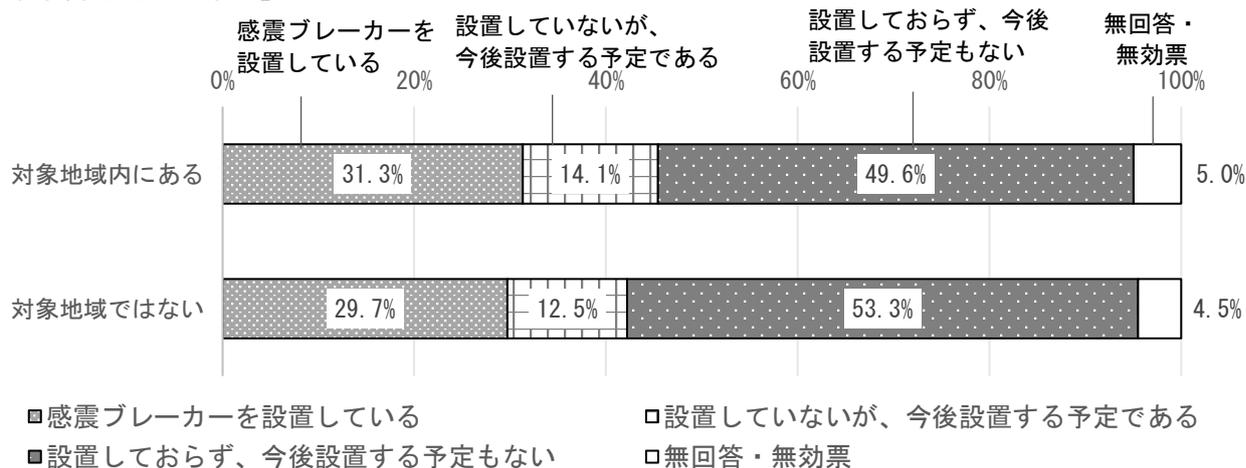
【経年比較】



図表 7-2：感震ブレーカーの設置状況 経年比較

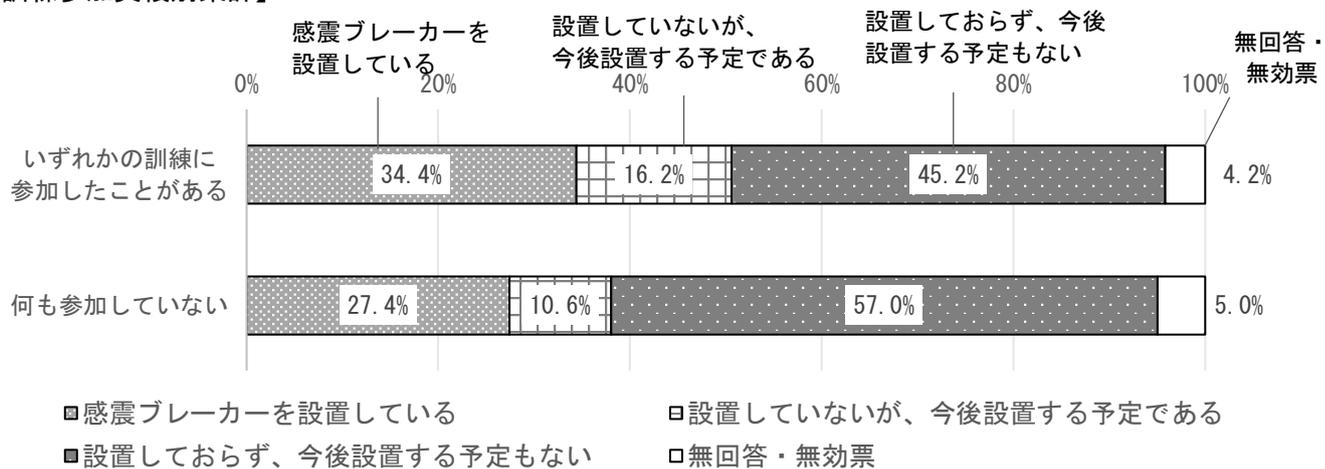
※前回調査（令和3年度）まで「今後設置したい」としていたものを「設置していないが、今後設置する予定である」、「設置していない」としていたものを「設置しておらず、今後設置する予定もない」と整理して今年度調査は比較。

【密集市街地地域別集計】



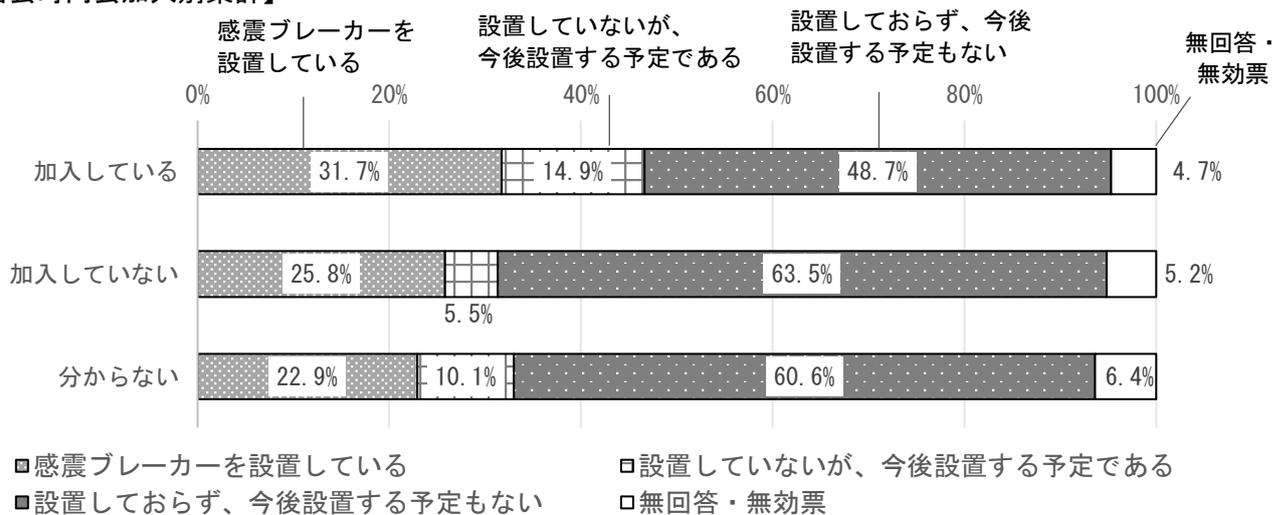
図表 7-3：感震ブレーカーの設置状況 密集市街地地域別集計

【訓練参加実績別集計】



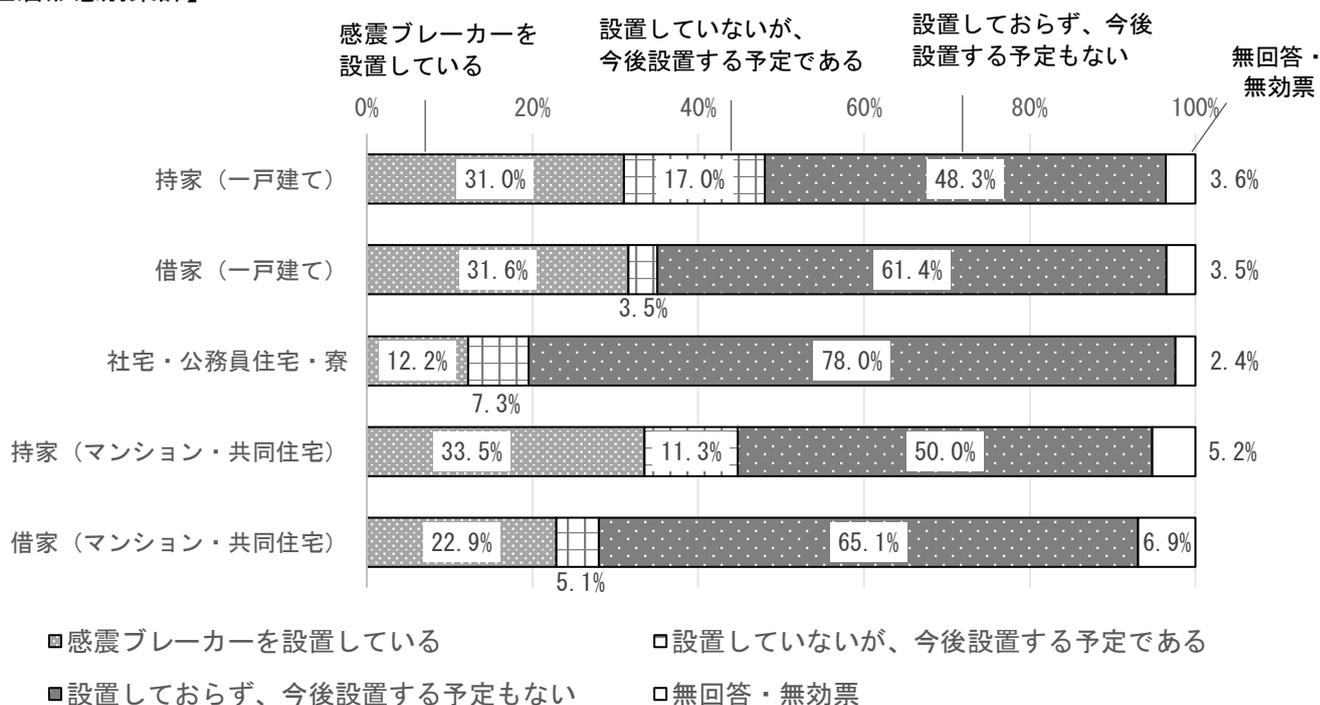
図表 7-4：感震ブレーカーの設置状況 訓練参加実績別集計

【自治会町内会加入別集計】



図表 7-5：感震ブレーカーの設置状況 自治会町内会加入別集計

【住居形態別集計】



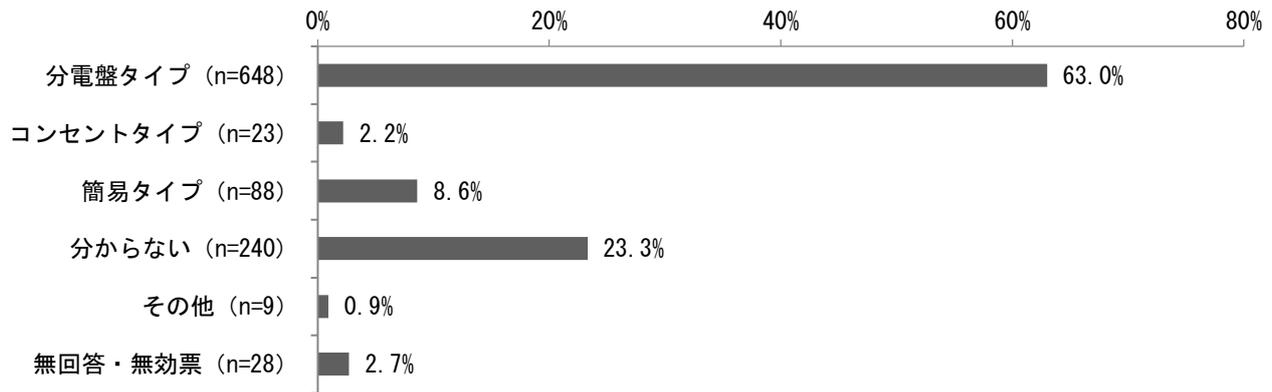
図表 7-6：感震ブレーカーの設置状況 住居形態別集計

(問7で「感震ブレーカーを設置している」と答えた方にご回答ください)
 問7-1 あなたが設置している「感震ブレーカー」のタイプは、次のうちどれですか。
 (該当するものすべて選択)

◇感震ブレーカーで最も多いのは「分電盤タイプ」

感震ブレーカーのタイプでは、「分電盤タイプ」が63.0%と最も多く、次いで「簡易タイプ」が8.6%となった。

【全体集計】 n=1,028



図表 7-1-1 : 感震ブレーカーのタイプ

【経年比較】 ※参考 上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
30年 (n=321)	分電盤タイプ 72.9%	簡易タイプ 12.1%	わからない 11.8%	コンセントタイプ 1.6%	その他 0.3%
令和3年 (n=430)	分電盤タイプ 62.6%	分からない 17.0%	簡易タイプ 15.3%	コンセントタイプ 2.3%	その他 0.2%
令和6年 (n=1,028)	分電盤タイプ 63.0%	分からない 23.3%	簡易タイプ 8.6%	コンセントタイプ 2.2%	その他 0.9%

図表 7-1-2 : 感震ブレーカーのタイプ 経年比較

※【その他回答】(抜粋、一部要約)

ブレーカーの種類が分からない/デベロッパーが設置した

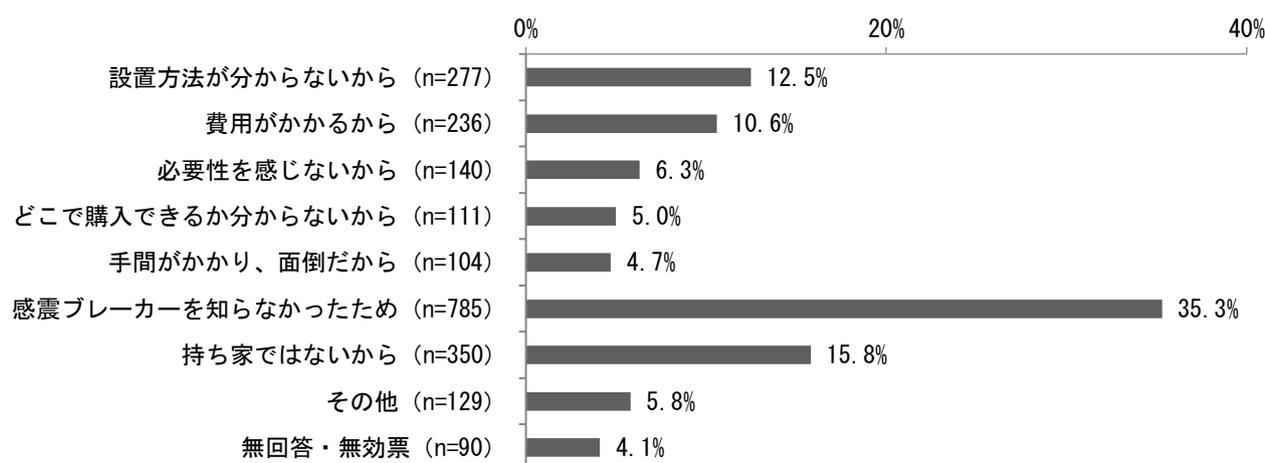
(問7で「設置していないが、今後設置する予定である」または「設置しておらず、今後設置する予定もない」と答えた方はご回答ください)

問7-2 あなたが「感震ブレーカー」を設置していなかった理由は、次のうちのどれですか。
(1つ選択)

◇設置していない理由は「感震ブレーカーを知らなかったため」が最も多い

感震ブレーカーを設置していない理由は、「感震ブレーカーを知らなかったため」が35.3%と最も多く、次いで「持ち家ではないから」が15.8%、「設置方法が分からないから」が12.5%となった。

【全体集計】 n=2,222

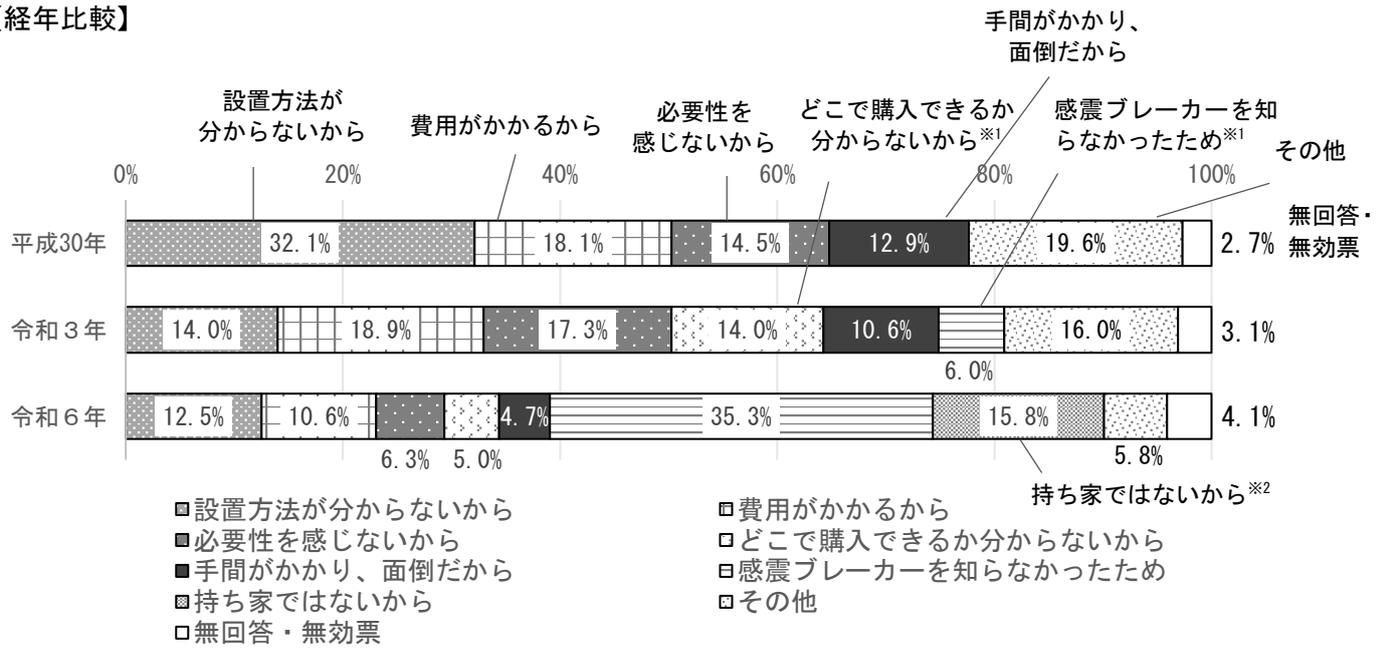


図表 7-2-1：感震ブレーカーを設置しない理由

※【その他回答】(抜粋、一部要約)

解体予定/設置する場所が無い/自分でブレーカーを落とせる/マンション全体での対応となるから、他

【経年比較】



図表 7-2-2 : 感震ブレーカーを設置しない理由 経年比較

※1「どこで購入できるか分からないから」「感震ブレーカーを知らなかったため」は令和3年調査から追加した選択肢。

※2「持ち家ではないから」は今回調査からの新設選択肢。

2. 災害への備えや避難について

(1) あなたのご家庭での日ごろからの災害対策

問8 災害が起こった場合、あなたのご家庭に今ある食料、飲料水（1人1日あたりの目安は3リットル以上）でお住いの家族全員がおよそ何日過ごすことができますか。（1つ選択）

◇ご家庭にある食料、飲料水で「一日以上過ごせる」が9割超

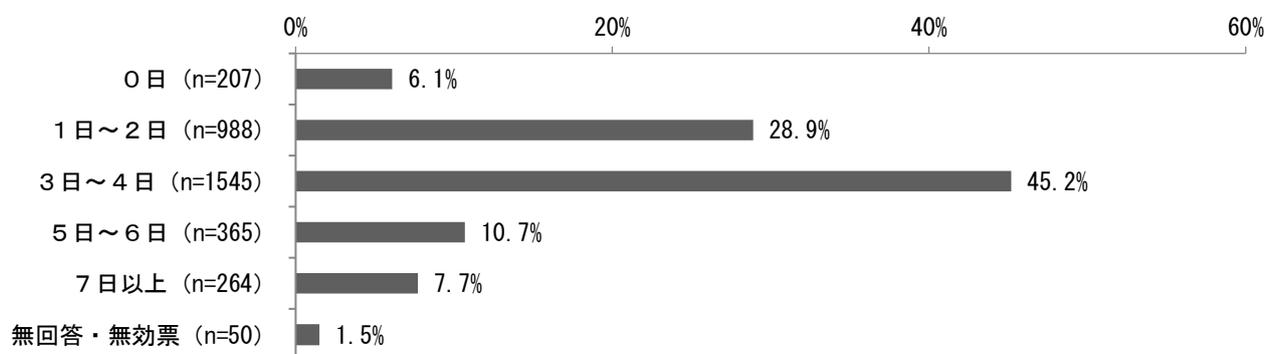
家庭にある食料、飲料水でおよそ何日過ごすことができるかについては、「1日以上」と答えた人の割合の合計は92.5%となり、「3日以上」と答えた人の割合の合計は63.6%となった。

経年比較では、「3日以上」と答えた割合が前回調査から15.8ポイント上昇したこととなった。

家族形態別集計では、「ひとり」が「3日以上」と答えた割合が最も低い結果となった。

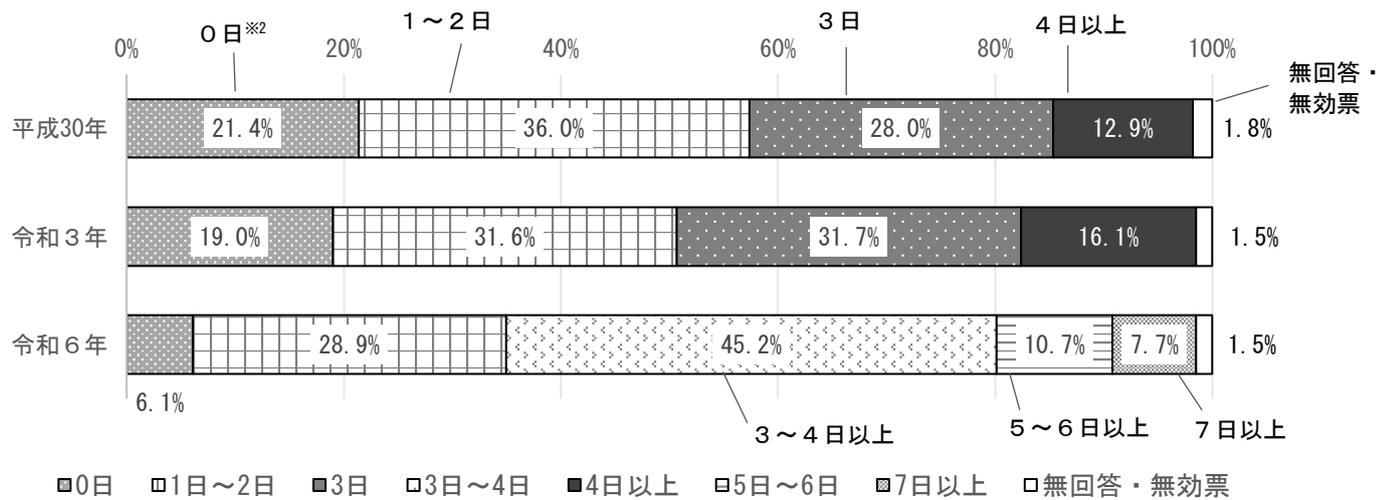
住居形態別集計では、借家よりも持家の方が「3日以上」と答えた割合が高い傾向にある。

【全体集計】 n=3,419



図表 8-1：災害への備えとしての食料、飲料水

【経年比較】



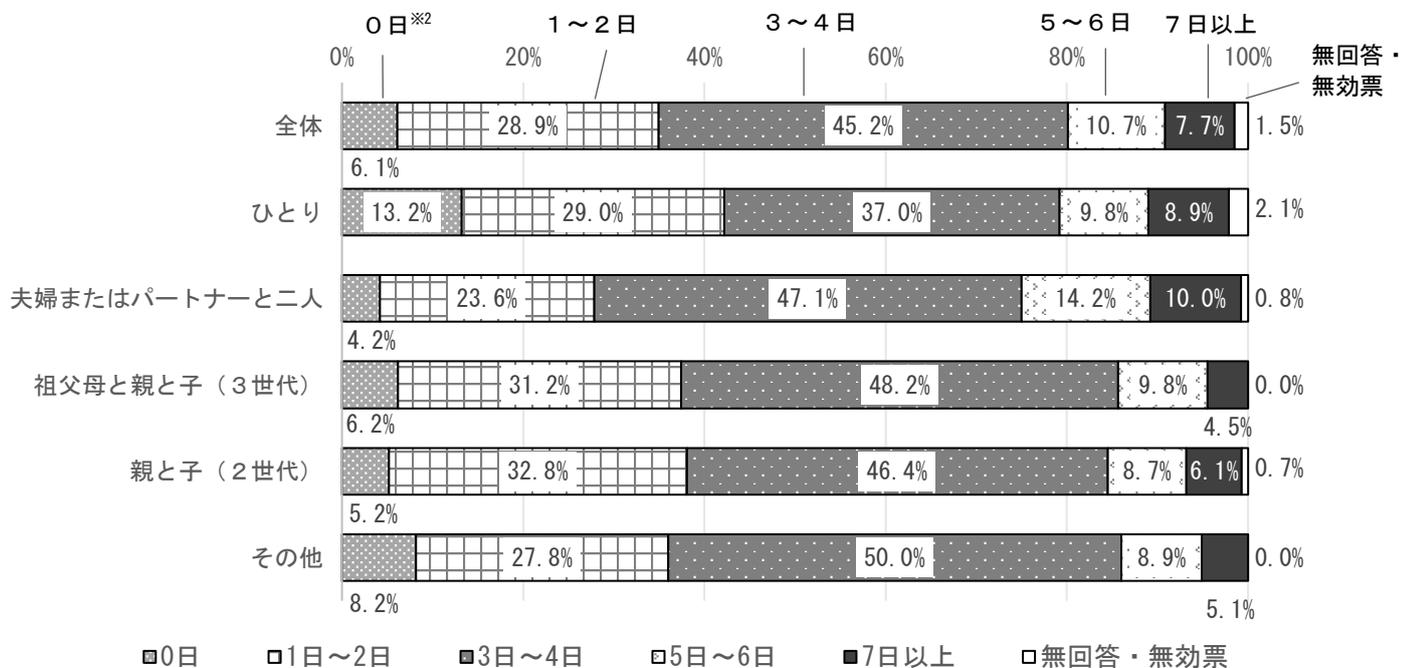
図表 8-2：災害への備えとしての食料、飲料水 経年比較

※1 今回調査から、従来の災害に備える視点から、日常の家の状態で何日過ごせるかといったシームレスな取組に繋げる視点を意識した設問内容へと変えた。

※2 平成30年、令和3年調査では「準備していない」としていた選択肢を、経年比較を行うにあたり「0日」に整理し比較を行っている。

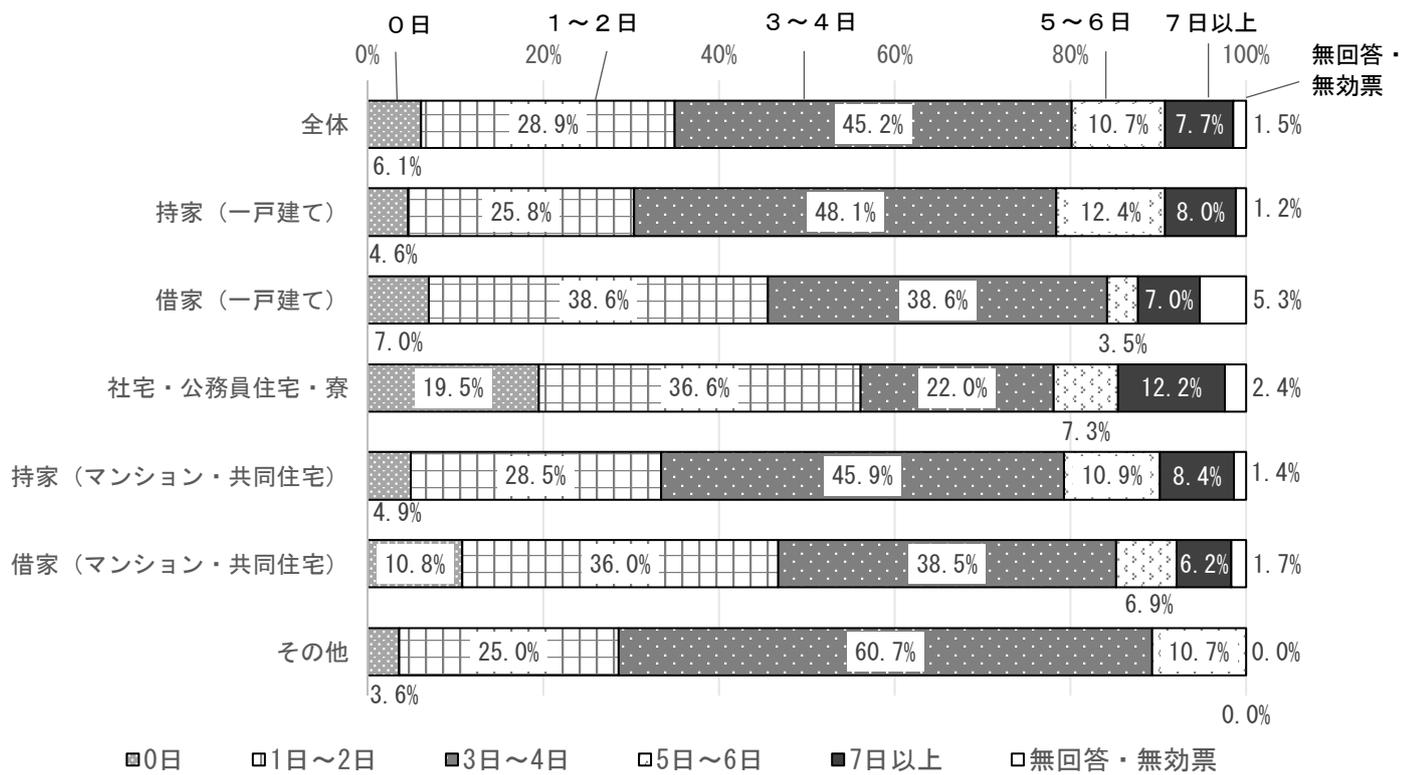
※3 今回調査から、前回調査まで「3日」及び「4日以上」としていた選択肢を「3～4日以上」に整理し、更に「5～6日以上」及び「7日以上」の選択肢を追加した。

【家族形態別集計】



図表 8-3：災害への備えとしての食料、飲料水 家族形態別集計

【住居形態別集計】



図表 8-4：災害への備えとしての食料、飲料水 住居形態別集計

(問8で「0日」または「1日～2日」と答えた方はご回答ください)

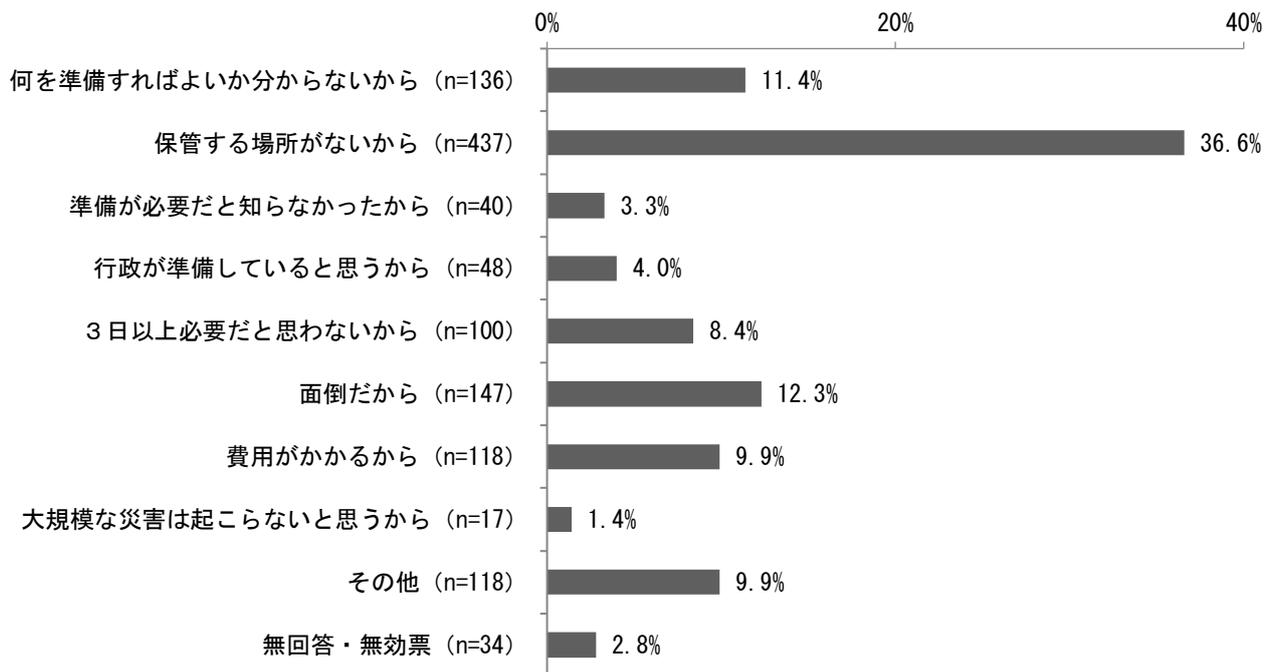
問8-1 横浜市では、ローリングストック法などを活用し、ご家族全員分の食料や飲料水を3日以上、日常的に用意することを推奨しています。あなたのご家庭で、3日以上以上の食料や飲料水の準備をしていない、又はできない主な理由は何ですか。(1つ選択)

◇準備していない理由は「保管する場所がないから」が最も多い

食料や飲料水を準備していない理由は、「保管する場所がないから」が36.6%と最も多く、次いで「面倒だから」が12.3%となった。

経年比較では、「保管する場所がないから」が前年調査の17.6%(2位)から19ポイント増加し、36.6%(1位)となった。

【全体集計】n=1,195



図表 8-1-1 : 災害への備えを準備していない理由 (食料・飲料水)

※【その他回答】(抜粋、一部要約)

食料はあるが水は3日以上無い/準備する予定である/うまくローリングストックできない、等

【経年比較】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
平成30年 (n=575)	保管する場所がないから 18.4%	その他 16.7%	急いで準備する必要はないと思うから 13.4%	何を準備すればよいか分からないから 12.9%	特になし 12.5%
令和3年 (n=675)	急いで準備する必要はないと思うから 18.4%	保管する場所がないから 17.6%	特になし 15.0%	何を準備すればよいか分からないから 13.3%	面倒だから 9.3%
令和6年 (n=1,195)	保管する場所がないから 36.6%	面倒だから 12.3%	何を準備すればよいか分からないから 11.4%	費用がかかるから 9.9%	その他 9.9%

図表 8-1-2 : 災害への備えを準備していない理由 (食料・飲料水) 経年比較

【家族形態別集計】 ※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=1,195)	保管する場所がないから 36.6%	面倒だから 12.3%	何を準備すればよいか分からないから 11.4%	費用がかかるから 9.9%	その他 9.9%
ひとり (n=185)	保管する場所がないから 29.2%	何を準備すればよいか分からないから 15.1%	面倒だから 11.9%	費用がかかるから 11.9%	その他 8.1%
夫婦または パートナー と二人 (n=310)	保管する場所がないから 27.7%	面倒だから 14.2%	何を準備すればよいか分からないから 12.6%	3日以上必要だと思わないから 11.6%	その他 11.0%
祖父母と親 と子 (3世代) (n=42)	保管する場所がないから 61.9%	行政が準備していると思うから/費用がかかるから (同率) 9.5%		3日以上必要だと思わないから 7.1%	面倒だから/その他 (同率) 4.8%
親と子 (2世代) (n=576)	保管する場所がないから 42.2%	面倒だから 11.8%	その他 10.6%	費用がかかるから 10.2%	何を準備すればよいか分からないから 9.0%
その他 (n=57)	保管する場所がないから 42.1%	何を準備すればよいか分からないから/費用がかかるから (同率) 15.8%		面倒だから 10.5%	その他 7.0%

図表 8-1-3 : 災害への備えを準備していない理由 (食料・飲料水) 家族形態別集計

問9 能登半島地震では、長期間にわたる上下水道の途絶が生じ、災害時のトイレの重要性が問われることになりました。あなたのご家庭では、災害に備えて何日分のトイレパック（1人1日あたりの目安は5個）を準備していますか（1つ選択）

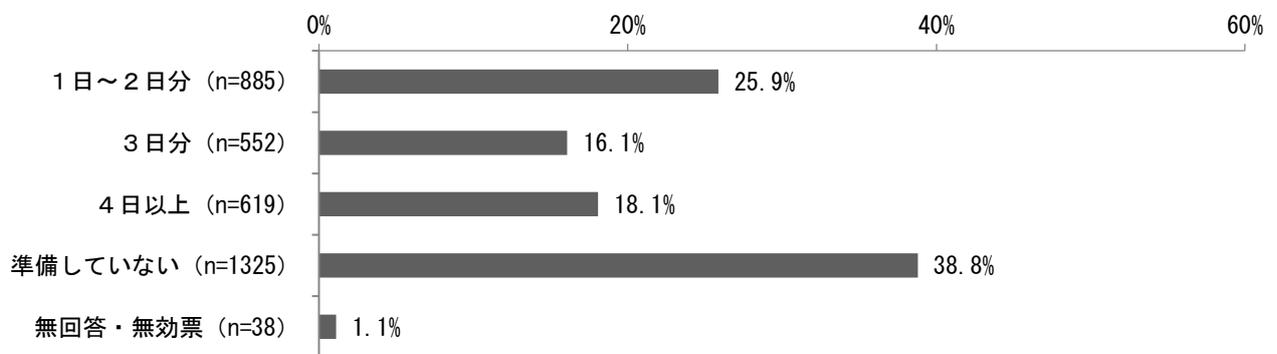
◇トイレパックを「準備している」が約6割

家庭でのトイレパックの準備については、「準備していない」及び「1～2日分」と答えた割合が64.7%となり、6割超が3日分に届かない結果となった。

年代別集計では、「準備していない」の割合が20歳代で50.0%と全年代で最も高く、10歳代が31.9%と最も低かった。

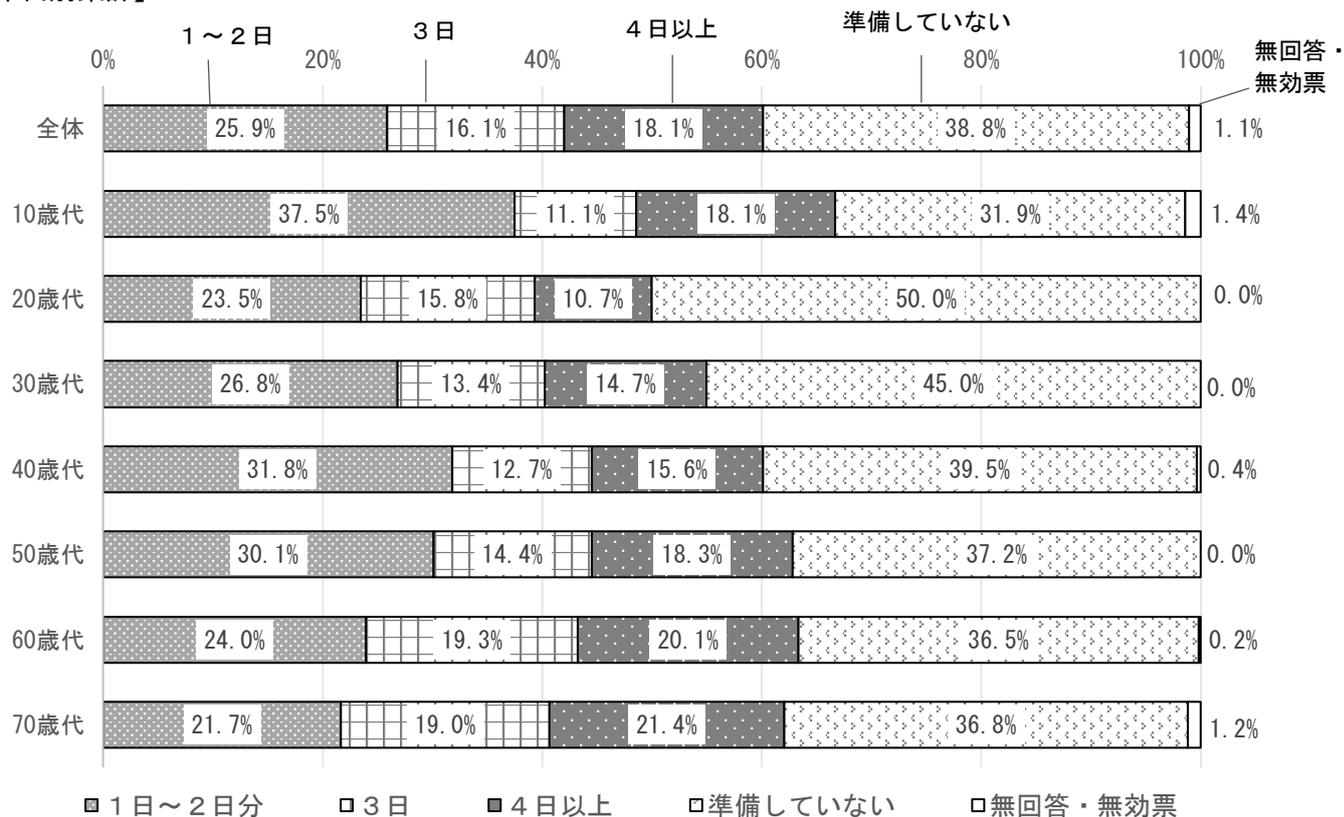
家族形態別集計では、「1～2日分」「3日分」「4日以上」を合計した割合が、「祖父母と親と子（3世代）」で最も高く65.2%となった一方で、「準備していない」割合は「その他」が最も高く48.1%となり、次いで「ひとり」が46.1%となった。

【全体集計】 n=3,419



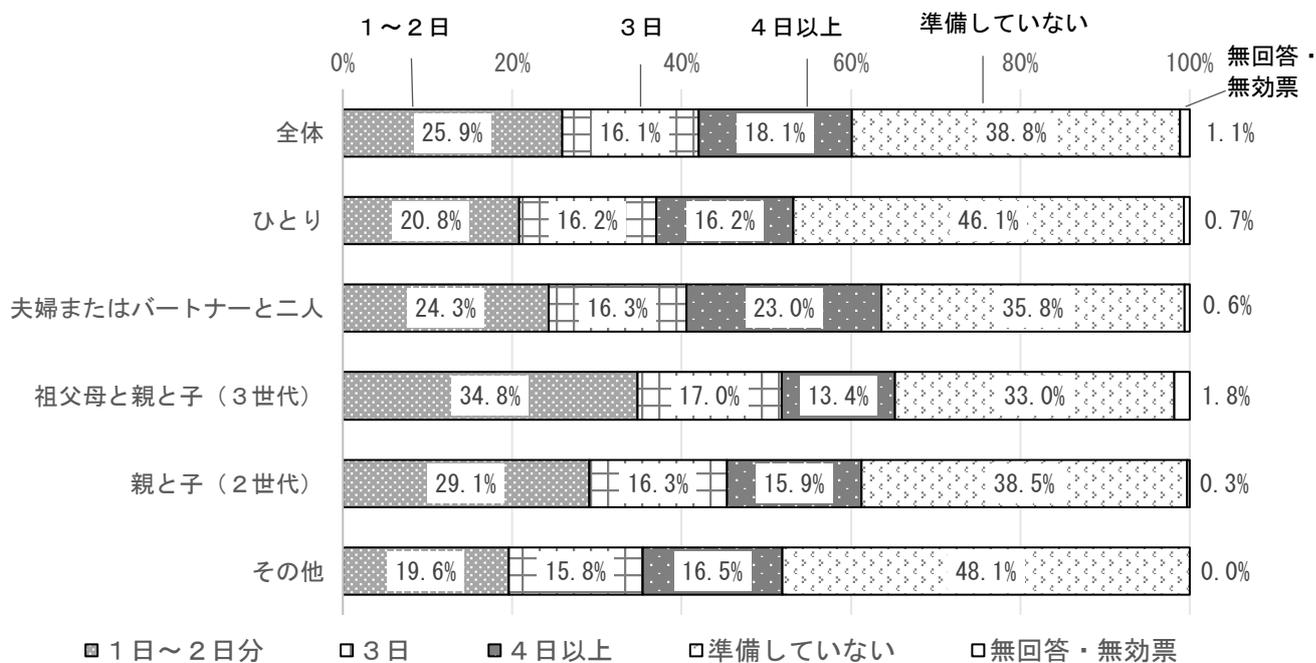
図表 9-1：災害への備えとしてのトイレパック

【年代別集計】



図表 9-2：災害への備えとしてのトイレパック 年代別集計

【家族形態別集計】



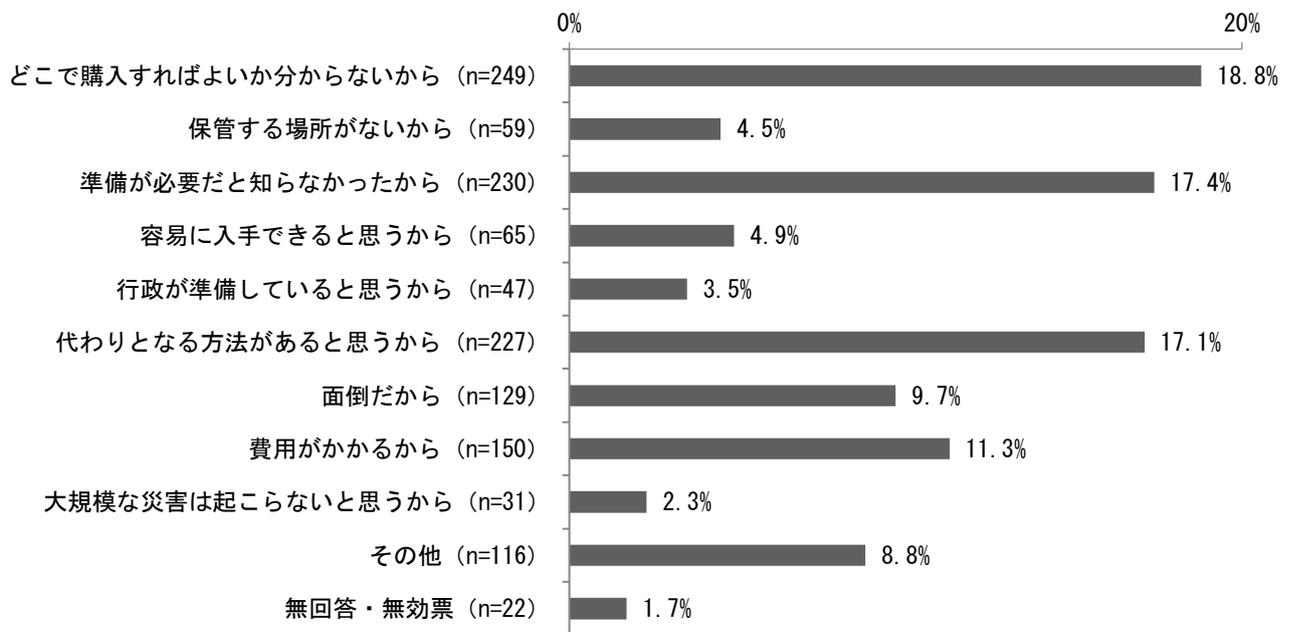
図表 9-3：災害への備えとしてのトイレパック 家族形態別集計

(問9で「準備していない」と答えた方にご回答ください)
 問9-1 準備していない理由は何ですか。(1つ選択)

◇準備していない理由は「どこで購入すればよいか分からないから」が最も多い

トイレパックを準備していない理由は、「どこで購入すればよいか分からないから」が18.8%と最も多く、次いで「準備が必要だと知らなかったから」が17.4%となった。

【全体集計】 n=1,325



図表 9-1-1 : 災害への備えを準備していない理由 (トイレパック)

※【その他回答】(抜粋、一部要約)

考えていなかった/準備する予定である/なんとなく後回しにしている/使用期限がきた、等

【家族形態別集計】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=1,325)	どこで購入すればよ いか分からないから 18.8%	準備が必要だと知ら なかったから 17.4%	代わりとなる方法が あると思うから 17.1%	費用がかかるから 11.3%	面倒だから 9.7%
ひとり (n=202)	どこで購入すればよ いか分からないから 25.2%	準備が必要だと知ら なかったから 16.8%	費用がかかるから 12.9%	代わりとなる方法があると思うから/面倒だ から(同率) 11.9%	
夫婦または パートナー と二人 (n=399)	どこで購入すればよ いか分からないから 18.0%	代わりとなる方法が あると思うから 17.8%	準備が必要だと知ら なかったから 17.0%	その他 11.3%	面倒だから 9.8%
祖父母と親 と子 (3世代) (n=37)	準備が必要だと知ら なかったから 27.0%	代わりとなる方法が あると思うから 18.9%	どこで購入すればよ いか分からないから 13.5%	費用がかかるから/その他(同率) 10.8%	
親と子 (2世代) (n=582)	代わりとなる方法が あると思うから 17.9%	準備が必要だと知ら なかったから 17.7%	どこで購入すればよ いか分からないから 17.5%	費用がかかるから 13.1%	その他 8.6%
その他 (n=76)	どこで購入すればよ いか分からないから 18.4%	準備が必要だと知ら なかったから 18.4%	代わりとなる方法が あると思うから 17.1%	面倒だから 14.5%	費用がかかるから 10.5%

図表 9-1-2 : 災害への備えを準備していない理由(トイレパック) 家族形態別集計

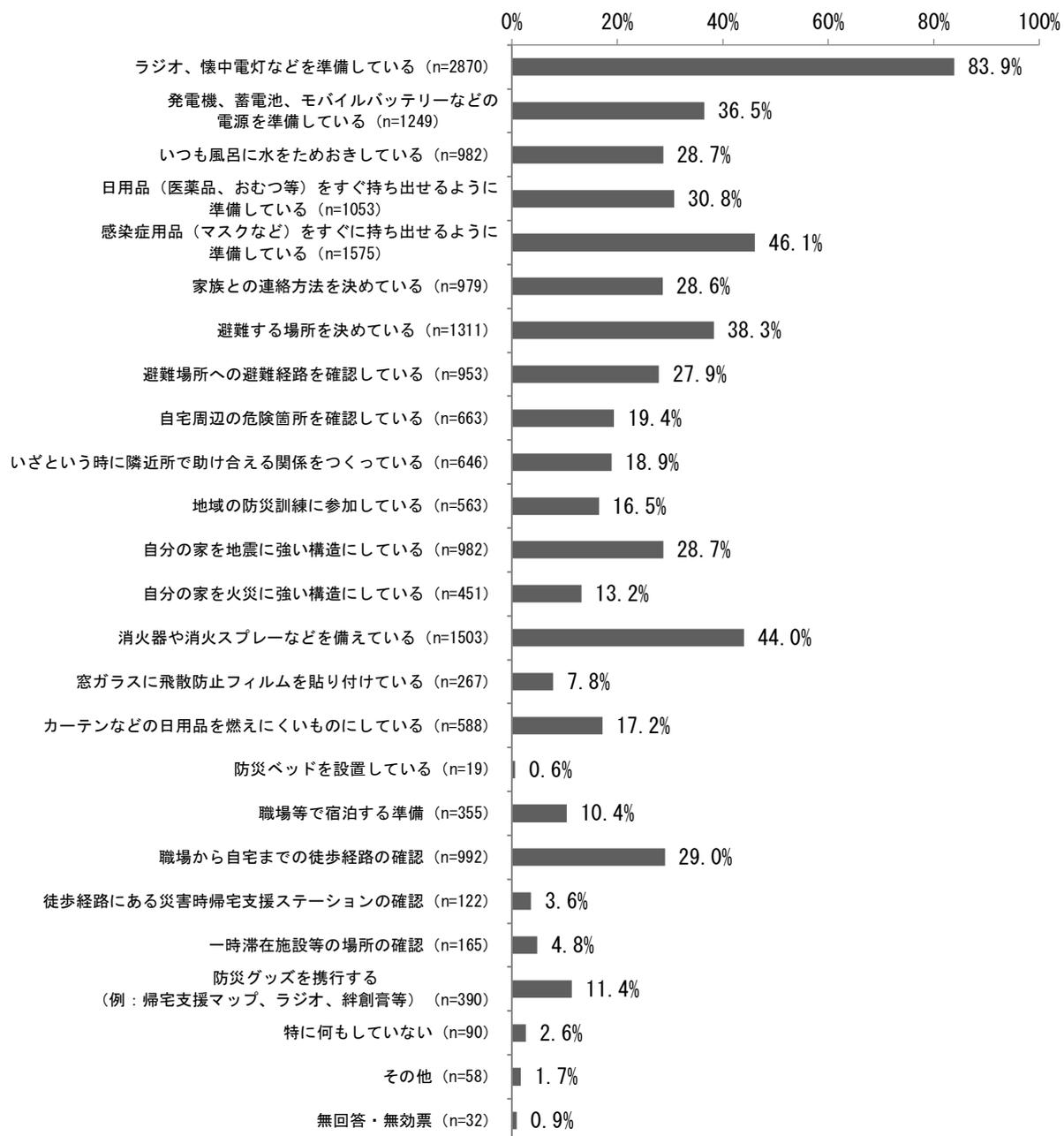
問10 あなたやあなたのご家庭では、家具の固定や水・食料の準備等以外で現在、どのような対策をしていますか。(該当するものすべて選択)

◇対策は「ラジオ、懐中電灯などを準備している」が8割超

家具の固定や水・食料の準備等以外の対策は、「ラジオ、懐中電灯などを準備している」が83.9%と最も多く、次いで「感染症用品(マスクなど)をすぐに持ち出せるように準備している」が46.1%となった。

経年比較では、上位5位の傾向に大きな変化はないが、「特に何もしていない」の割合が前回調査の9.5%から6.9ポイント減少し2.6%となった。

【全体集計】 n=3,419



図表 10-1：災害対策

※【その他回答】(抜粋、一部要約)

自家用車 (HV 車) から給電が可能/常備薬の準備/バケツにも水を用意している、他

【経年比較】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
平成30年 (n=2,682)	ラジオ、懐中電灯などを準備している 76.0%	避難する場所を決めている 43.9%	消火器や消火スプレーなどを備えている 40.8%	トイレパックを備蓄している 29.8%	避難場所への避難経路を確認している 29.5%
令和3年 (n=3,553)	ラジオ、懐中電灯などを準備している 76.8%	トイレパックを備蓄している 40.2%	感染症用品(マスクなど)をすぐに持ち出せるように準備している 39.9%	消火器や消火スプレーなどを備えている 39.6%	避難する場所を決めている 34.1%
令和6年 (n=3,419)	ラジオ、懐中電灯などを準備している 83.9%	感染症用品(マスクなど)をすぐに持ち出せるように準備している 46.1%	消火器や消火スプレーなどを備えている 44.0%	避難する場所を決めている 38.3%	発電機、蓄電池、モバイルバッテリーなどの電源を準備している 36.5%

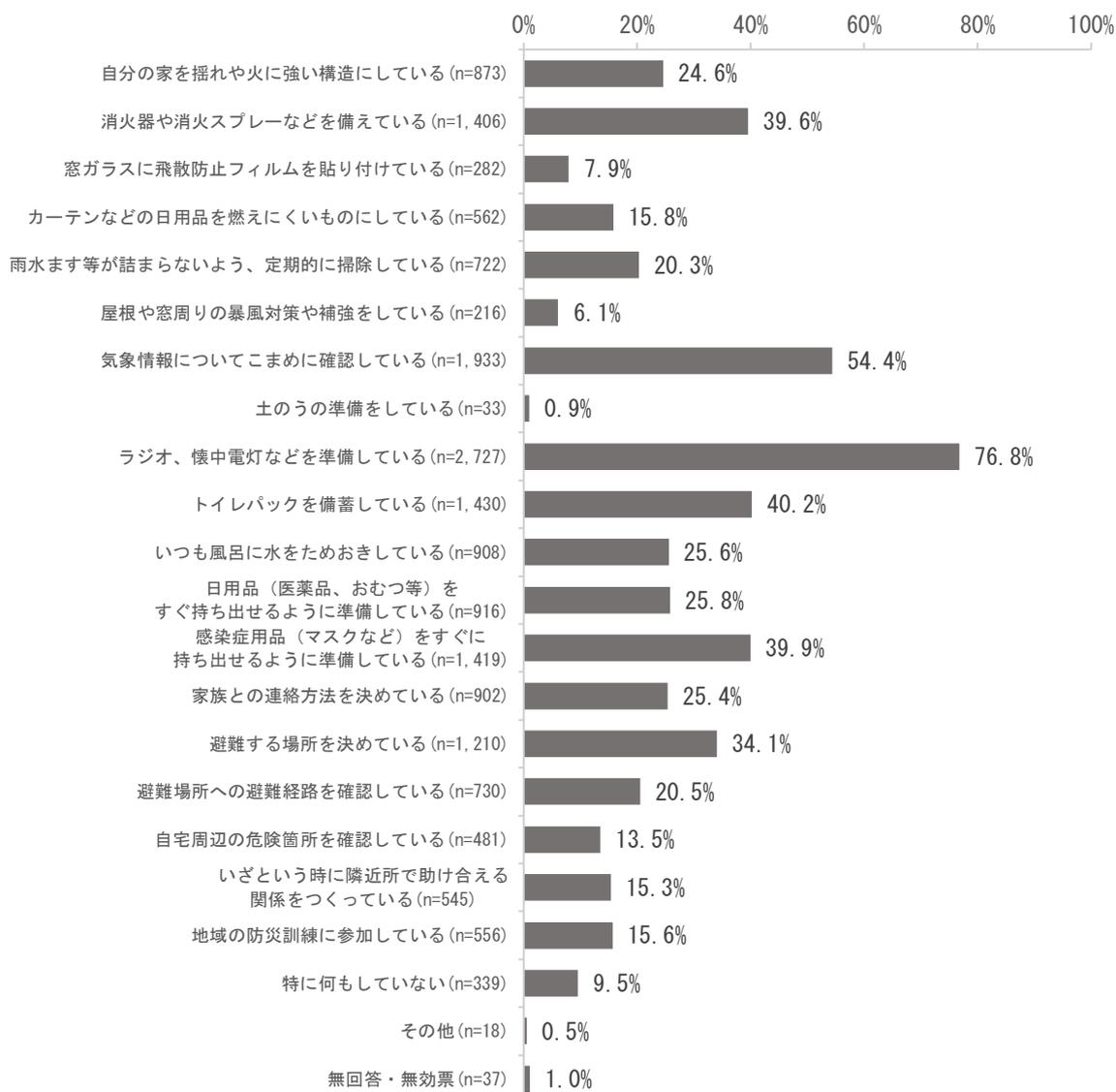
図表 10-2 : 災害対策 経年比較

※1 「感染症用品(マスクなど)をすぐに持ち出せるように準備している」は令和3年調査から追加した選択肢。

※2 「トイレパックを備蓄している」は今回調査から削除した選択肢。

※3 「発電機、蓄電池、モバイルバッテリーなどの電源を準備している」は今回調査から新設した選択肢。

※参考【R3 調査全体集計】 n=3, 553



(2) 地域での取組

問11 あなたは、直近3年間で次の研修や訓練等に参加したことがありますか。
(該当するものすべて選択)

◇研修や訓練等は「何も参加していない」が最も多い

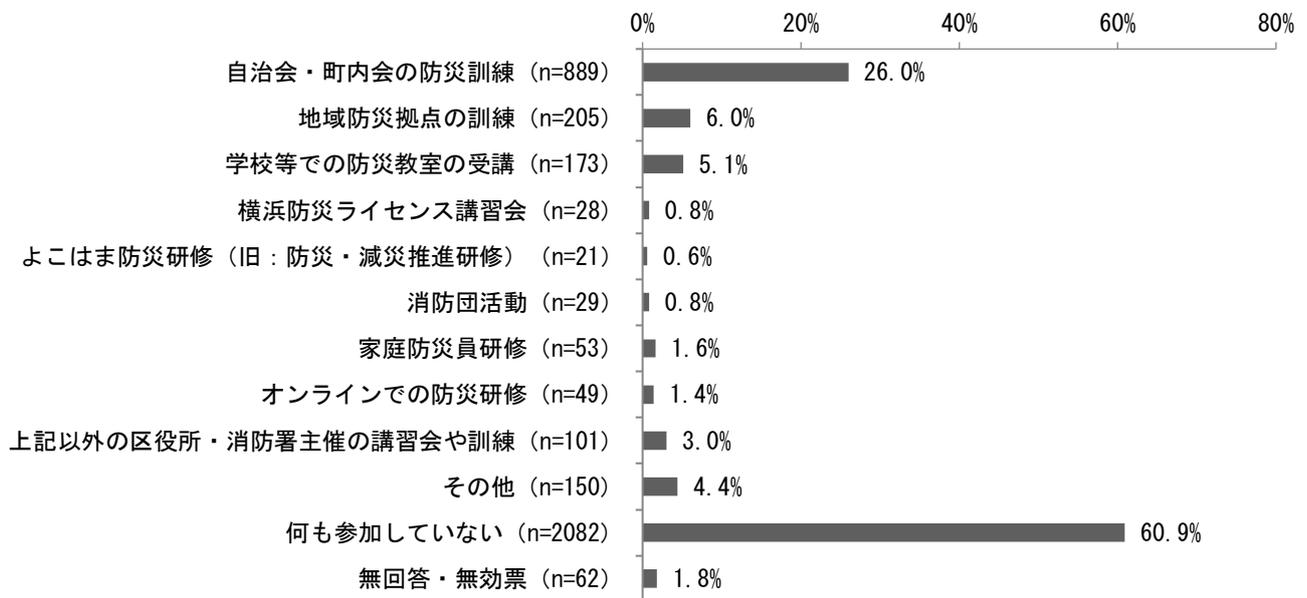
研修や訓練等への参加は、「何も参加していない」が60.9%と最も多く、次いで「自治会・町内会の防災訓練」が26.0%となった。

経年比較では大きな傾向の変化はないが、「何も参加していない」の割合が前回調査の47.5%から13.4ポイント増加し、60.9%となった。

年代別集計では、「10歳代」以外では「何も参加していない」の割合が最も高く、「10歳代」では「学校等での防災教室での受講」の割合が最も高い結果となった。

自治会・町内会加入別集計では、加入の有無によらず「何も参加していない」割合が最も高いが、「加入していない」方が「加入している」よりも20.1ポイント多い76.1%となった。

【全体集計】 n=3,419



図表 11-1 : 研修や訓練等への参加

※【その他回答】(抜粋、一部要約)

勤務先での防災訓練/マンション単位での訓練、等

【経年比較】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
平成30年 (n=2,682)	何も参加していない 49.5%	自治会・町内会の防災訓練 41.1%	地域防災拠点の訓練 7.9%	上記以外の区役所・消防署主催の講習会や訓練 5.3%	家庭防災員研修 4.4%
令和3年 (n=3,553)	何も参加していない 47.5%	自治会・町内会の防災訓練 38.5%	地域防災拠点の訓練 8.4%	参加したことはあるが何か分からない 5.3%	上記以外の区役所・消防署主催の講習会や訓練 4.7%
令和6年 (n=3,419)	何も参加していない 60.9%	自治会・町内会の防災訓練 26.0%	地域防災拠点の訓練 6.0%	学校等での防災教室の受講 5.1%	その他 4.4%

図表 11-2：研修や訓練等への参加 経年比較

※1 今回調査から設問に「直近3年間」という文言を追加。

※2 「参加したことはあるが何か分からない」は今回調査から削除した選択肢。

※3 「学校等での防災教室の受講」は今回調査からの新設選択肢。

【年代別集計】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,419)	何も参加していない 60.9%	自治会・町内会の防災訓練 26.0%	地域防災拠点の訓練 6.0%	学校等での防災教室の受講 5.1%	その他 4.4%
10歳代 (n=72)	学校等での防災教室の受講 44.4%	何も参加していない 38.9%	自治会・町内会の防災訓練 19.4%	その他 4.2%	地域防災拠点の訓練/ 上記以外の区役所・消防署主催の講習会や訓練（同率） 2.8%
20歳代 (n=234)	何も参加していない 73.9%	学校等での防災教室の受講 12.0%	自治会・町内会の防災訓練 9.8%	その他 3.8%	地域防災拠点の訓練 3.4%
30歳代 (n=313)	何も参加していない 76.0%	自治会・町内会の防災訓練 8.6%	学校等での防災教室の受講 6.4%	その他 4.2%	上記以外の区役所・消防署主催の講習会や訓練 3.2%
40歳代 (n=488)	何も参加していない 64.3%	自治会・町内会の防災訓練 19.7%	学校等での防災教室の受講 6.8%	その他 6.1%	地域防災拠点の訓練 3.7%
50歳代 (n=654)	何も参加していない 65.7%	自治会・町内会の防災訓練 20.5%	その他 5.7%	地域防災拠点の訓練 4.1%	学校等での防災教室の受講 4.0%
60歳代 (n=576)	何も参加していない 57.5%	自治会・町内会の防災訓練 29.9%	地域防災拠点の訓練 7.1%	その他 5.6%	上記以外の区役所・消防署主催の講習会や訓練 4.0%
70歳代以上 (n=997)	何も参加していない 53.6%	自治会・町内会の防災訓練 40.5%	地域防災拠点の訓練 9.9%	家庭防災員研修 3.0%	上記以外の区役所・消防署主催の講習会や訓練 2.5%

図表 11-3：研修や訓練等への参加 年代別集計

【自治会・町内会加入別集計】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,419)	何も参加していない 60.9%	自治会・町内会の防 災訓練 26.0%	地域防災拠点の訓練 6.0%	学校等での防災教室 の受講 5.1%	その他 4.4%
加入している (n=2,473)	何も参加していない 56.0%	自治会・町内会の防 災訓練 33.1%	地域防災拠点の訓練 7.6%	学校等での防災教室 の受講 4.5%	その他 4.1%
加入していない (n=677)	何も参加していない 76.1%	自治会・町内会の防 災訓練 6.9%	学校等での防災教室 の受講 6.6%	その他 5.8%	上記以外の区役所・ 消防署主催の講習会 や訓練 3.0%
分からない (n=188)	何も参加していない 78.2%	学校等での防災教室 の受講 8.5%	自治会・町内会の防災訓練/その他(同率) 4.3%		地域防災拠点の訓練 /上記以外の区役 所・消防署主催の講 習会や訓練(同率) 2.7%

図表 11-4：研修や訓練等への参加 自治会・町内会加入別集計

(問11で「何も参加していない」と答えの方はご回答ください)
問11-1 参加していない理由は何ですか。(1つ選択)

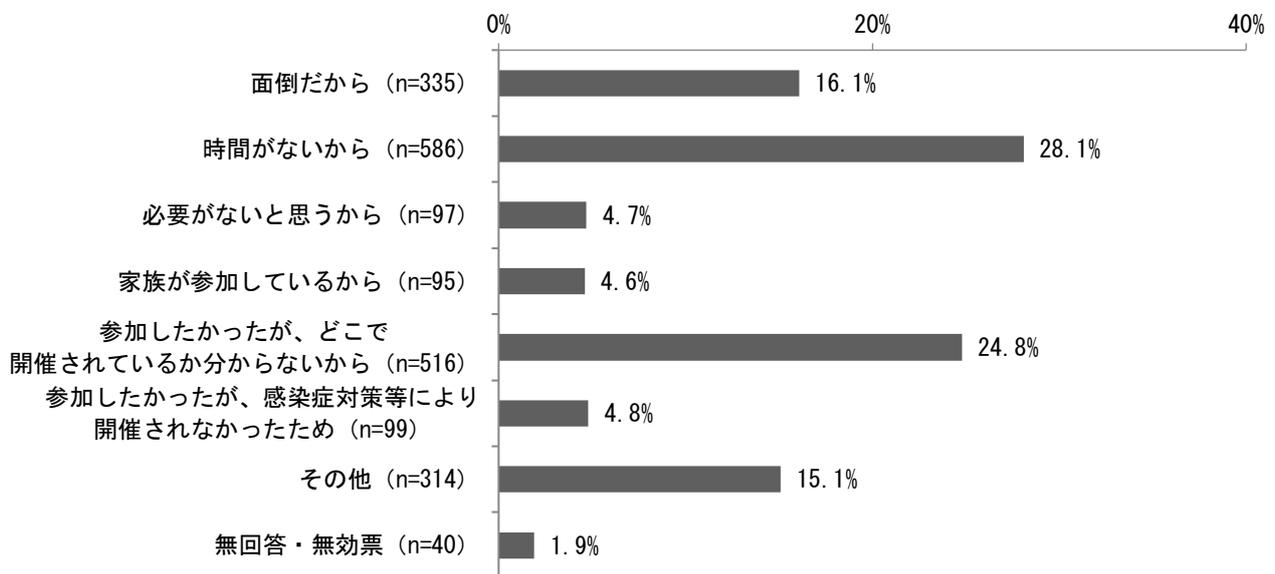
◇参加していない理由は「時間がないから」が最も多い

研修や訓練に参加していない理由は、「時間がないから」が28.1%と最も多く、次いで「参加したかったが、どこで開催されているか分からないから」が24.8%となった。

経年比較では、「参加したかったがどこで開催されているか分からないから」の割合が、前回調査の27.3%（1位）から2.5ポイント減少し、24.8%（2位）となり、「時間がないから」の割合が前回調査の23.3%（2位）から4.8ポイント増加し28.1%となった。

年代別集計では、「70歳代以上」で最も割合が高かったのは「その他」であり、「10歳代～60歳代」で最も割合が高かったのは「時間がないから」であった。

【全体集計】 n=2,082



図表 11-1-1：研修や訓練等に参加していない理由

※【その他回答】（抜粋、一部要約）

高齢等で身体が不自由/病気・体調不良/対人不安がある/日程があわない、等

【経年比較】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
平成30年 (n=1,327)	参加しなかったが、 いつどこで開催され ているか分からない から 53.5%	時間がないから 20.7%	面倒だから 9.5%	その他 6.4%	家族が参加してい るから 6.1%
令和3年 (n=1,683)	参加しなかったが、 いつどこで開催され ているか分からない から 27.3%	時間がないから 23.3%	面倒だから 16.4%	その他 11.6%	家族が参加してい るから 6.0%
令和6年 (n=2,082)	時間がないから 28.1%	参加しなかったが、 どこで開催されてい るか分からないから 24.8%	面倒だから 16.1%	その他 15.1%	参加しなかったが、 感染症対策等によ り開催されなかつ たから 4.8%

図表 11-1-2：研修や訓練等に参加していない理由 経年比較

※1 前回調査で「参加しなかったが、新型コロナウイルス感染症を恐れ、行かなかったため」及び「参加しなかったが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催されなかったため」を今回調査では、「参加しなかったが、感染症対策等により開催されなかったため」と整理して比較。

【年代別集計】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=2,082)	時間がないから 28.1%	参加しなかったが、 いつどこで開催され ているか分からない から 24.8%	面倒だから 16.1%	その他 15.1%	参加しなかったが、感 染症対策等により開 催されなかったから 4.8%
10歳代～ 20歳代 (n=201)	時間がないから 39.8%	参加しなかったが、い つどこで開催されて いるか分からないか ら 20.9%	面倒だから 19.4%	その他 9.5%	必要が無いと思うか ら 4.0%
30歳代～ 40歳代 (n=552)	時間がないから 37.7%	参加しなかったが、い つどこで開催されて いるか分からないか ら 24.5%	面倒だから 16.3%	その他 10.7%	必要が無いと思うか ら 4.2%
50歳代～ 60歳代 (n=761)	時間がないから 30.5%	参加しなかったが、い つどこで開催されて いるか分からないか ら 26.7%	面倒だから 15.4%	その他 12.0%	参加しなかったが、感 染症対策等により開 催されなかったから 5.5%
70歳代以上 (n=534)	その他 25.7%	参加しなかったが、い つどこで開催されて いるか分からないか ら 24.0%	面倒だから 15.4%	時間がないから 11.6%	参加しなかったが、感 染症対策等により開 催されなかったから 7.1%

図表 11-1-3：研修や訓練等に参加していない理由 年代別集計

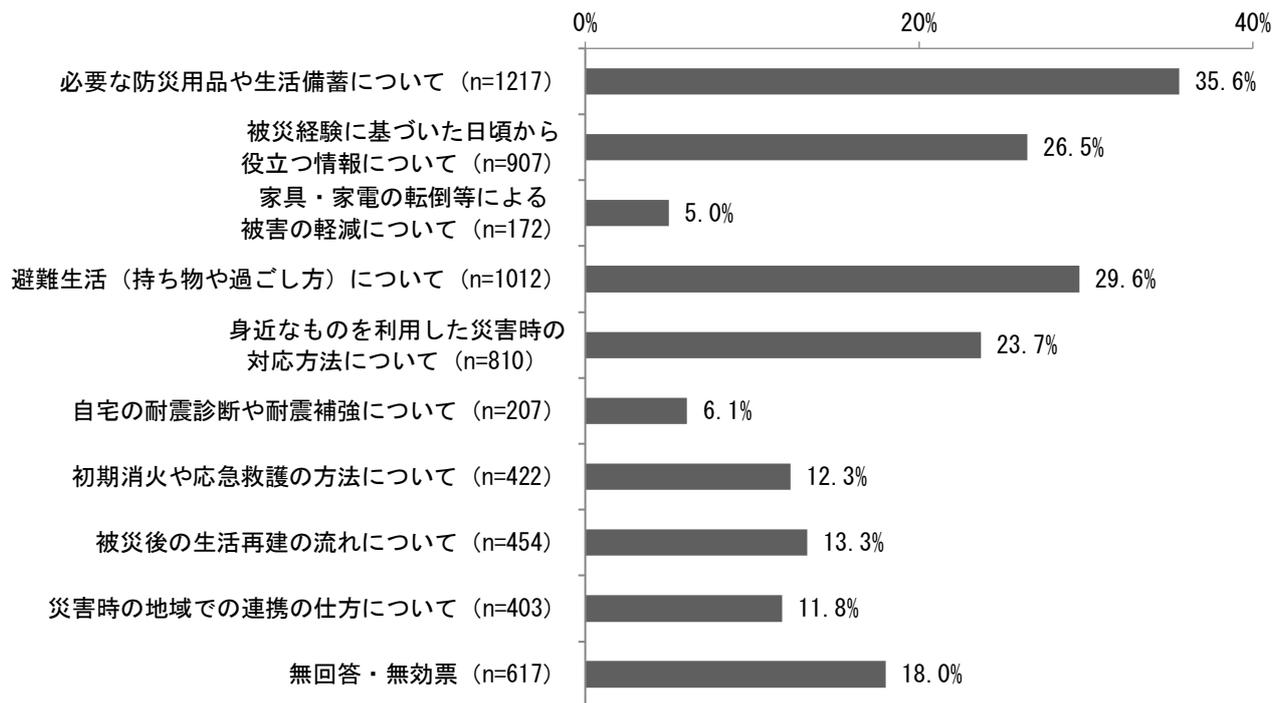
問12 あなたは、防災訓練や研修等をとおして、どのような内容を学んでみたいと思いますか。
(2つ選択)

学んでみたい内容は「必要な防災用品や生活備蓄について」が最も多い

防災訓練や研修等をとおして学んでみたい内容は、「必要な防災用品や生活備蓄について」が35.6%と最も多く、次いで「避難生活（持ち物や過ごし方）について」が29.6%となった。

年代別集計では、どの年代も概ね同じ傾向だが、唯一「70歳代以上」で「災害時の地域での連携の仕方について」（15.1%・5位）が上位5位以内となった。

【全体集計】 n=3,419



図表 12-1：研修や訓練等で学んでみたい内容

【年代別集計】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,419)	必要な防災用品や生活備蓄について 35.6%	避難生活(持ち物や過ごし方)について 29.6%	被災経験に基づいた日頃から役立つ情報について 26.5%	身近なものを利用した災害時の対応方法について 23.7%	被災後の生活再建の流れについて 13.3%
10歳代 (n=72)	避難生活(持ち物や過ごし方)について 33.3%	必要な防災用品や生活備蓄について 31.9%	身近なものを利用した災害時の対応方法について 30.6%	初期消火や応急救護の方法について 29.2%	被災経験に基づいた日頃から役立つ情報について 20.8%
20歳代 (n=234)	必要な防災用品や生活備蓄について 47.0%	避難生活(持ち物や過ごし方)について 41.9%	被災経験に基づいた日頃から役立つ情報について 22.6%	身近なものを利用した災害時の対応方法について 19.7%	被災後の生活再建の流れについて 9.8%
30歳代 (n=313)	必要な防災用品や生活備蓄について 41.9%	避難生活(持ち物や過ごし方)について 35.1%	被災経験に基づいた日頃から役立つ情報について 25.2%	身近なものを利用した災害時の対応方法について 20.8%	被災後の生活再建の流れについて 14.7%
40歳代 (n=488)	必要な防災用品や生活備蓄について 33.0%	避難生活(持ち物や過ごし方)について 31.8%	被災経験に基づいた日頃から役立つ情報について 26.0%	身近なものを利用した災害時の対応方法について 25.2%	初期消火や応急救護の方法について 16.4%
50歳代 (n=654)	必要な防災用品や生活備蓄について 34.9%	被災経験に基づいた日頃から役立つ情報について 30.0%	避難生活(持ち物や過ごし方)について 26.5%	身近なものを利用した災害時の対応方法について 26.0%	初期消火や応急救護の方法について 14.1%
60歳代 (n=576)	必要な防災用品や生活備蓄について 34.2%	避難生活(持ち物や過ごし方)について 29.0%	被災経験に基づいた日頃から役立つ情報について 27.6%	身近なものを利用した災害時の対応方法について 25.0%	被災後の生活再建の流れについて 14.2%
70歳代以上 (n=997)	必要な防災用品や生活備蓄について 35.0%	被災経験に基づいた日頃から役立つ情報について 26.8%	避難生活(持ち物や過ごし方)について 26.5%	身近なものを利用した災害時の対応方法について 22.8%	災害時の地域での連携の仕方について 15.1%

図表 12-2 : 研修や訓練等で学んでみたい内容 年代別集計

問13 災害が起こった時に、あなたは、ご近所の方にはどのような支援（手助け）ができますか。（該当するものすべて選択）

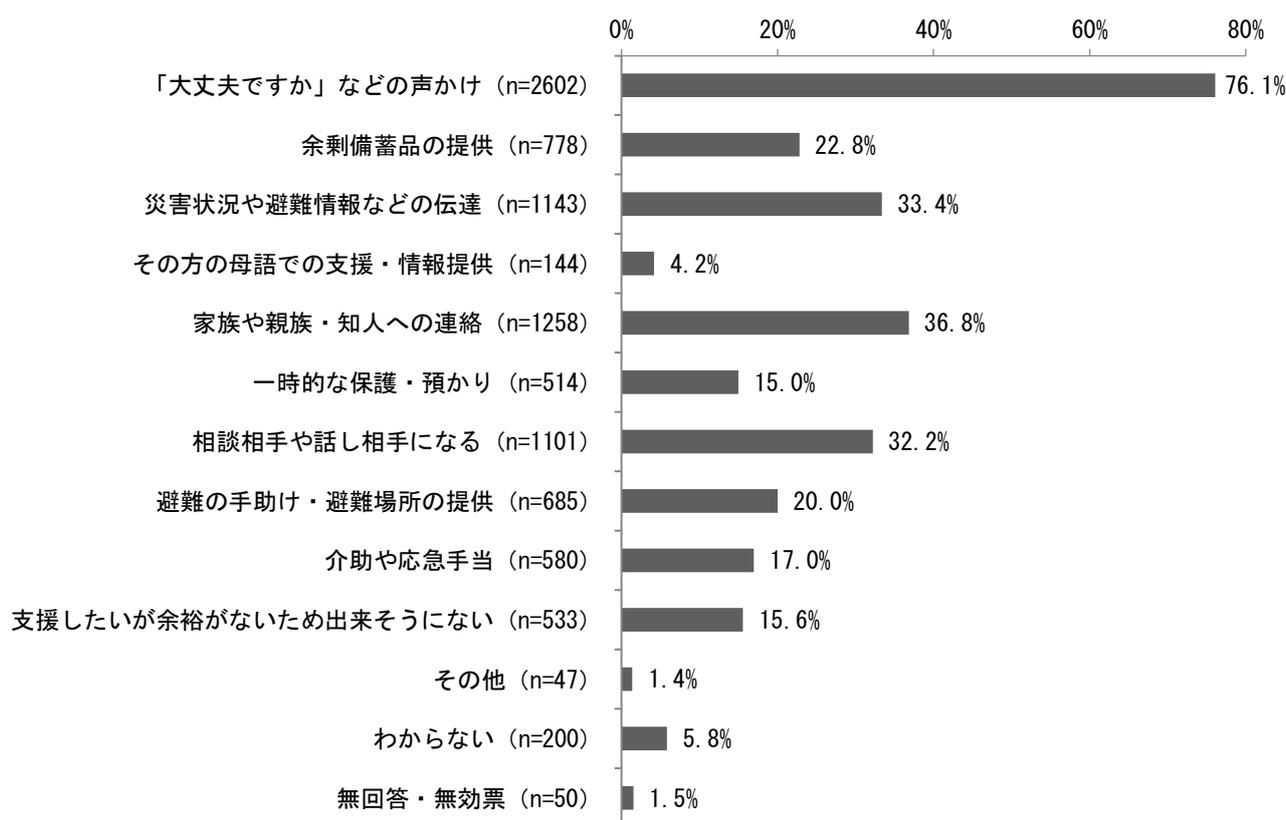
◇できる支援は「声かけ」が最も多い

災害が起こった時に、近所の方のできる支援では、「大丈夫ですか」などの声かけが76.1%と最も多く、次いで「家族や親族・知人への連絡」が36.8%となった。

経年比較において、今回調査では「余剰備蓄品の提供」が22.8%（5位）となった。

また、「相談相手や話し相手になる」の割合が年々増加しており、前回調査の31.6%から0.6ポイント増加し、32.2%になった。

【全体集計】 n=3,419



図表 13-1：ご近所の方への支援

【経年比較】 ※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
平成30年 (n=1,723)	「大丈夫ですか」などの声かけ 75.0%	避難の手助け 64.0%	災害状況や避難情報などの伝達 29.3%	相談相手や話し相手になる 24.5%	家族や親族・知人への連絡 19.4%
令和3年 (n=3,553)	「大丈夫ですか」などの声かけ 74.1%	避難の手助け 46.5%	家族や親族・知人への連絡 38.7%	災害状況や避難情報などの伝達 34.7%	相談相手や話し相手になる 31.6%
令和6年 (n=3,419)	「大丈夫ですか」などの声かけ 76.1%	家族や親族・知人への連絡 36.8%	災害状況や避難情報などの伝達 33.4%	相談相手や話し相手になる 32.2%	余剰備蓄品の提供 22.8%

図表 13-2：ご近所の方への支援 経年比較

※1 令和3年調査までは「オムツ、ミルクなどの必需品の提供」としていた選択肢を今回調査では、「余剰備蓄品の提供」と整理して比較。

※2 令和3年調査までは「避難の手助け」としていた選択肢を今回調査では、「避難の手助け・避難場所の提供」と整理指定比較。

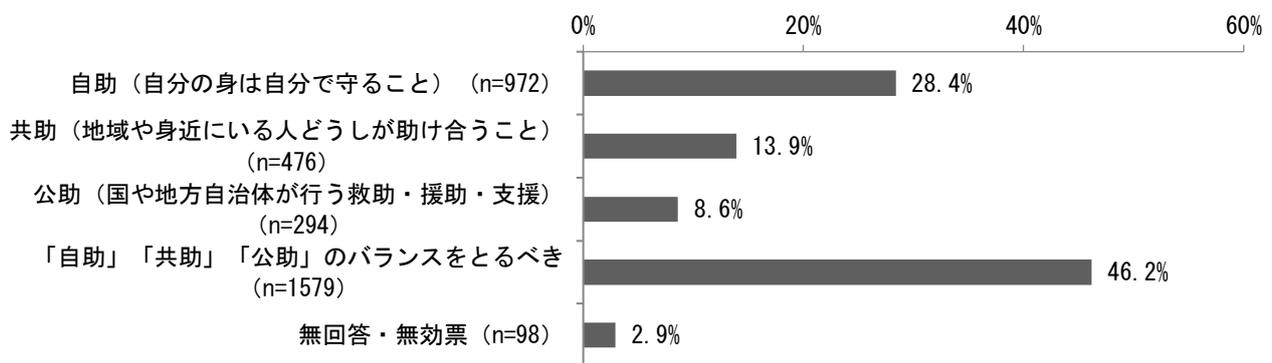
問14 あなたは、自然災害が起こった時に、被害を少なくするために「自助」「共助」「公助」のどれが重要だと考えていますか。(1つ選択)

◇重要なのは「自助」「共助」「公助」のバランスをとるべきが最も多い

自然災害が起こった時に、被害を少なくするために重要なことは、「自助」「共助」「公助」のバランスをとるべきが46.2%と最も多く、次いで「自助（自分の身は自分で守ること）」が28.4%となった。

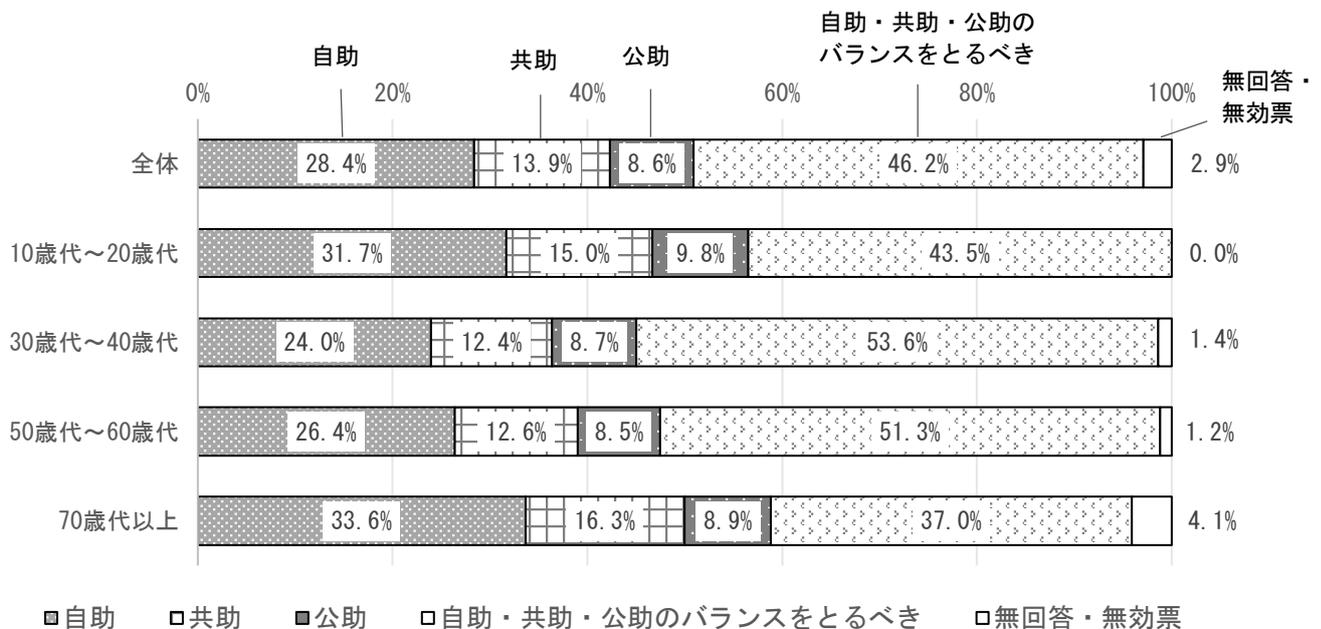
年代別集計では、「自助」及び「共助」と答えた割合において「70歳代以上」が一番高い年代となり、「公助」と答えた割合が一番高い年代は「10歳代～20歳代」となった。

【全体集計】 n=3,419



図表 14-1 : 「自助」「共助」「公助」の重要度

【年代別集計】



図表 14-2 : 「自助」「共助」「公助」の重要度 年代別集計

(3) 避難場所等

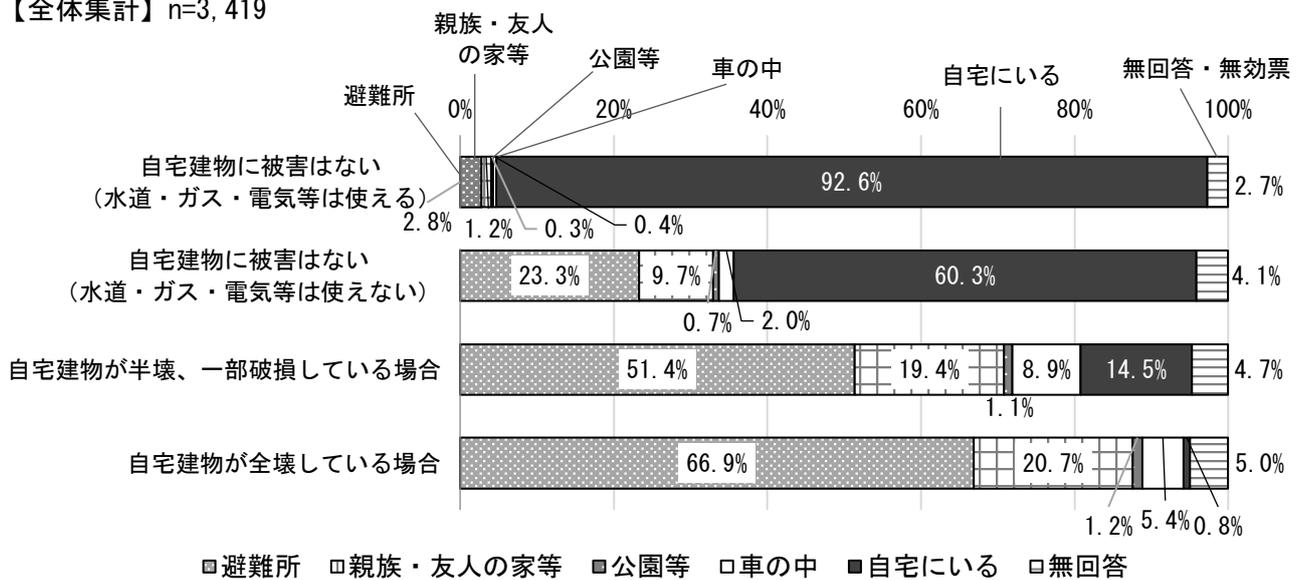
問15 あなたが自宅において大規模な地震が発生し、次のような状況になった場合、当面の期間、どこで避難生活をしますか。(それぞれ1つ選択)

◇「自宅建物に被害はない(水道・ガス・電気等は使える)」場合に「自宅にいる」が9割超

大規模な地震発生時の状況別行動は、「自宅建物に被害はない(水道・ガス・電気等は使える)」場合に「自宅にいる」が92.6%と最も多い結果となった。

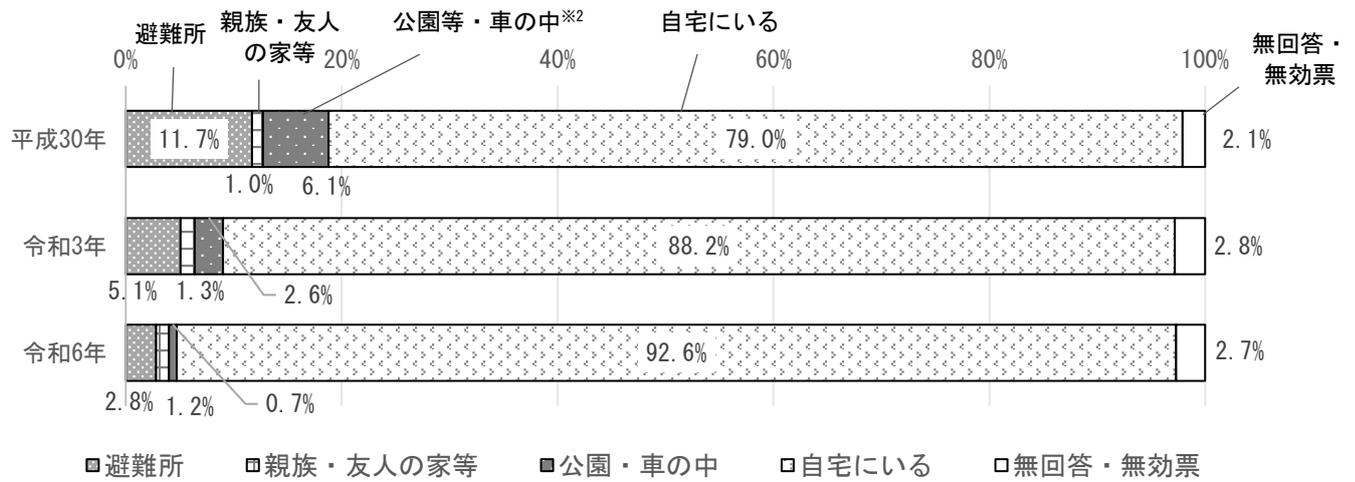
経年比較では、「自宅建物に被害はない(水道・ガス・電気等は使える)」及び「自宅建物に被害はない(水道・ガス・電気等は使えない)」状況の場合、「自宅にいる」割合が年々増加し、「避難所」の割合が年々減少している。

【全体集計】 n=3,419



図表 15-1 : 地震発生時の避難生活を送る場所

【経年比較】自宅建物に被害はない（水道・ガス・電気は使える）

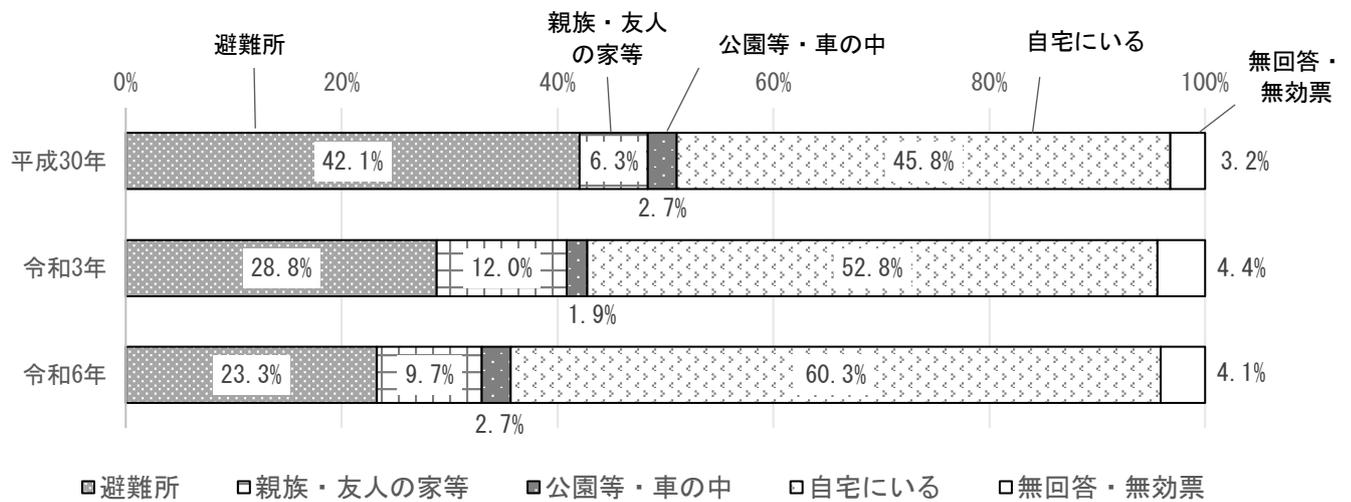


図表 15-2：地震発生時の避難生活を送る場所 経年比較

※1 前回調査で「余震が続く場合（自宅は無被害）」を今回調査では、「自宅建物に被害はない（水道・ガス・電気等使える）」と整理して比較。

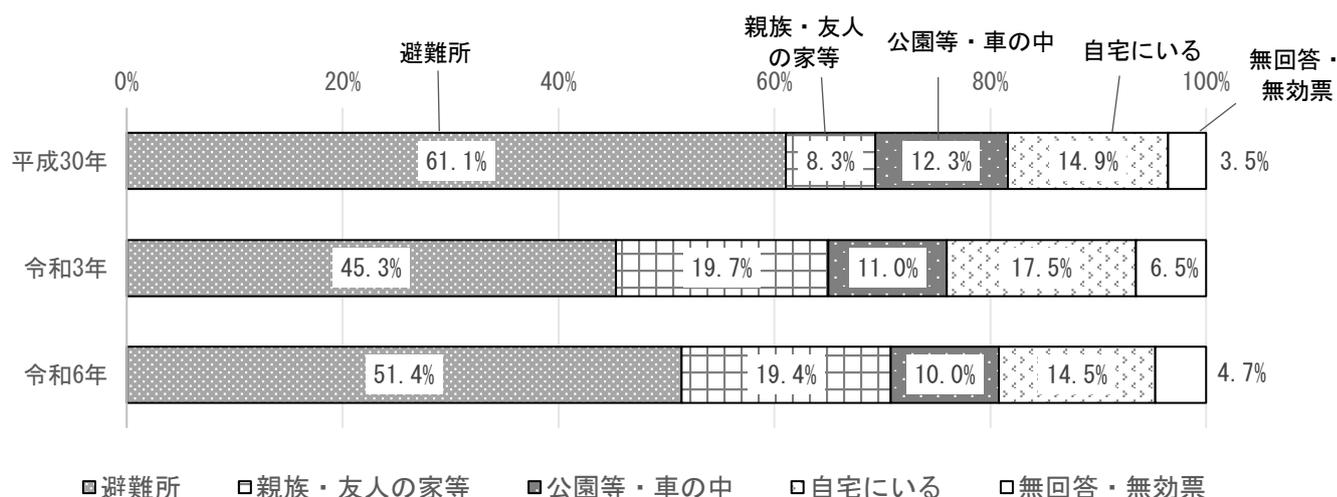
※2 「公園等」と「車の中」という選択肢を今回調査では、「公園等・車の中」と整理して比較。

【経年比較】自宅建物に被害はない（水道・ガス・電気は使えない）



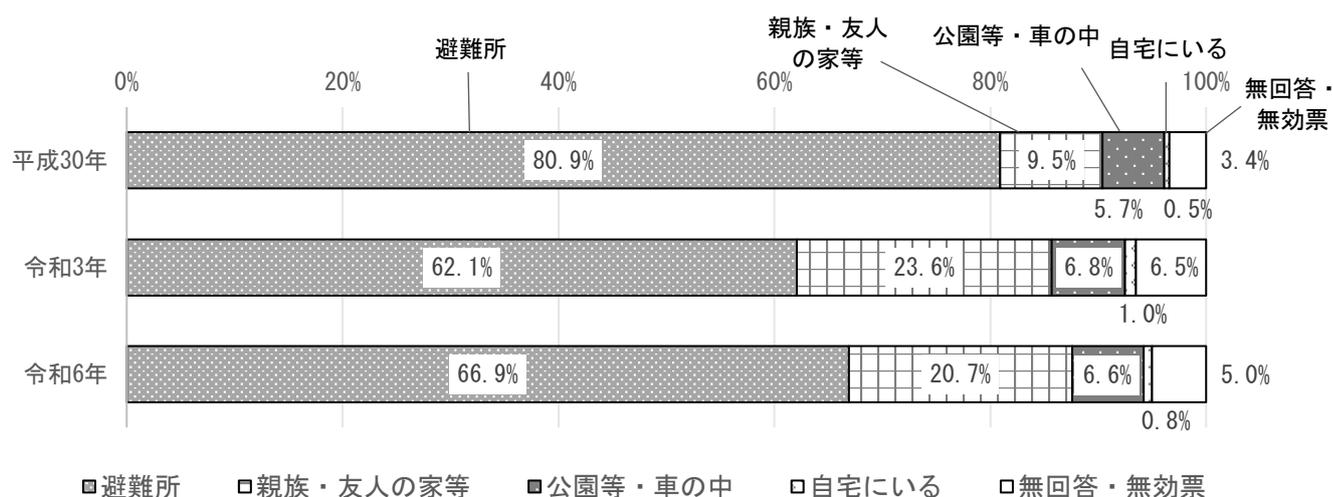
図表 15-3：地震発生時の避難生活を送る場所 経年比較 自宅建物に被害はない（水道・ガス・電気は使えない）

【経年比較】自宅建物が半壊、一部破損している場合



図表 15-4：地震発生時の避難生活を送る場所 経年比較 自宅建物が半壊、一部破損している場合

【経年比較】自宅建物が全壊している場合



図表 15-5：地震発生時の避難生活を送る場所 経年比較 自宅建物が全壊している場合

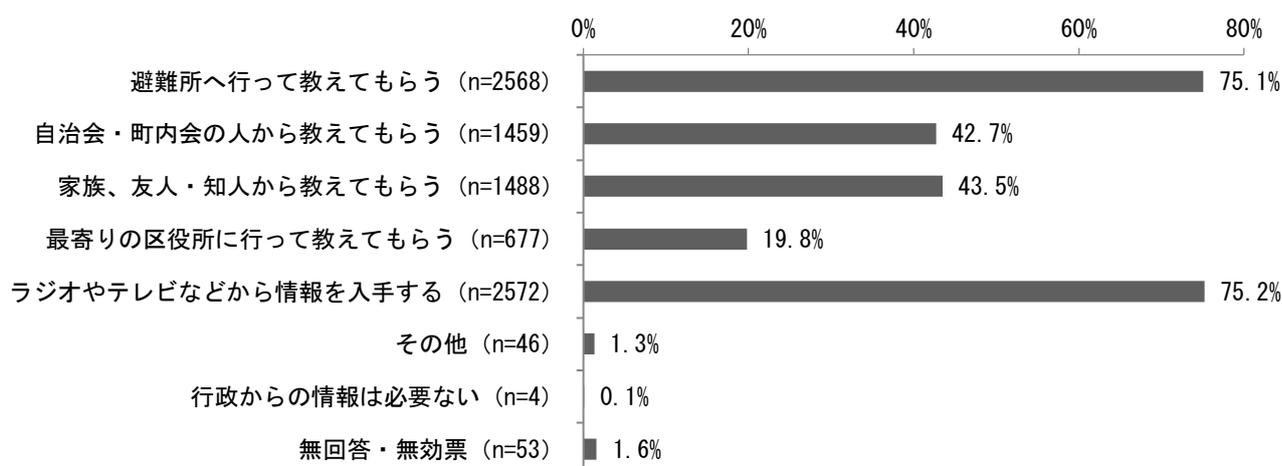
問16 あなたが震災時にインターネット等の通信環境が使えない状況になったとき、行政から発信される情報をどのように入手しようと考えていますか。(該当するものすべて選択)

◇入手方法は「ラジオやテレビなどから情報を入手する」が最も多い

行政から発信される情報の入手方法は、「ラジオやテレビなどから情報を入手する」が75.2%と最も多く、次いで「避難所へ行って教えてもらう」が75.1%となった。

年代別集計では、「10歳代～60歳代」では「避難所へ行って教えてもらう」が最も割合が高かったが、「70歳代以上」では「ラジオやテレビなどから情報を入手する」が最も割合が高かった。

【全体集計】 n=3,419



図表 16-1：行政から発信される情報の入手方法

【年代別集計】 ※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,419)	ラジオやテレビなどから情報を入手する 75.2%	避難所へ行って教えてもらう 75.1%	家族、友人・知人から教えてもらう 43.5%	自治会・町内会の人から教えてもらう 42.7%	最寄りの区役所に行って教えてもらう 19.8%
10歳代～20歳代 (n=306)	避難所へ行って教えてもらう 73.5%	ラジオやテレビなどから情報を入手する 66.0%	家族、友人・知人から教えてもらう 40.2%	自治会・町内会の人から教えてもらう 28.8%	最寄りの区役所に行って教えてもらう 19.3%
30歳代～40歳代 (n=801)	避難所へ行って教えてもらう 80.4%	ラジオやテレビなどから情報を入手する 69.8%	家族、友人・知人から教えてもらう 40.7%	自治会・町内会の人から教えてもらう 34.8%	最寄りの区役所に行って教えてもらう 21.8%
50歳代～60歳代 (n=1,230)	避難所へ行って教えてもらう 80.1%	ラジオやテレビなどから情報を入手する 78.2%	家族、友人・知人から教えてもらう 40.4%	自治会・町内会の人から教えてもらう 39.8%	最寄りの区役所に行って教えてもらう 21.7%
70歳代以上 (n=997)	ラジオやテレビなどから情報を入手する 81.5%	避難所へ行って教えてもらう 68.4%	自治会・町内会の人から教えてもらう 58.0%	家族、友人・知人から教えてもらう 52.0%	最寄りの区役所に行って教えてもらう 16.6%

図表 16-2：行政から発信される情報の入手方法 年代別集計

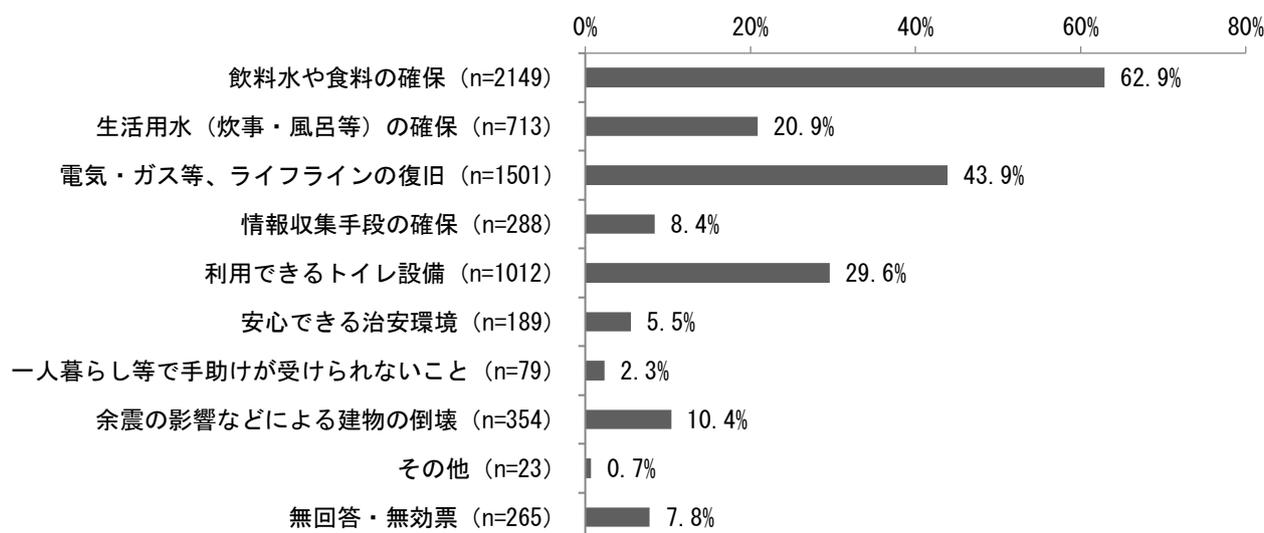
問17 発災後に避難所へ行かず、自宅で避難生活をする際に心配なことは何ですか。(2つ選択)

◇自宅で避難生活をする際に心配なことは、「飲料水や食料の確保」が最も多い

自宅で避難生活をする際に心配なことは、「飲料水や食料の確保」が62.9%と最も多く、次いで「電気・ガス等、ライフラインの復旧」が43.9%、次に「利用できるトイレ環境」で29.6%となった。

年代別集計では、概ね全体と傾向が同様であるが、「情報収集手段の確保」が唯一「50歳代～60歳代」において9.8%（5位）となった。

【全体集計】 n=3,419



図表 17-1：自宅で避難生活をする際の心配事

※【その他回答】（抜粋、一部要約）

ペット/支援が必要な家族/薬・乳児用品の不足、等

【年代別集計】 ※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,419)	飲料水や食料の確保 62.9%	電気・ガス等、ライフラインの復旧 43.9%	利用できるトイレ設備 29.6%	生活用水（炊事・風呂等）の確保 20.9%	余震の影響などによる建物の倒壊 10.4%
10歳代～20歳代 (n=306)	飲料水や食料の確保 68.0%	電気・ガス等、ライフラインの復旧 37.3%	利用できるトイレ設備 26.5%	生活用水（炊事・風呂等）の確保 24.8%	余震の影響などによる建物の倒壊 13.4%
30歳代～40歳代 (n=801)	飲料水や食料の確保 64.4%	電気・ガス等、ライフラインの復旧 38.8%	利用できるトイレ設備 27.7%	生活用水（炊事・風呂等）の確保 23.8%	余震の影響などによる建物の倒壊 13.6%
50歳代～60歳代 (n=1,230)	飲料水や食料の確保 64.8%	電気・ガス等、ライフラインの復旧 45.6%	利用できるトイレ設備 33.1%	生活用水（炊事・風呂等）の確保 20.2%	情報収集手段の確保 9.8%
70歳代以上 (n=997)	飲料水や食料の確保 60.7%	電気・ガス等、ライフラインの復旧 50.1%	利用できるトイレ設備 29.0%	生活用水（炊事・風呂等）の確保 18.1%	余震の影響などによる建物の倒壊 8.3%

図表 17-2：自宅で避難生活をする際の心配事 年代別集計

問18 自宅等に被害があり、避難所で避難生活を送らなければならなくなった際に心配なことは何ですか。(該当するものすべて選択)

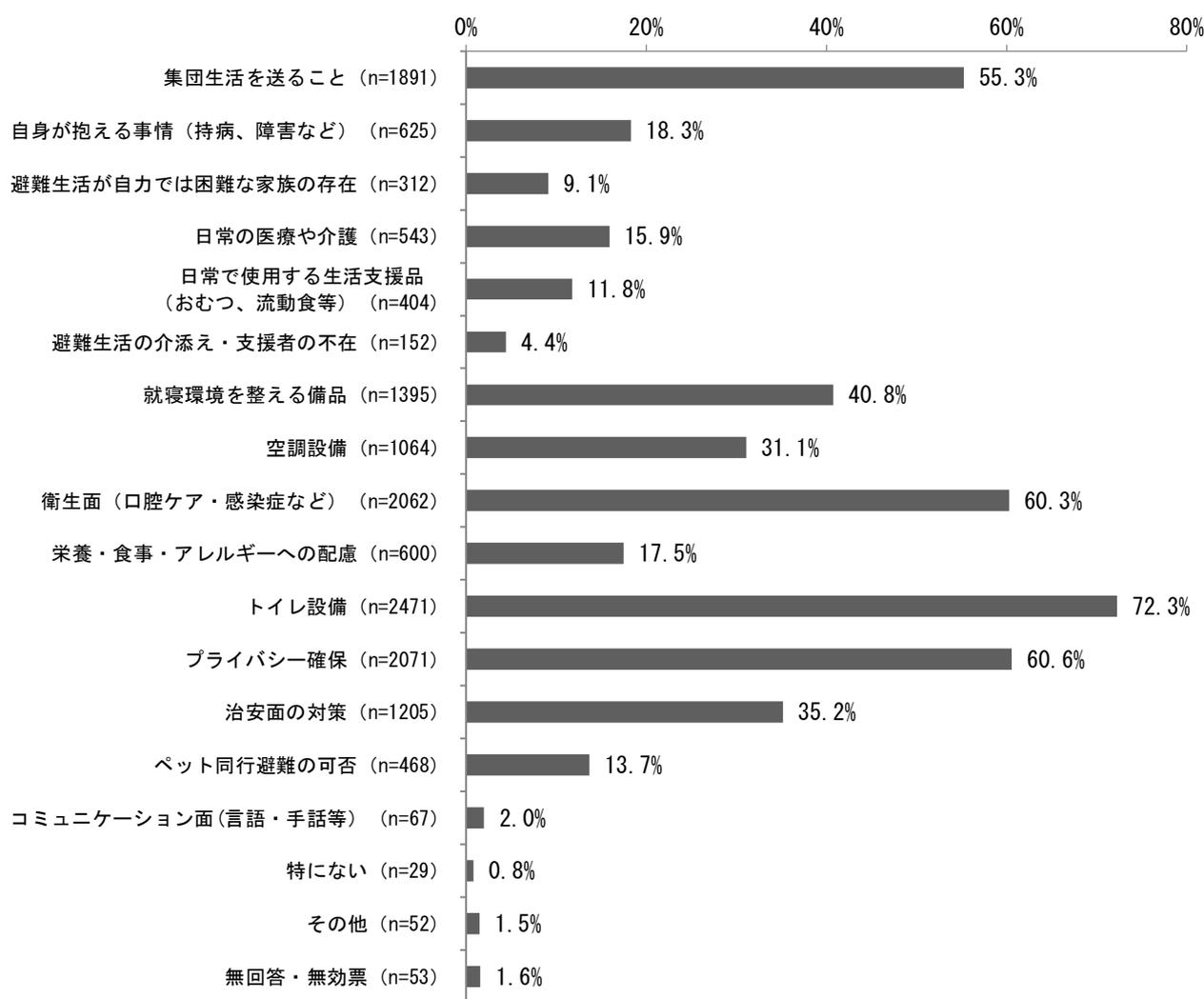
◇避難所で避難生活を送る際に心配なことは、「トイレ設備」が最も多い

避難所で避難生活を送らなければならなくなった際に心配なことは、「トイレ設備」が72.3%と最も多く、次いで「プライバシー確保」が60.6%となった。

男女別集計では、概ね同様の結果となったが、女性の方が男性と比べ、上位5位の項目を選択する割合が高い傾向にある。

年代別集計では、「10歳代～40歳代」において「治安面の対策」が5位となり、「50歳代～70歳代以上」において「就寝環境を整える備品」が5位となった。

【全体集計】 n=3,419



図表 18-1：避難所で避難生活を送る際の心配事

※【その他回答】(抜粋、一部要約)

支援が必要な家族/持病/薬・生理用品などの不足/ペット同室避難への不安/乳児・幼児へのケア、等

【男女別集計】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,419)	トイレ設備 72.3%	プライバシー確保 60.6%	衛生面（口腔ケア・感染症など） 60.3%	集団生活を送ること 55.3%	就寝環境を整える備品 40.8%
男性 (n=1,443)	トイレ設備 70.2%	衛生面（口腔ケア・感染症など） 56.1%	プライバシー確保 54.5%	集団生活を送ること 53.0%	就寝環境を整える備品 38.9%
女性 (n=1,868)	トイレ設備 75.3%	プライバシー確保 66.5%	衛生面（口腔ケア・感染症など） 64.9%	集団生活を送ること 58.1%	就寝環境を整える備品 42.7%

図表 18-2：避難所で避難生活を送る際の心配事 男女別集計

【年代別集計】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,419)	トイレ設備 72.3%	プライバシー確保 60.6%	衛生面（口腔ケア・感染症など） 60.3%	集団生活を送ること 55.3%	就寝環境を整える備品 40.8%
10歳代～20歳代 (n=306)	衛生面（口腔ケア・感染症など） 64.7%	プライバシー確保 59.8%	トイレ設備 59.5%	集団生活を送ること 54.2%	治安面の対策 39.2%
30歳代～40歳代 (n=801)	プライバシー確保 63.3%	衛生面（口腔ケア・感染症など） 61.8%	トイレ設備 61.3%	集団生活を送ること 58.4%	治安面の対策 42.8%
50歳代～60歳代 (n=1,230)	トイレ設備 75.5%	衛生面（口腔ケア・感染症など） 64.1%	プライバシー確保 64.0%	集団生活を送ること 57.7%	就寝環境を整える備品 39.8%
70歳代以上 (n=997)	トイレ設備 83.7%	プライバシー確保 57.2%	衛生面（口腔ケア・感染症など） 55.5%	集団生活を送ること 52.7%	就寝環境を整える備品 51.3%

図表 18-3：避難所で避難生活を送る際の心配事 年代別集計

問19 避難所（地域防災拠点）の運営は、地域の方達によって組織する運営委員会が担っています。あなたが、避難所運営において担うことができる支援は、次のどれですか。（2つ選択）

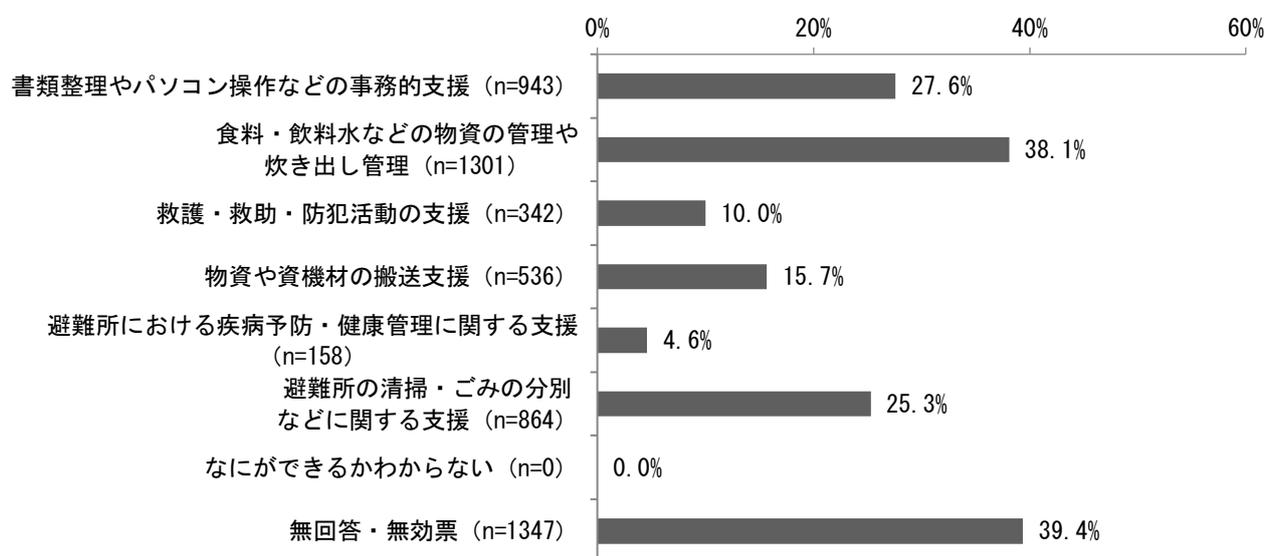
◇避難所運営で担うことができる支援は、「食料・飲料水などの物資の管理や炊き出し管理」が最も多い

避難所運営で担うことができる支援は、「無回答・無効票」を除けば、「食料・飲料水などの物資の管理や炊き出し管理」が 38.1%と最も多く選ばれ、次いで「書類整理やパソコン操作などの事務的支援」が 27.6%となった。

男女別集計では、上位5位のうち「女性」は「食料・飲料水などの物資の管理や炊き出し管理」「避難所の清掃・ごみの分別などに関する支援」「書類整理やパソコン操作などの事務的支援」の上位3位に割合が大きく偏る結果となった。

年代別集計では、上位3位のうち「10歳代」及び「20歳代」に「物資や資器材の搬送支援」が入っており、「70歳代以上」では「避難所の清掃・ごみの分別等に関する支援」の割合が 30.1%（1位）となっている。

【全体集計】 n=3,419



※ 「なにができるかわからない」のみを選択したデータを有効として計上した場合、n=537（15.7%）となり、「無回答・無効票」は n=810（23.7%）となる。

図表 19-1：避難所運営で担うことができる支援

【男女別集計】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,419)	食料・飲料水などの物資の管理や炊き出し管理 38.1%	書類整理やパソコン操作などの事務的支援 27.6%	避難所の清掃・ごみの分別などに関する支援 25.3%	物資や資器材の搬送支援 15.7%	救護・救助・防犯活動の支援 10.0%
男性 (n=1,443)	書類整理やパソコン操作などの事務的支援 32.2%	食料・飲料水などの物資の管理や炊き出し管理 31.3%	物資や資器材の搬送支援 27.9%	避難所の清掃・ごみの分別などに関する支援 23.6%	救護・救助・防犯活動の支援 14.6%
女性 (n=1,868)	食料・飲料水などの物資の管理や炊き出し管理 44.1%	避難所の清掃・ごみの分別などに関する支援 27.1%	書類整理やパソコン操作などの事務的支援 24.6%	救護・救助・防犯活動の支援 6.9%	物資や資器材の搬送支援 6.7%

図表 19-2：避難所運営で担うことができる支援 男女別集計

【年代別集計】※上位3位を抜粋

	1位	2位	3位
全体 (n=3,419)	食料・飲料水などの物資の管理や炊き出し管理 38.1%	書類整理やパソコン操作などの事務的支援 27.6%	避難所の清掃・ごみの分別などに関する支援 25.3%
10歳代 (n=72)	食料・飲料水などの物資の管理や炊き出し管理 34.7%	物資や資器材の搬送支援/避難所の清掃・ごみの分別などに関する支援(同率) 22.2%	
20歳代 (n=234)	食料・飲料水などの物資の管理や炊き出し管理 44.9%	書類整理やパソコン操作などの事務的支援 40.2%	物資や資器材の搬送支援/避難所の清掃・ごみの分別などに関する支援(同率) 18.4%
30歳代 (n=313)	食料・飲料水などの物資の管理や炊き出し管理 46.3%	書類整理やパソコン操作などの事務的支援 41.9%	避難所の清掃・ごみの分別などに関する支援 15.3%
40歳代 (n=488)	食料・飲料水などの物資の管理や炊き出し管理 44.1%	書類整理やパソコン操作などの事務的支援 37.1%	避難所の清掃・ごみの分別などに関する支援 21.7%
50歳代 (n=654)	食料・飲料水などの物資の管理や炊き出し管理 42.8%	書類整理やパソコン操作などの事務的支援 35.9%	避難所の清掃・ごみの分別などに関する支援 23.9%
60歳代 (n=576)	食料・飲料水などの物資の管理や炊き出し管理 39.6%	避難所の清掃・ごみの分別などに関する支援 32.1%	書類整理やパソコン操作などの事務的支援 27.4%
70歳代 (n=997)	避難所の清掃・ごみの分別などに関する支援 30.1%	食料・飲料水などの物資の管理や炊き出し管理 28.6%	書類整理やパソコン操作などの事務的支援 11.8%

図表 19-3：避難所運営で担うことができる支援 年代別集計

3. 災害時に配慮が必要な方について

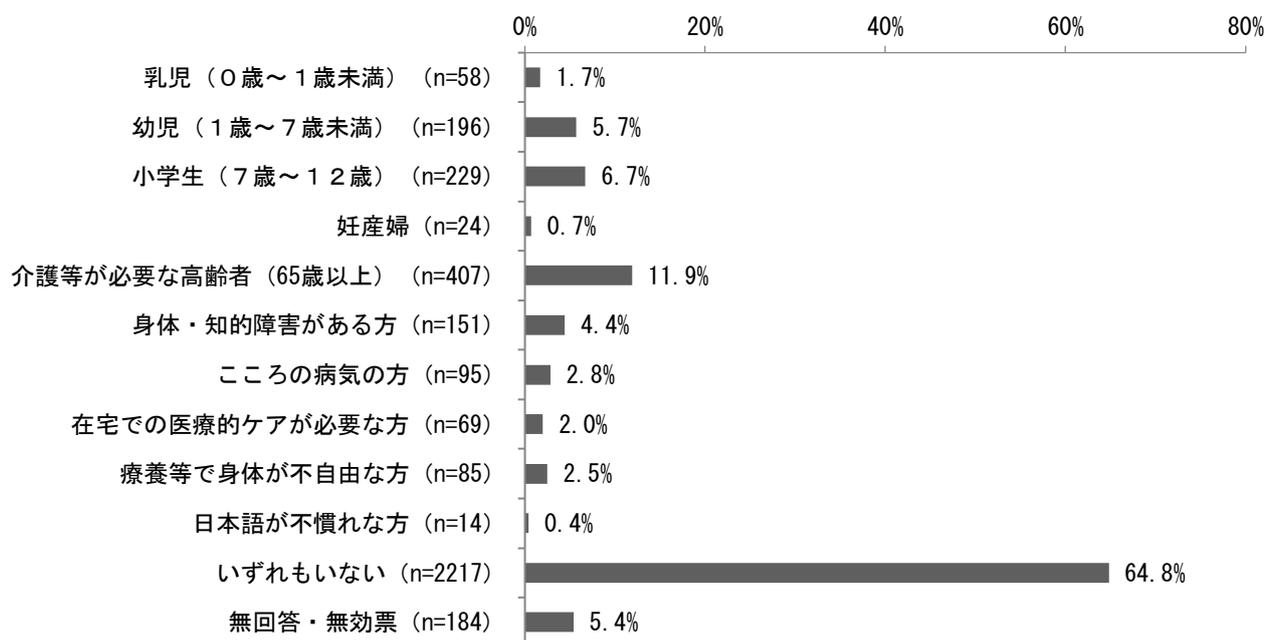
(1) 災害時に配慮が必要なご家族

問20 あなた自身やあなたの同居のご家族に、災害時に自力での避難が困難な方はいますか。
(該当するものすべて選択)

◇自力での避難が困難な方は、「いずれもない」が最も多い

災害時に自力での避難が困難な方は、「いずれもない」が 64.8%と最も多く、次いで「介護等が必要な高齢者(65歳以上)」が 11.9%、「小学生(7歳～12歳)」が 6.7%となった。

【全体集計】 n=3,419



図表 20-1：災害時に自力での避難が困難なご家族の方

<以下、自力での避難が困難な方があなた自身や同居のご家族にいと答えた回答について>

被害状況毎の避難先別集計では、自宅建物が全壊している場合、「介護等が必要な高齢者(65歳以上)」、「身体・知的障害がある方」、「こころの病気の方」、「在宅での医療的ケアが必要な方」、「療養等で身体が不自由な方」において、避難先として避難所を選ぶ割合が70%を超えている。

また、「妊産婦」と「日本語が不慣れな方」については、なにがしか自宅に支障が出た場合には、総じて「親族・友人の家等」を避難先を選ぶ傾向が高い。

在宅避難時の心配事別集計では、上位3項目に違いがみられなかった。

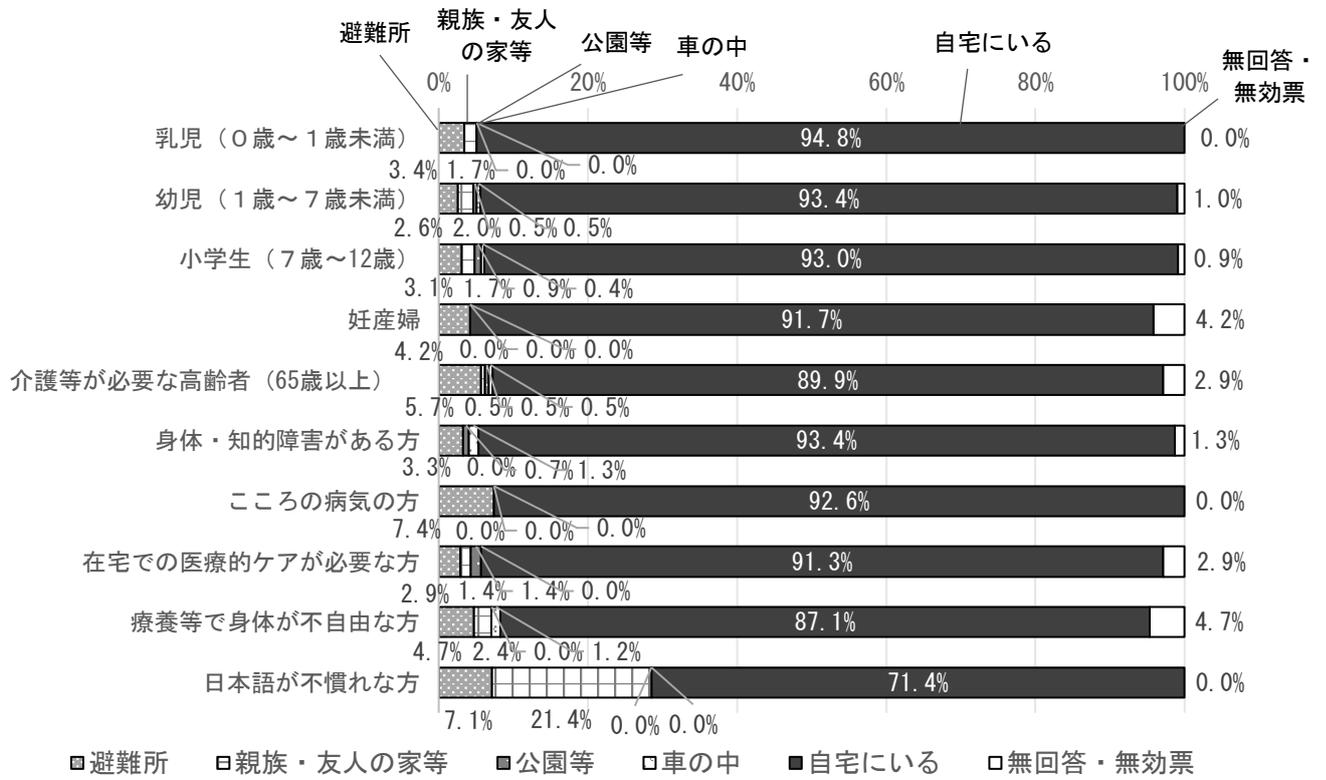
避難所での心配事別集計では、「介護等が必要な高齢者(65歳以上)」、「身体・知的障害がある方」、「こころの病気の方」、「在宅での医療的ケアが必要な方」、「療養等で身体が不自由な方」において、「トイレ設備」が、いずれも75%を超える結果となった。

また、「幼児(0歳～1歳未満)」「小学生(7歳～12歳)」「妊産婦」において、「治安面の対策」が上位5位以内に挙げられている。

【被害状況毎の避難先別集計】※自力での避難が困難な方がご家族にいると答えた方を対象

【全体集計】 n=1,018

ア 自宅建物に被害はない（水道・ガス・電気等は使える）

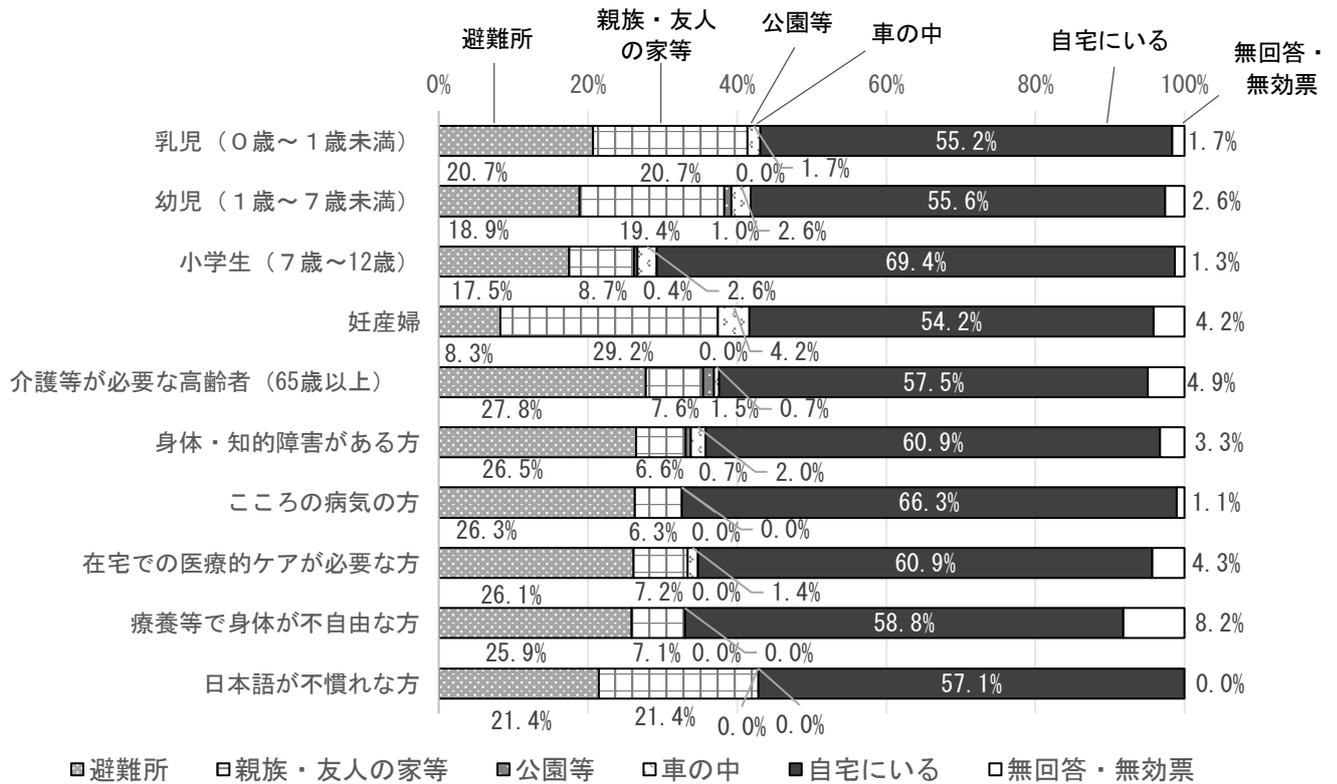


図表 20-2：災害時に自力での避難が困難なご家族の方 被害状況毎の避難先別集計

自宅建物に被害はない（水道・ガス・電気等は使える）

イ 自宅建物に被害はない（水道・ガス・電気等は使えない）

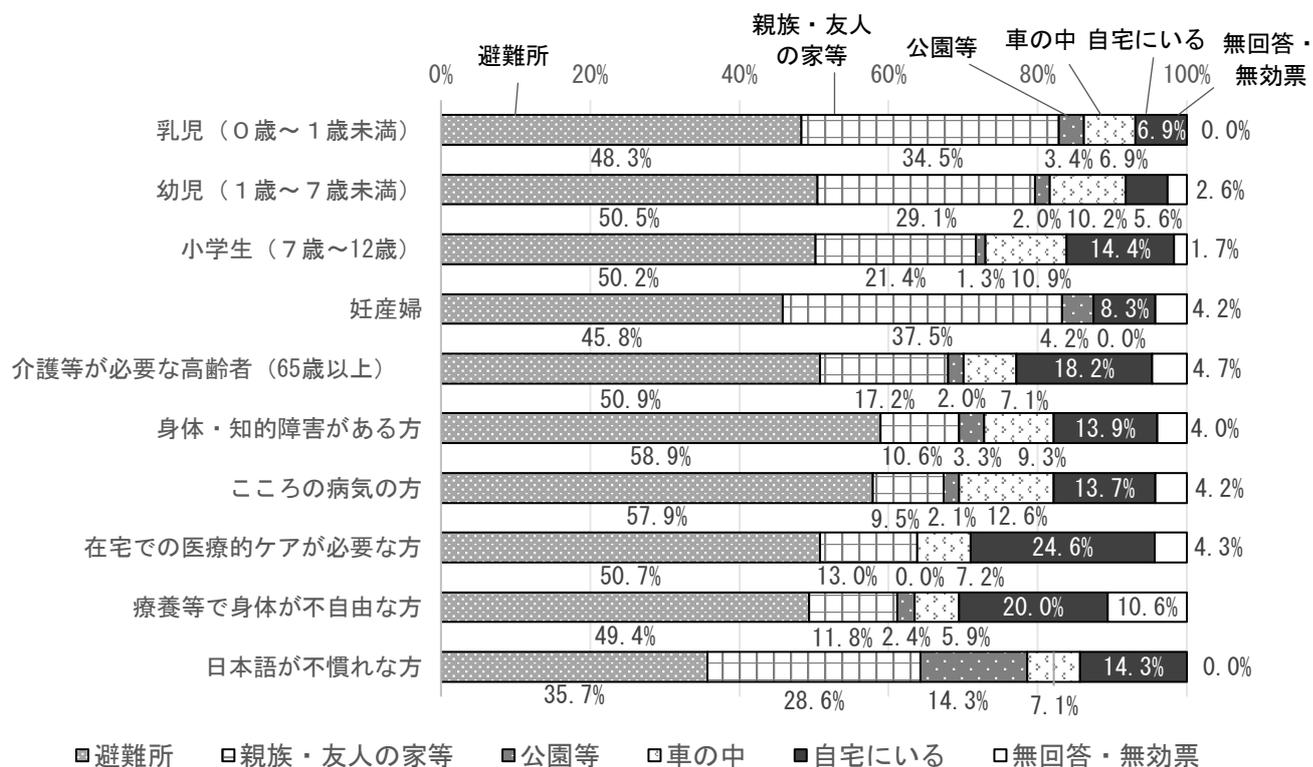
【全体集計】 n=1,018



図表 20-3：災害時に自力での避難が困難なご家族の方 被害状況毎の避難先別集計
自宅建物に被害はない（水道・ガス・電気等は使えない）

ウ 自宅建物が半壊、一部破損している場合

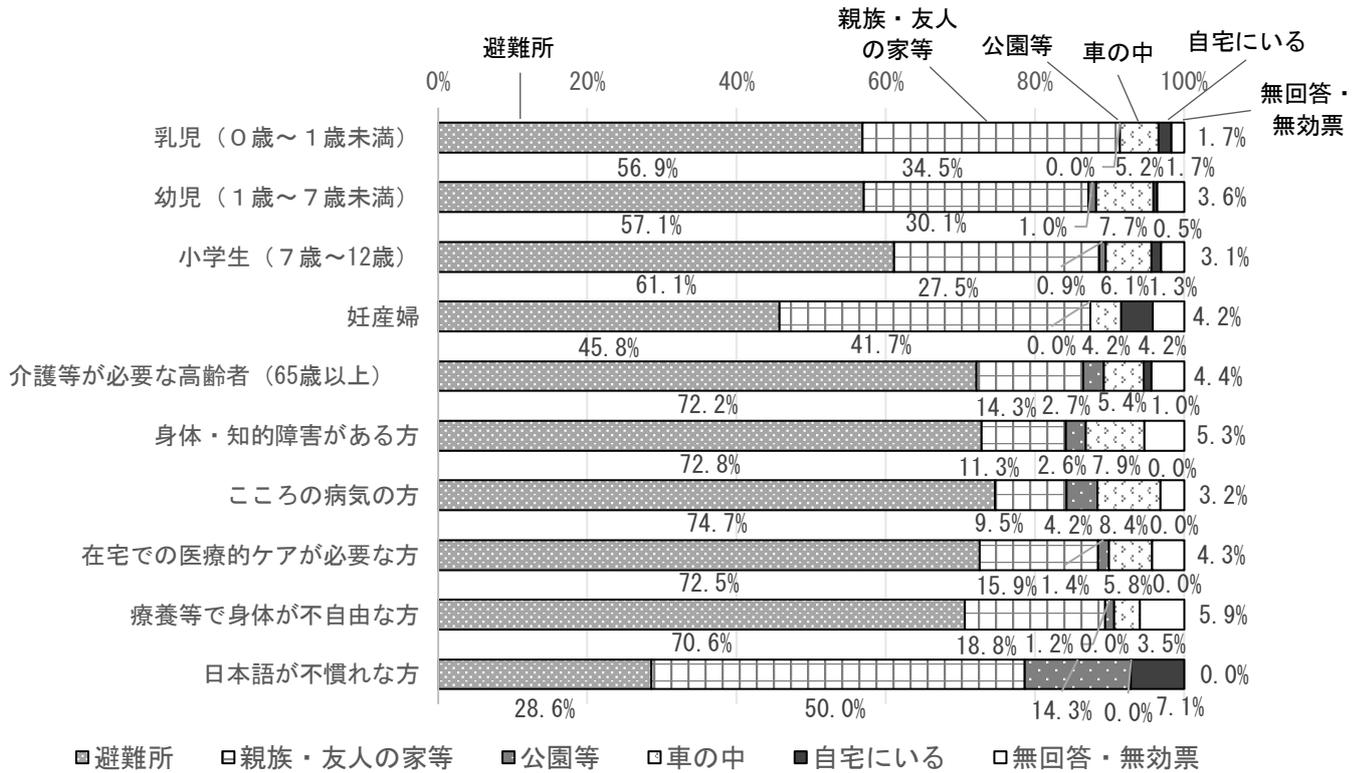
【全体集計】 n=1,018



図表 20-4：災害時に自力での避難が困難なご家族の方 被害状況毎の避難先別集計
 自宅建物が半壊、一部破損している場合

エ 自宅建物が全壊している場合

【全体集計】 n=1,018



図表 20-5：災害時に自力での避難が困難なご家族の方 被害状況毎の避難先別集計
自宅建物が全壊している場合

【在宅避難時の心配事別集計】※上位5位を抜粋

(自力での避難が困難な方があなた自身や同居のご家族にいと答えた方を対象)

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,419)	飲料水や食料の確保 62.9%	電気・ガス等、ライ フラインの復旧 43.9%	利用できるトイレ設 備 29.6%	生活用水(炊事・風呂 等)の確保 20.9%	余震の影響などに よる建物の倒壊 10.4%
乳児 (0歳~1歳未 満) (n=58)	飲料水や食料の確保 69.0%	電気・ガス等、ライ フラインの復旧 34.5%	利用できるトイレ設 備 27.6%	生活用水(炊事・風呂 等)の確保 22.4%	余震の影響などに よる建物の倒壊 17.2%
幼児 (1歳~7歳未 満) (n=196)	飲料水や食料の確保 69.4%	電気・ガス等、ライ フラインの復旧 35.7%	利用できるトイレ設 備 29.1%	生活用水(炊事・風呂 等)の確保 26.0%	余震の影響などに よる建物の倒壊 10.2%
小学生 (7歳~12歳) (n=229)	飲料水や食料の確保 65.9%	電気・ガス等、ライ フラインの復旧 39.7%	利用できるトイレ設 備 25.8%	生活用水(炊事・風呂 等)の確保 24.9%	余震の影響などに よる建物の倒壊 11.4%
妊産婦 (n=24)	飲料水や食料の確保 70.8%	電気・ガス等、ライ フラインの復旧 33.3%	利用できるトイレ設 備 20.8%	生活用水(炊事・風呂 等)の確保 16.7%	安心できる治安環境/ 余震の影響などに よる建物の倒壊 (同率) 12.5%
介護等が必要な高齢 者 (65歳以上) (n=407)	飲料水や食料の確保 62.4%	電気・ガス等、ライ フラインの復旧 47.7%	利用できるトイレ設 備 30.7%	生活用水(炊事・風呂 等)の確保 14.3%	余震の影響などに よる建物の倒壊 10.8%
身体・知的障害があ る方 (n=151)	飲料水や食料の確保 64.2%	電気・ガス等、ライ フラインの復旧 41.1%	利用できるトイレ設 備 37.1%	生活用水(炊事・風呂 等)の確保 17.9%	余震の影響などに よる建物の倒壊 9.9%
こころの病気の方 (n=95)	飲料水や食料の確保 69.5%	電気・ガス等、ライ フラインの復旧 52.6%	利用できるトイレ設 備 23.2%	生活用水(炊事・風呂 等)の確保 21.1%	余震の影響などに よる建物の倒壊 11.6%
在宅での医療的ケア が必要な方 (n=69)	飲料水や食料の確保 50.7%	電気・ガス等、ライ フラインの復旧 43.5%	利用できるトイレ設 備 37.7%	生活用水(炊事・風呂 等)の確保 14.5%	情報収集手段の確保/ 余震の影響などに よる建物の倒壊(同 率) 10.1%
療養等で身体が不自 由な方 (n=85)	電気・ガス等、ライ フラインの復旧 51.8%	飲料水や食料の確保 50.6%	利用できるトイレ設 備 29.4%	生活用水(炊事・風呂 等)の確保 14.1%	安心できる治安環境 10.6%
日本語が不慣れな方 (n=14)	飲料水や食料の確保 64.3%	電気・ガス等、ライ フラインの復旧 50.0%	利用できるトイレ設 備 28.6%	安心できる治安環境/ 余震の影響などに よる建物の倒壊(同 率)	14.3%

図表 20-6 : 災害時に自力での避難が困難なご家族の方 在宅避難時の心配事別集計

【避難所での心配事別集計】※上位5位を抜粋

(自力での避難が困難な方があなた自身や同居のご家族にいと答えた方を対象)

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,419)	トイレ設備 72.3%	プライバシー確保 60.6%	衛生面(口腔ケア・感染症など) 60.3%	集団生活を送ること 55.3%	就寝環境を整える備品 40.8%
乳児 (0歳～1歳未満) (n=58)	プライバシー確保 60.3%	日常生活で使用する生活支援品(おむつ・流動食等) 56.9%	衛生面(口腔ケア・感染症など) 53.4%	トイレ設備 51.7%	集団生活を送ること 50.0%
幼児 (1歳～7歳未満) (n=196)	トイレ設備 58.7%	衛生面(口腔ケア・感染症など) 56.6%	プライバシー確保 55.6%	集団生活を送ること 55.1%	治安面の対策 43.4%
小学生 (7歳～12歳) (n=229)	プライバシー確保 68.1%	衛生面(口腔ケア・感染症など) 61.6%	トイレ設備 59.4%	集団生活を送ること 59.0%	治安面の対策 50.2%
妊産婦 (n=24)	衛生面(口腔ケア・感染症など) 75.0%	トイレ設備/治安面の対策(同率) 62.5%		プライバシー確保 54.2%	就寝環境を整える備品 41.7%
介護等が必要な高齢者 (65歳以上) (n=407)	トイレ設備 77.9%	衛生面(口腔ケア・感染症など) 59.5%	プライバシー確保 52.3%	集団生活を送ること 51.4%	自身が抱える事情(持病、障害など) 40.8%
身体・知的障害がある方 (n=151)	トイレ設備 76.2%	プライバシー確保 57.6%	衛生面(口腔ケア・感染症など) 56.3%	自身が抱える事情(持病、障害など) 50.3%	集団生活を送ること 46.4%
こころの病気の方 (n=95)	トイレ設備 86.3%	衛生面(口腔ケア・感染症など) 67.4%	プライバシー確保 63.2%	集団生活を送ること 60.0%	自身が抱える事情(持病、障害など) 57.9%
在宅での医療的ケアが必要な方 (n=69)	トイレ設備 82.6%	衛生面(口腔ケア・感染症など) 60.9%	日常の医療や介護 59.4%	プライバシー確保 55.1%	自身が抱える事情(持病、障害など) 52.2%
療養等で身体が不自由な方 (n=85)	トイレ設備 83.5%	衛生面(口腔ケア・感染症など) 64.7%	自身が抱える事情(持病、障害など)/日常の医療や介護(同率) 57.6%		プライバシー確保 56.5%
日本語が不慣れな方 (n=14)	衛生面(口腔ケア・感染症など) 85.7%	集団生活を送ること/プライバシー確保(同率) 64.3%		トイレ設備 57.1%	避難生活を送ることが困難な家族の存在/空調設備/治安面の対策(同率) 28.6%

図表 20-7：災害時に自力での避難が困難なご家族の方 避難所での心配事別集計

(問20で「いずれもない」以外のいずれかを答えた方はご回答ください)
 問20-1 災害時に配慮が必要なご家族(あなた自身も含む)について、災害時の避難等を手助けしてくれる方(ご家族以外)はいますか。(該当するものすべて選択)

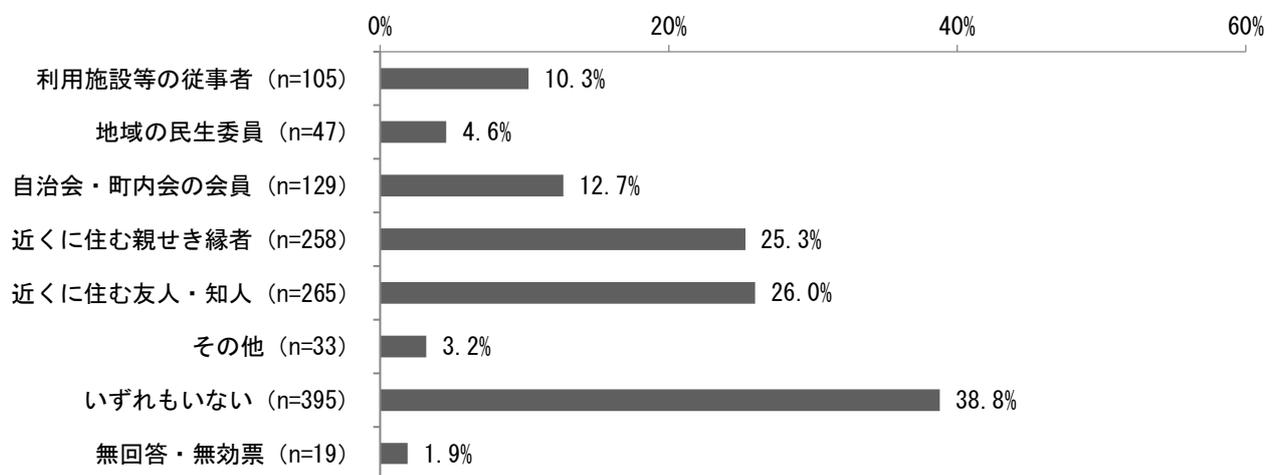
◇災害時の避難等を手助けしてくれる方は、「いずれもない」が最も多い

災害時の避難等を手助けしてくれる方は、「いずれもない」が38.8%と最も多く、次いで「近くに住む友人・知人」が26.0%となった。

また、「いずれもない」と答えた人を対象とすると、行政から発信してほしい情報別(災害時)集計では、「家族や友人・知人の安否情報」が全体よりも7.5ポイント高い38.2%となった。

更に、災害対策についての要望別集計では、全体集計をみると「災害時要援護者(高齢者、障害者など)への支援対策」は上位5位以内には見られなかったが、「いずれもない」と答えた人を対象とすると24.8%(4位)となり、在宅避難時の心配事別集計では、傾向に違いが見られなかった。

【全体集計】 n=1,018



図表 20-1-1 : 災害時の避難等を手助けしてくれる方

【行政から発信してほしい情報別（災害時）】※上位5位を抜粋

（「いずれもない」の回答者のみを対象）

	1位	2位	3位	4位	5位
全体(n=3,419)	ライフラインの被害・復旧情報 31.6%	家族や友人・知人の安否情報 30.7%	食料・飲料水の入手方法 27.4%	地震の規模や震源地、津波、余震の情報など 22.4%	避難が必要かどうかの指示情報 16.5%
いずれもない(n=395)	家族や友人・知人の安否情報 38.2%	食料・飲料水の入手方法 33.4%	ライフラインの被害・復旧情報 32.7%	地震の規模や震源地、津波、余震の情報など 25.6%	避難が必要かどうかの指示情報 20.5%

図表 20-1-2：災害時の避難等を手助けしてくれる方（「いずれもない」の回答者のみを対象）

行政から発信してほしい情報別（災害時）

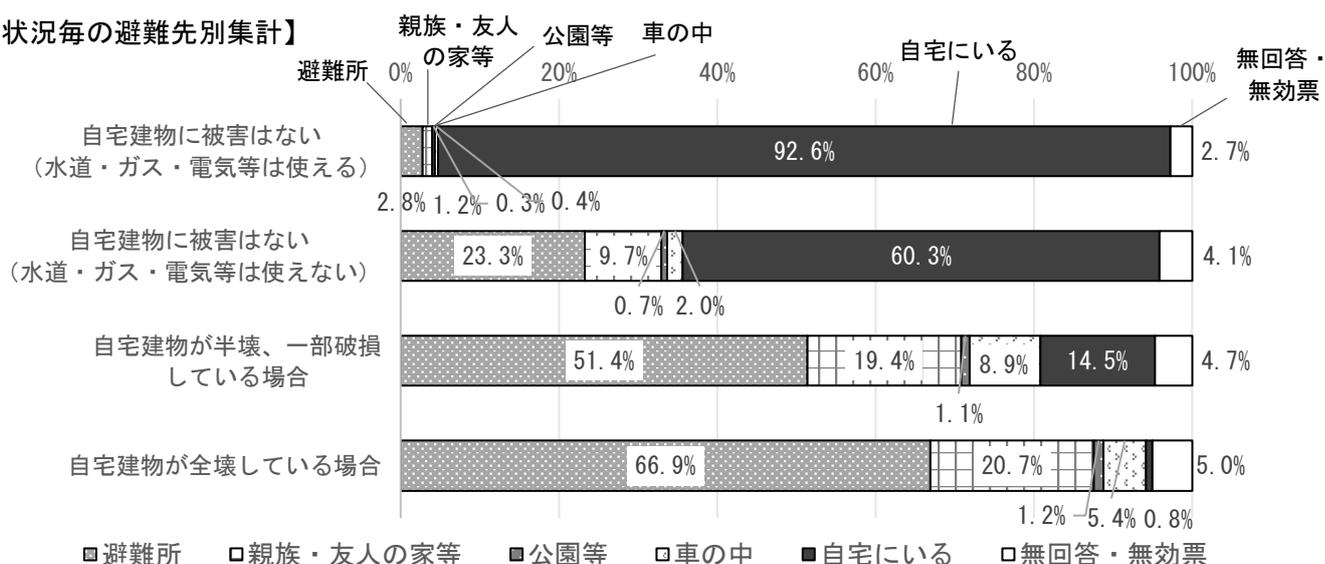
【災害対策についての要望別集計】※上位5位を抜粋（「いずれもない」の回答者のみを対象）

	1位	2位	3位	4位	5位
全体(n=3,419)	水・食料・毛布などの十分な備蓄 62.5%	電気・ガス・水道・電話通信などのライフライン施設の耐震性の向上 57.1%	緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化 45.9%	応援部隊や支援物資の受け入れ態勢の整備 26.2%	医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化 24.9%
いずれもない(n=395)	水・食料・毛布などの十分な備蓄 65.6%	電気・ガス・水道・電話通信などのライフライン施設の耐震性の向上 48.9%	緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化 43.0%	災害時要援護者（高齢者、障害者など）への支援対策 24.8%	応援部隊や支援物資の受け入れ態勢の整備 24.3%

図表 20-1-3：災害時の避難等を手助けしてくれる方（「いずれもない」の回答者のみを対象）

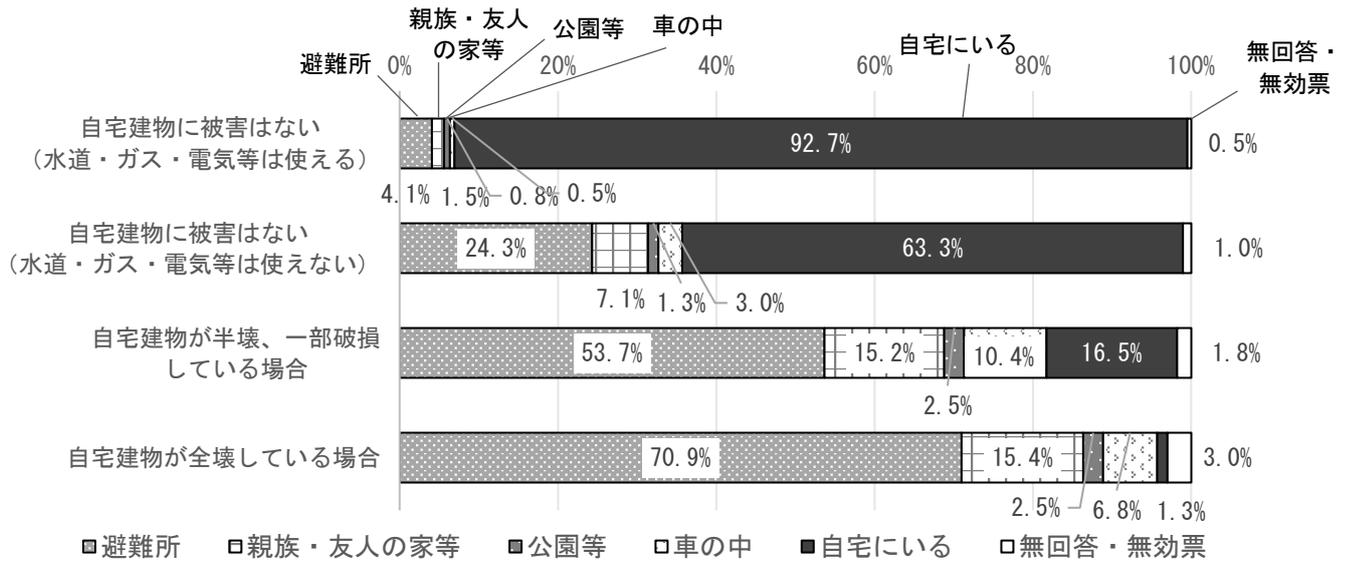
災害対策についての要望別集計

【状況毎の避難先別集計】



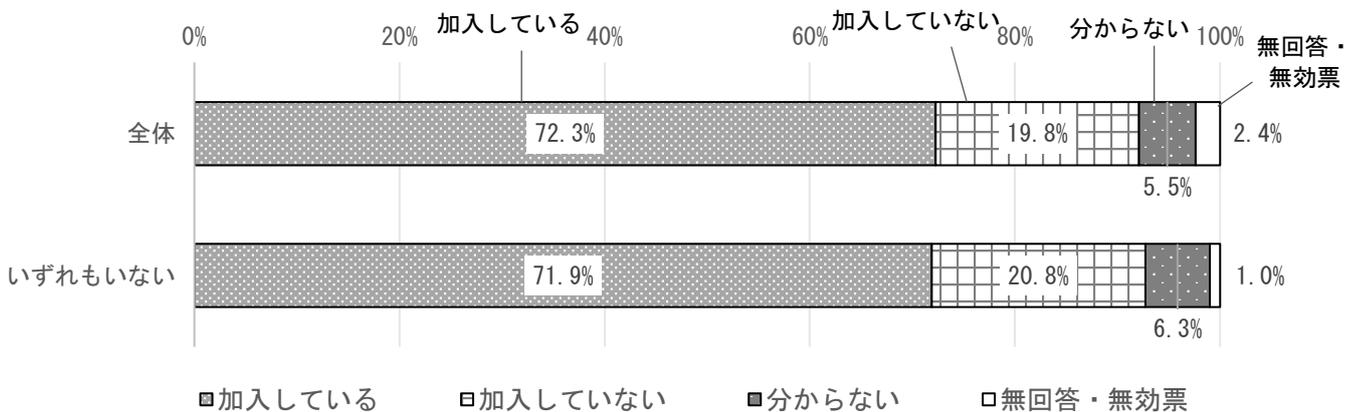
図表 20-1-4：状況毎の避難先別集計

【状況毎の避難先別集計】※「いずれもない」の回答者のみを対象



図表 20-1-5：災害時の避難等を手助けしてくれる方（「いずれもない」の回答者のみを対象） 状況毎の避難先別集計

【自治会・町内会加入別集計】※「いずれもない」の回答者のみを対象



図表 20-1-6：災害時の避難等を手助けしてくれる方（「いずれもない」の回答者のみを対象）

自治会・町内会加入別集計

【在宅避難時の心配事別集計】※上位5位を抜粋（「いずれもない」の回答者のみを対象）

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,419)	飲料水や食料の確保 62.9%	電気・ガス等、ライフラインの復旧 43.9%	利用できるトイレ設備 29.6%	生活用水（炊事・風呂等）の確保 20.9%	余震の影響などによる建物の倒壊 10.4%
いずれもない (n=395)	飲料水や食料の確保 69.4%	電気・ガス等、ライフラインの復旧 45.7%	利用できるトイレ設備 33.1%	生活用水（炊事・風呂等）の確保 17.5%	余震の影響などによる建物の倒壊 12.9%

図表 20-1-7：災害時の避難等を手助けしてくれる方（「いずれもない」の回答者のみを対象）

在宅避難時の心配事別集計

【避難所での心配事別集計】※上位5位を抜粋（「いずれもない」の回答者のみを対象）

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,419)	トイレ設備 72.3%	プライバシー確保 60.6%	衛生面（口腔ケア・感染症など） 60.3%	集団生活を送ること 55.3%	就寝環境を整える備品 40.8%
いずれもない (n=395)	トイレ設備 68.9%	プライバシー確保 57.7%	衛生面（口腔ケア・感染症など） 56.2%	集団生活を送ること 55.9%	治安面の対策 39.2%

図表 20-1-8：災害時の避難等を手助けしてくれる方（「いずれもない」の回答者のみを対象）

避難所での心配事別集計

【通信途絶時の情報入手手段別集計】※上位5位を抜粋（「いずれもない」の回答者のみを対象）

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,419)	ラジオやテレビなどから情報を入手する 75.2%	避難所へ行って教えてもらう 75.1%	家族、友人・知人から教えてもらう 43.5%	自治会・町内会の人から教えてもらう 42.7%	最寄りの区役所に行って教えてもらう 19.8%
いずれもない (n=395)	ラジオやテレビなどから情報を入手する 74.7%	避難所へ行って教えてもらう 73.7%	自治会・町内会の人から教えてもらう 34.2%	家族、友人・知人から教えてもらう 30.9%	最寄りの区役所に行って教えてもらう 18.2%

図表 20-1-9：災害時の避難等を手助けしてくれる方（「いずれもない」の回答者のみを対象）

通信途絶時の情報入手手段別集計

4. 災害情報について

(1) 災害に関する情報収集

問21 あなたは、防災情報（日頃の備え）をどのような方法で入手している又はしたいですか。
（該当するものすべて選択）

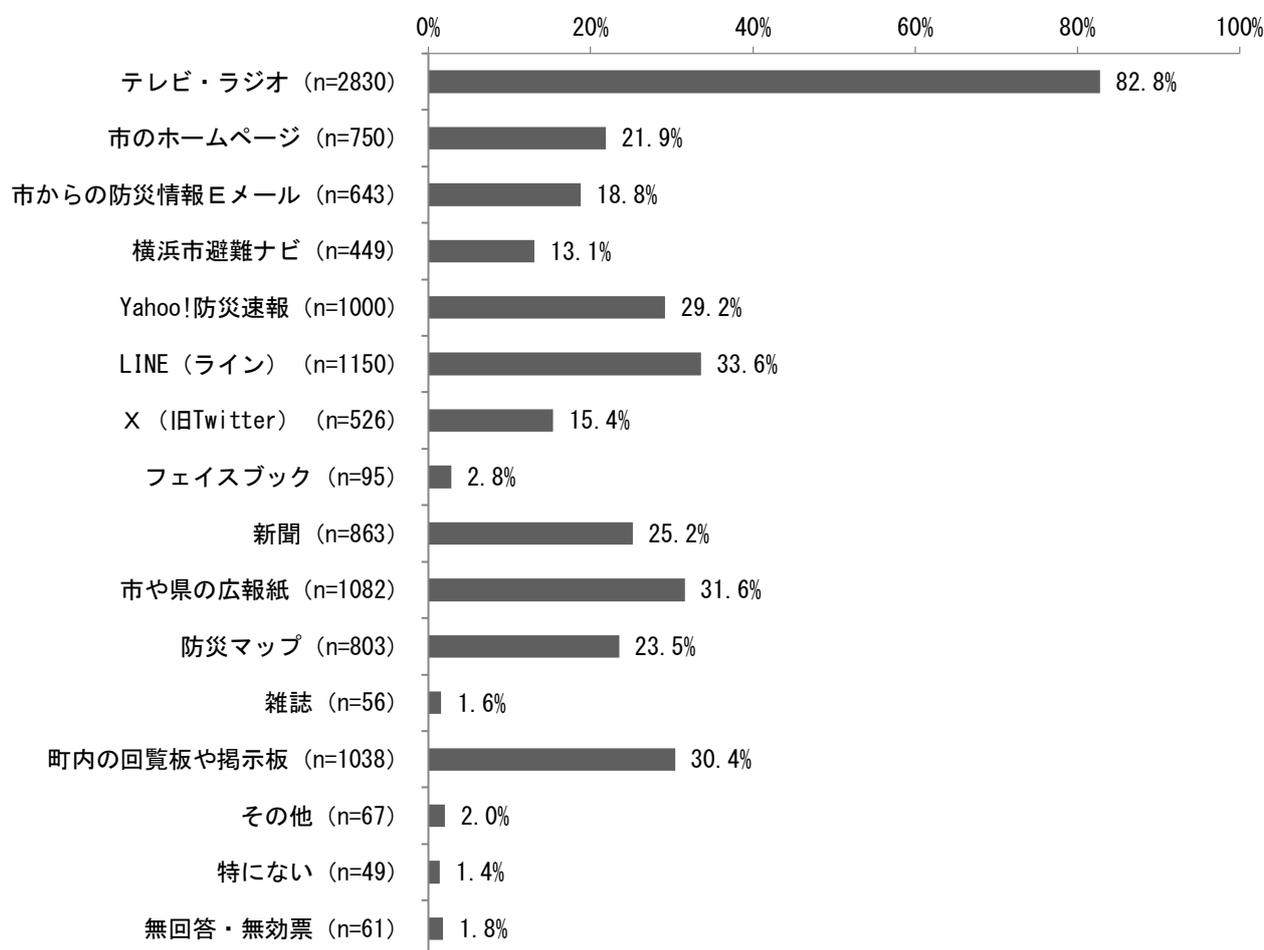
◇防災情報の入手方法は、「テレビ・ラジオ」が最も多い

防災情報の入手方法は、「テレビ・ラジオ」が82.8%と最も多く、次いで「LINE（ライン）」が33.6%となった。

年代別集計では、全ての年代通じて「テレビ・ラジオ」が1位となり、70歳代以上で割合の高い「新聞」48.8%（3位）、「防災マップ」29.2%（5位）は、他の年代では上位5位以内に見られなかった。

更に、「50歳代～60歳代」、「70歳代以上」において、「町内の回覧板や掲示板」が5位以内に見られた。

【全体集計】 n=3,419



図表 21-1：防災情報の入手方法

※【その他回答】（抜粋、一部要約）

スマホの活用（SNS）/Youtube/自治会、等

【年代別集計】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,419)	テレビ・ラジオ 82.8%	LINE (ライン) 33.6%	市や県の広報紙 31.6%	町内の回覧板や掲示板 30.4%	Yahoo! 防災速報 29.2%
10歳代～ 20歳代 (n=306)	テレビ・ラジオ 71.9%	LINE (ライン) 46.1%	X (旧 Twitter) 44.4%	Yahoo! 防災速報 34.6%	市のホームページ 15.4%
30歳代～ 40歳代 (n=801)	テレビ・ラジオ 75.7%	LINE (ライン) 42.6%	Yahoo! 防災速報 37.7%	X (旧 Twitter) 29.3%	市のホームページ 23.1%
50歳代～ 60歳代 (n=1,230)	テレビ・ラジオ 86.0%	LINE (ライン) 36.9%	Yahoo! 防災速報 35.8%	市や県の広報紙 30.8%	町内の回覧板や掲示板 27.2%
70歳代以上 (n=997)	テレビ・ラジオ 91.7%	町内の回覧板や掲示板 49.9%	新聞 48.8%	市や県の広報紙 46.9%	防災マップ 29.2%

図表 21-2 : 防災情報の入手方法 年代別集計

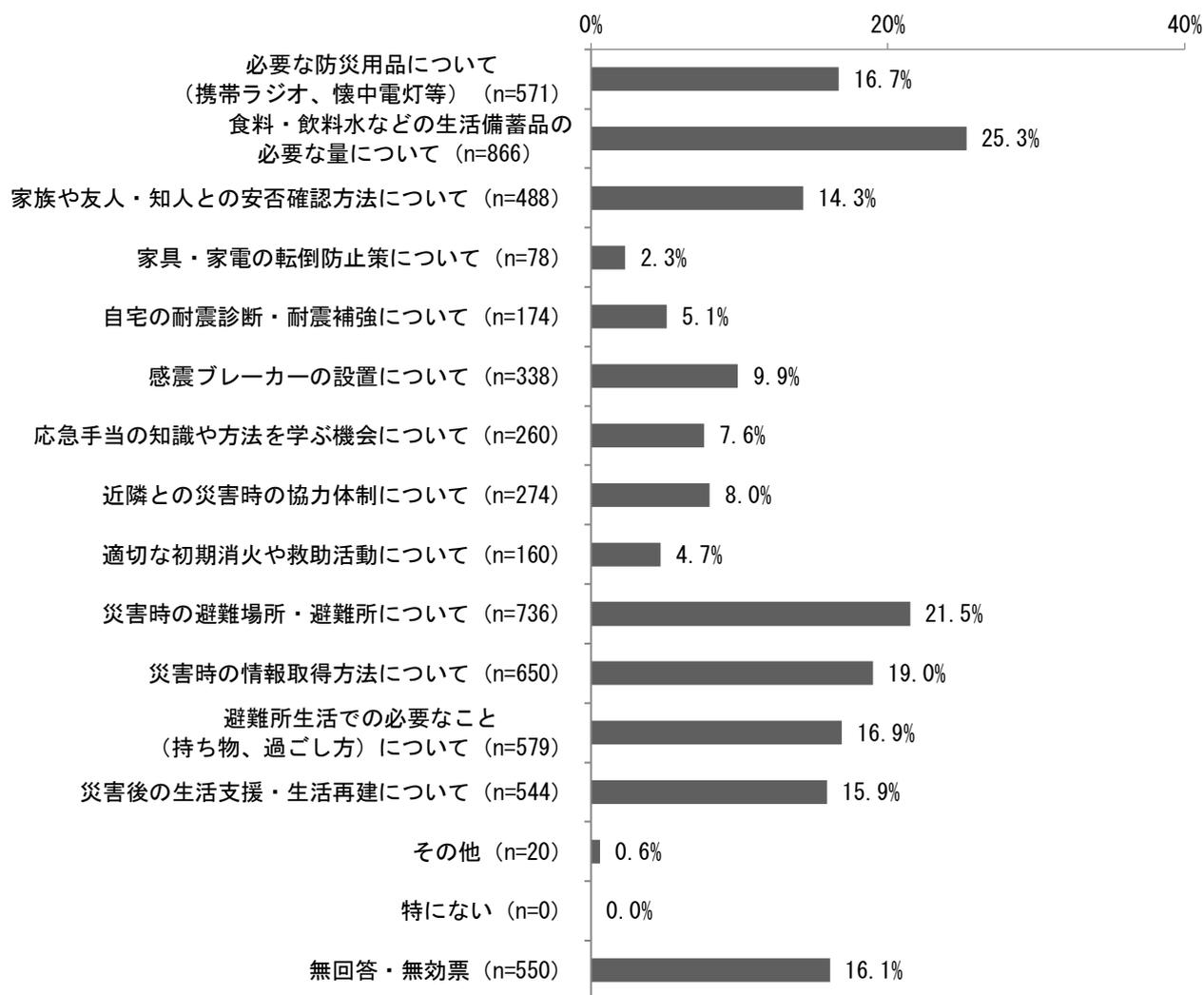
問22 あなたが、災害時への備えとして**平常時**に行政から特に発信してほしい情報は何か。
また、大地震の**発災時**に行政から特に発信してほしい情報は何か。(それぞれ2つ選択)

1 - 【平常時】

◇行政から発信してほしい情報は「食料・飲料水などの生活備蓄品の必要な量について」が最も多い

平常時に行政から発信してほしい情報は、「食料・飲料水などの生活備蓄品の必要な量について」が25.3%と最も多く、次いで「災害時の避難場所・避難所について」が21.5%となった。

【全体集計】 n=3,419



図表 22-1-1：行政から発信してほしい情報 平常時

【訓練参加実績別集計】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,419)	食料・飲料水などの生活備蓄品の必要な量について 25.3%	災害時の避難場所・避難所について 21.5%	災害時の情報取得方法について 19.0%	避難所生活での必要なこと(持ち物、過ごし方)について 16.9%	必要な防災用品について(携帯ラジオ、懐中電灯等) 16.7%
自治会・町内会の防災訓練 (n=889)	食料・飲料水などの生活備蓄品の必要な量について 23.7%	避難所生活での必要なこと(持ち物、過ごし方)について 19.7%	災害後の生活支援・生活再建について 18.9%	災害時の情報取得方法について 18.4%	災害時の避難場所・避難所について 17.7%
地域防災拠点の訓練 (n=205)	食料・飲料水などの生活備蓄品の必要な量について 23.9%	災害後の生活支援・生活再建について 21.0%	災害時の情報取得方法について 18.0%	必要な防災用品について(携帯ラジオ、懐中電灯等) 15.1%	避難所生活での必要なこと(持ち物、過ごし方)について 14.1%
学校等での防災教室の受講 (n=173)	食料・飲料水などの生活備蓄品の必要な量について 26.6%	家族や友人・知人との安否確認方法について 19.1%	災害時の避難場所・避難所について 18.5%	必要な防災用品について(携帯ラジオ、懐中電灯等) 17.3%	避難所生活での必要なこと(持ち物、過ごし方)について 16.2%
横浜防災ライセンス講習会 (n=28)	避難所生活での必要なこと(持ち物、過ごし方)について 21.4%	適切な初期消火や救助活動について 17.9%	食料・飲料水などの生活備蓄品の必要な量について/家族や友人・知人との安否確認方法について/感震ブレーカーの設置について/近隣との災害時の協力体制について/災害時の避難場所・避難所について/災害後の生活支援・生活再建について(同率) 14.3%		
よこはま防災研修(旧:防災・減災推進研修) (n=21)	避難所生活での必要なこと(持ち物、過ごし方)について 42.9%	災害後の生活支援・生活再建について 28.6%	災害時の情報取得方法について 19.0%	必要な防災用品について(携帯ラジオ、懐中電灯等)/応急手当の知識や方法を学ぶ機会について/適切な初期消火や救助活動について 14.3%	
消防団活動 (n=29)	食料・飲料水などの生活備蓄品の必要な量について 34.5%	必要な防災用品について(携帯ラジオ、懐中電灯等) 20.7%	適切な初期消火や救助活動について 17.2%	家族や友人・知人との安否確認方法について/応急手当の知識や方法を学ぶ機会について 13.8%	
家庭防災員研修 (n=53)	災害後の生活支援・生活再建について 20.8%	必要な防災用品について(携帯ラジオ、懐中電灯等)/避難所生活での必要なこと(持ち物、過ごし方)について(同率) 18.9%		食料・飲料水などの生活備蓄品の必要な量について 17.0%	災害時の避難場所・避難所について 15.1%
オンラインでの防災研修 (n=49)	災害時の避難場所・避難所について 26.5%	食料・飲料水などの生活備蓄品の必要な量について/災害時の情報取得方法について/避難所生活での必要なこと(持ち物、過ごし方)について(同率) 22.4%			必要な防災用品について(携帯ラジオ、懐中電灯等) 18.4%
上記以外の区役所・消防署主催の講習会や訓練 (n=101)	食料・飲料水などの生活備蓄品の必要な量について 30.7%	必要な防災用品について(携帯ラジオ、懐中電灯等)/災害時の情報取得方法について(同率) 21.8%		家族や友人・知人との安否確認方法について/避難所生活での必要なこと(持ち物、過ごし方)について(同率) 16.8%	
その他 (n=150)	食料・飲料水などの生活備蓄品の必要な量について 26.0%	災害時の避難場所・避難所について 21.3%	災害時の情報取得方法について 20.0%	家族や友人・知人との安否確認方法について 19.3%	避難所生活での必要なこと(持ち物、過ごし方)について 17.3%
何も参加していない (n=2082)	食料・飲料水などの生活備蓄品の必要な量について 26.0%	災害時の避難場所・避難所について 23.6%	災害時の情報取得方法について 19.6%	必要な防災用品について(携帯ラジオ、懐中電灯等) 18.1%	避難所生活での必要なこと(持ち物、過ごし方)について 16.0%

図表 22-1-2: 行政から発信してほしい情報 平常時 訓練参加実績別集計

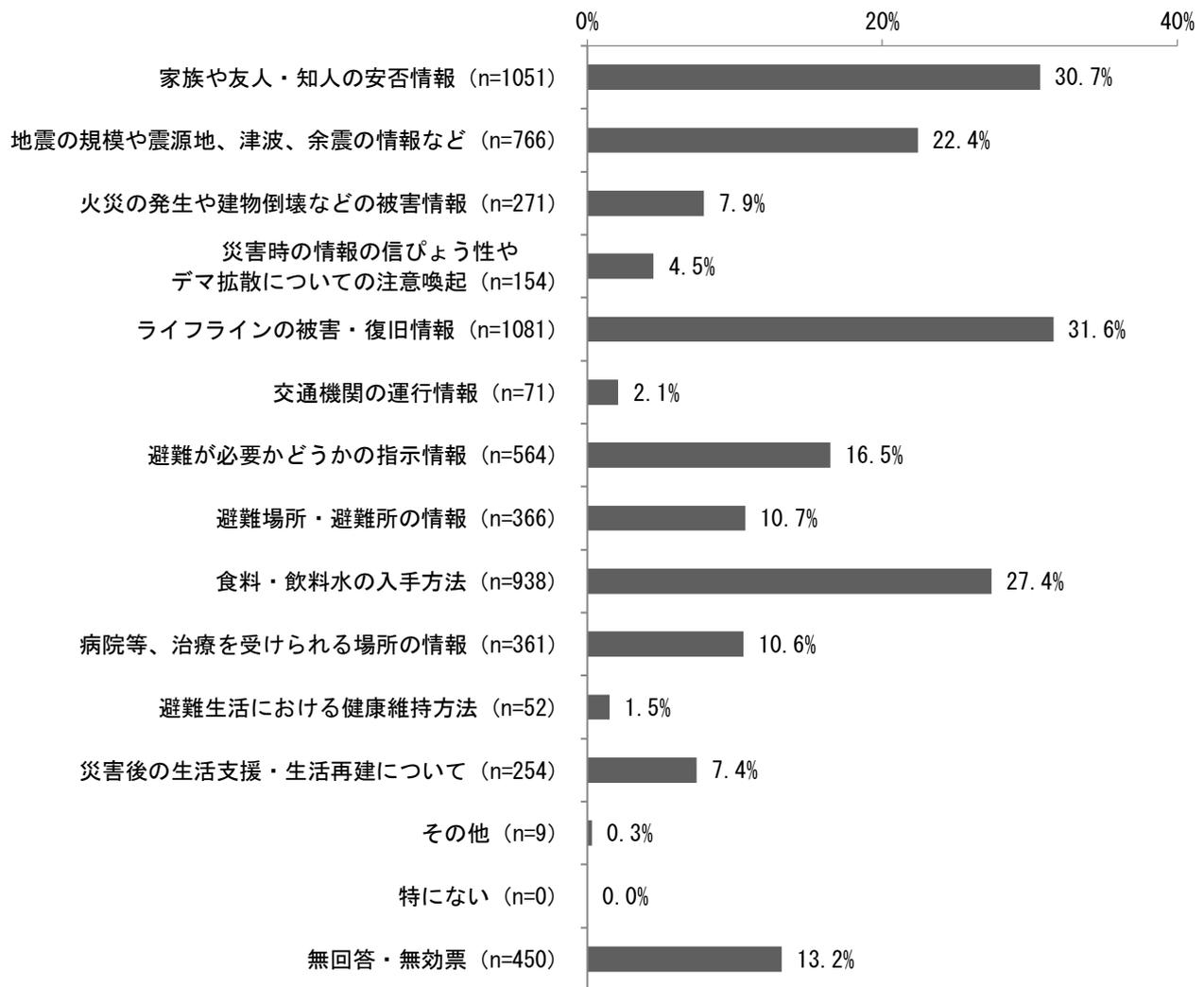
2 - 【災害時】

◇行政から発信してほしい情報は「ライフラインの被害・復旧情報」が最も多い

大地震の発災時に行政から発信してほしい情報は、「ライフラインの被害・復旧情報」が 31.6%と最も多く、次いで「家族や友人・知人の安否情報」が 30.7%となった。

災害時に自力避難が困難な家族別集計では、「身体・知的障害がある方」、「こころの病気の方」、「在宅での医療的ケアが必要な方」及び「療養等で体が不自由な方」において、「病院等、治療が受けられる場所の提供」が上位5位以内あげられている。

【全体集計】 n=3,419



図表 22-2-1：行政から発信してほしい情報 災害時

【災害時に自力避難が困難な家族別集計】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,419)	ライフラインの被害・復旧情報 31.6%	家族や友人・知人の安否情報 30.7%	食料・飲料水の入手方法 27.4%	地震の規模や震源地、津波、余震の情報など 22.4%	避難が必要かどうかの指示情報 16.5%
乳児 (0歳～1歳未満) (n=58)	家族や友人・知人の安否情報 41.4%	地震の規模や震源地、津波、余震の情報など 34.5%	ライフラインの被害・復旧情報 24.1%	避難が必要かどうかの指示情報 22.4%	食料・飲料水の入手方法 19.0%
幼児 (1歳～7歳未満) (n=196)	家族や友人・知人の安否情報 41.8%	ライフラインの被害・復旧情報 30.6%	地震の規模や震源地、津波、余震の情報など 28.1%	食料・飲料水の入手方法 24.5%	避難が必要かどうかの指示情報 13.3%
小学生 (7歳～12歳) (n=229)	家族や友人・知人の安否情報 42.8%	ライフラインの被害・復旧情報 30.6%	地震の規模や震源地、津波、余震の情報など 26.6%	食料・飲料水の入手方法 24.0%	避難が必要かどうかの指示情報 17.0%
妊産婦 (n=24)	家族や友人・知人の安否情報 45.8%	ライフラインの被害・復旧情報/食料・飲料水の入手方法(同率) 29.2%		地震の規模や震源地、津波、余震の情報など 20.8%	避難が必要かどうかの指示情報/避難場所・避難所の情報 12.5%
介護等が必要な高齢者 (65歳以上) (n=407)	ライフラインの被害・復旧情報 31.9%	家族や友人・知人の安否情報 26.8%	食料・飲料水の入手方法 23.8%	避難が必要かどうかの指示情報 19.7%	地震の規模や震源地、津波、余震の情報など 16.5%
身体・知的障害がある方 (n=151)	家族や友人・知人の安否情報 31.1%	ライフラインの被害・復旧情報 27.2%	食料・飲料水の入手方法/病院等、治療を受けられる場所の情報(同率) 21.2%		地震の規模や震源地、津波、余震の情報など 17.2%
こころの病気の方 (n=95)	食料・飲料水の入手方法 28.4%	家族や友人・知人の安否情報 26.3%	ライフラインの被害・復旧情報 23.2%	避難が必要かどうかの指示情報 17.9%	病院等、治療を受けられる場所の提供 16.8%
在宅での医療的ケアが必要な方 (n=69)	ライフラインの被害・復旧情報 30.4%	食料・飲料水の入手方法 26.1%	病院等、治療を受けられる場所の提供 24.6%	避難が必要かどうかの指示情報 21.7%	家族や友人・知人の安否情報 20.3%
療養等で身体が不自由な方 (n=85)	ライフラインの被害・復旧情報 34.1%	家族や友人・知人の安否情報 23.5%	避難が必要かどうかの指示情報 18.8%	病院等、治療を受けられる場所の提供 17.6%	地震の規模や震源地、津波、余震の情報など 14.1%
日本語が不慣れな方 (n=14)	家族や友人・知人の安否情報 42.9%	ライフラインの被害・復旧情報 28.6%	地震の規模や震源地、津波、余震の情報など/火災の発生や建物倒壊などの被害情報/ 避難が必要かどうかの指示情報(同率) 14.3%		

図表 22-2-2 : 行政から発信してほしい情報 災害時 災害時に自力避難が困難な家族別集計

5. 横浜市の災害対策に係るご意見について

(1) 横浜市の災害対策に係るご意見

問23 災害対策について、横浜市に力を入れて取り組んでほしいことはどれですか。(5つまで選択)

◇横浜市に力を入れて取り組んでほしいことは「水・食料・毛布などの十分な備蓄」が最も多い

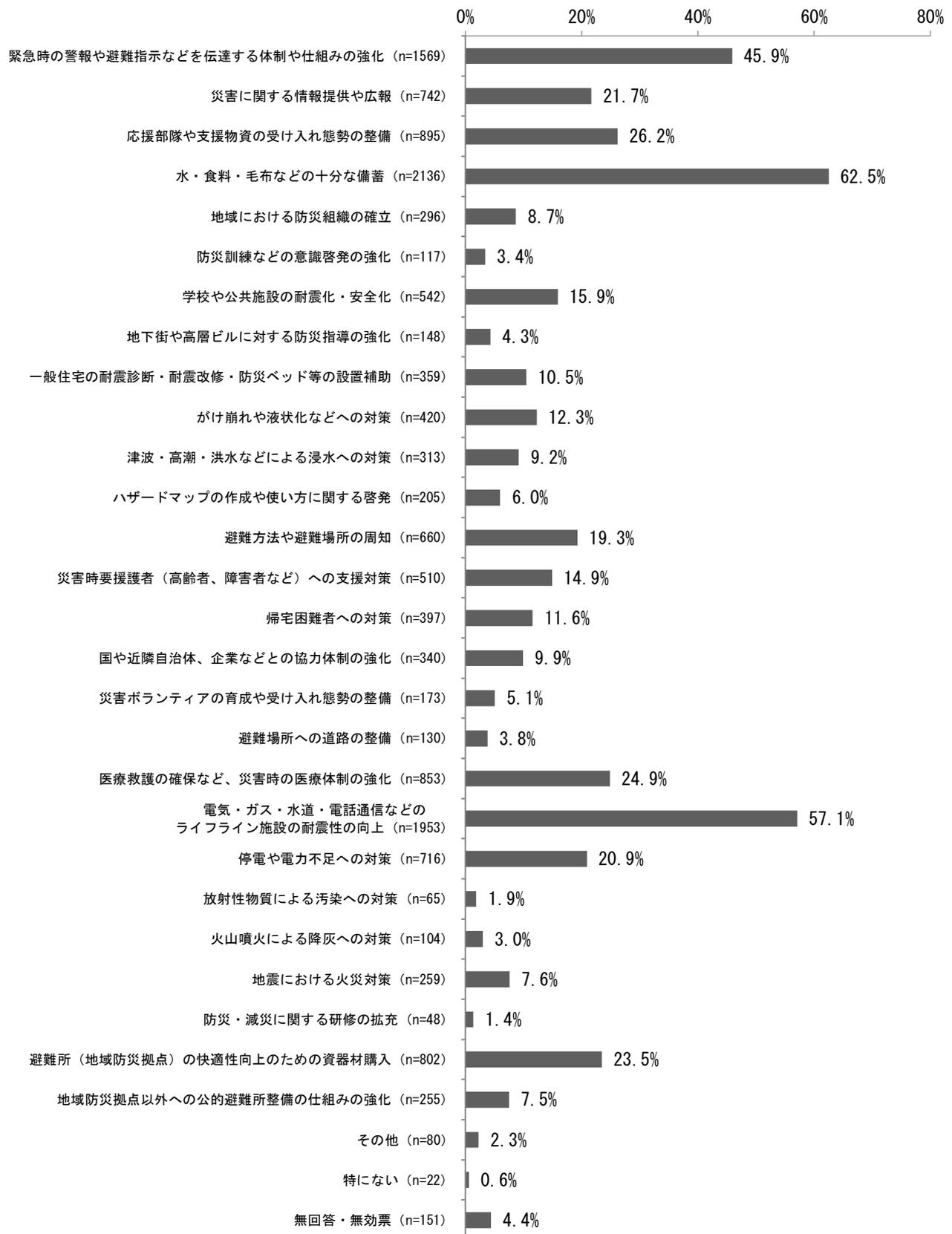
災害対策について、横浜市に力を入れて取り組んでほしいことは、「水・食料・毛布などの十分な備蓄」が62.5%と最も多く、次いで「電気・ガス・水道・電話通信などのライフライン施設の耐震性の向上」が57.1%、「緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化」が45.9%となった。

経年比較では、今回調査からの新設した「応援部隊や支援物資の受け入れ態勢の整備」26.2%（4位）が上位5位以内に入った。

年代別集計では、「10歳代～50歳代」では「水・食料・毛布などの十分な備蓄」が1位となり、「60歳代～70歳代以上」では「電気・ガス・水道・電話通信などのライフライン施設の耐震性の向上」が1位となった。

災害時に自力避難が困難な家族別集計では、「幼児（1歳～7歳未満）」「小学生（7歳～12歳）」においては、「学校や公共施設の耐震化・安全化」が4位にのぼった。また、「介護等が必要な高齢者（65歳以上）」「身体・知的障害がある方」「こころの病気の方」「在宅での医療的ケアが必要な方」「療養等で身体が不自由な方」「日本語が不慣れな方」において、「医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化」が上位5位以内に入る結果となった。更に、「乳児（0歳～1歳未満）」「日本語が不慣れな方」において、「避難所（地域防災拠点）の快適性向上のための資器材購入」が5位となった。

【全体集計】 n=3,419



図表 23-1：横浜市に力を入れてほしい取組

※【その他回答】(抜粋、一部要約)

ペット対策・受入/トイレ対策/治安対策/災害弱者対策/避難所の収容人数拡大/避難所環境の向上/発信力の強化、等

【経年比較】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
平成30年 (n=2,682)	電気・ガス・水道・電話などのライフライン施設の耐震性の向上 60.7%	水・食料・毛布などの十分な備蓄 56.7%	緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化 48.5%	医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化 27.8%	学校や公共施設の耐震化・安全化 25.7%
令和3年 (n=3,553)	水・食料・毛布などの十分な備蓄 64.9%	電気・ガス・水道・電話などのライフライン施設の耐震性の向上 59.1%	緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化 47.9%	停電や電力不足への対策 29.9%	医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化 26.5%
令和6年 (n=3,419)	水・食料・毛布などの十分な備蓄 62.5%	電気・ガス・水道・電話通信などのライフライン施設の耐震性の向上 57.1%	緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化 45.9%	応援部隊や支援物資の受け入れ態勢の整備 26.2%	医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化 24.9%

図表 23-2：横浜市に力を入れてほしい取組 経年比較

※1 「応援部隊や支援物資の受け入れ態勢の整備」は今回調査からの新設選択肢。

【年代別集計】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,419)	水・食料・毛布などの十分な備蓄 62.5%	電気・ガス・水道・電話通信などのライフライン施設の耐震性の向上 57.1%	緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化 45.9%	応援部隊や支援物資の受け入れ態勢の整備 26.2%	医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化 24.9%
10歳代 (n=72)	水・食料・毛布などの十分な備蓄 80.6%	緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化 48.6%	電気・ガス・水道・電話通信などのライフライン施設の耐震性の向上 44.4%	災害に関する情報提供や広報 33.3%	学校や公共施設の耐震化・安全化/停電や電力不足への対策(同率) 27.8%
20歳代 (n=234)	水・食料・毛布などの十分な備蓄 71.8%	緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化 50.0%	電気・ガス・水道・電話通信などのライフライン施設の耐震性の向上 44.0%	応援部隊や支援物資の受け入れ態勢の整備 27.4%	災害に関する情報提供や広報 24.4%
30歳代 (n=313)	水・食料・毛布などの十分な備蓄 74.8%	電気・ガス・水道・電話通信などのライフライン施設の耐震性の向上 56.9%	緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化 40.3%	応援部隊や支援物資の受け入れ態勢の整備 29.4%	避難所(地域防災拠点)の快適性向上のための資器材購入 28.1%
40歳代 (n=488)	水・食料・毛布などの十分な備蓄 64.1%	電気・ガス・水道・電話通信などのライフライン施設の耐震性の向上 55.7%	緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化 43.6%	応援部隊や支援物資の受け入れ態勢の整備 31.1%	学校や公共施設の耐震化・安全化 24.2%
50歳代 (n=654)	水・食料・毛布などの十分な備蓄 63.1%	電気・ガス・水道・電話通信などのライフライン施設の耐震性の向上 60.4%	緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化 44.5%	医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化 28.3%	応援部隊や支援物資の受け入れ態勢の整備 27.2%
60歳代 (n=576)	電気・ガス・水道・電話通信などのライフライン施設の耐震性の向上 62.7%	水・食料・毛布などの十分な備蓄 59.7%	緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化 50.7%	応援部隊や支援物資の受け入れ態勢の整備 29.0%	災害に関する情報提供や広報 26.7%
70歳代以上 (n=997)	電気・ガス・水道・電話通信などのライフライン施設の耐震性の向上 59.8%	水・食料・毛布などの十分な備蓄 58.5%	緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化 48.0%	医療救護の確保など、災害時の医療体制の強化 30.5%	災害時要援護者(高齢者、障害者など)への支援対策 30.0%

図表 23-3 : 横浜市に力を入れてほしい取組 年代別集計

【災害時に自力避難が困難な家族別集計】※上位5位を抜粋

	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (n=3,419)	水・食料・毛布などの 十分な備蓄 62.5%	電気・ガス・水道・ 電話などのライフ ライン施設の耐震性の 向上 57.1%	緊急時の警報や避難 指示などを伝達する 体制や仕組みの強化 45.9%	応援部隊や支援物資 の受け入れ態勢の整 備 26.2%	医療救護の確保など、 災害時の医療体制の強 化 24.9%
乳児 (0歳～1歳未満) (n=58)	水・食料・毛布などの 十分な備蓄 69.0%	電気・ガス・水道・電 話などのライフライン 施設の耐震性の向上 44.8%	緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制や仕組みの強化/応援部隊 や支援物資の受け入れ態勢の整備/避難所(地域防災拠点)の快適性向上 のための資器材購入(同率) 37.9%		
幼児 (1歳～7歳未満) (n=196)	水・食料・毛布などの 十分な備蓄 72.4%	電気・ガス・水道・電 話などのライフライン 施設の耐震性の向上 48.0%	緊急時の警報や避難 指示などを伝達する 体制や仕組みの強化 38.3%	学校や公共施設の耐 震化・安全化 34.2%	応援部隊や支援物資の 受け入れ態勢の整備 30.1%
小学生 (7歳～12歳) (n=229)	水・食料・毛布などの 十分な備蓄 65.9%	電気・ガス・水道・電 話などのライフライン 施設の耐震性の向上 54.1%	緊急時の警報や避難 指示などを伝達する 体制や仕組みの強化 45.9%	学校や公共施設の耐 震化・安全化 34.1%	応援部隊や支援物資の 受け入れ態勢の整備 31.4%
妊産婦 (n=24)	水・食料・毛布などの 十分な備蓄 58.3%	緊急時の警報や避難 指示などを伝達する 体制や仕組みの強化 50.0%	電気・ガス・水道・ 電話などのライフライン 施設の耐震性の向上 45.8%	避難方法や避難場所 の周知 41.7%	応援部隊や支援物資の 受け入れ態勢の整備 33.3%
介護等が必要な 高齢者 (65歳以上) (n=407)	水・食料・毛布などの 十分な備蓄 63.4%	電気・ガス・水道・電 話などのライフライン 施設の耐震性の向上 51.6%	緊急時の警報や避難 指示などを伝達する 体制や仕組みの強化 47.2%	災害時要援護者(高 齢者、障害者など)へ の支援対策 42.5%	医療救護の確保など、 災害時の医療体制の強 化 27.8%
身体・知的障害が ある方 (n=151)	水・食料・毛布などの 十分な備蓄 61.6%	災害時要援護者(高 齢者、障害者など)へ の支援対策 48.3%	電気・ガス・水道・電 話などのライフライン 施設の耐震性の向上 45.7%	緊急時の警報や避難 指示などを伝達する 体制や仕組みの強化 43.7%	医療救護の確保など、 災害時の医療体制の強 化 33.8%
こころの病気の方 (n=95)	水・食料・毛布などの 十分な備蓄 67.4%	電気・ガス・水道・電 話などのライフライン 施設の耐震性の向上 57.9%	緊急時の警報や避難 指示などを伝達する 体制や仕組みの強化 47.4%	医療救護の確保な ど、災害時の医療体 制の強化 34.7%	応援部隊や支援物資の 受け入れ態勢の整備 27.4%
在宅での医療的ケア が必要な方 (n=69)	水・食料・毛布などの 十分な備蓄 59.4%	電気・ガス・水道・電 話などのライフライン 施設の耐震性の向上 58.0%	災害時要援護者(高 齢者、障害者など)へ の支援対策 46.4%	医療救護の確保な ど、災害時の医療体 制の強化 39.1%	緊急時の警報や避難指 示などを伝達する体制 や仕組みの強化 31.9%
療養等で身体が 不自由な方 (n=85)	災害時要援護者(高 齢者、障害者など)へ の支援対策 58.8%	水・食料・毛布など の十分な備蓄 49.4%	電気・ガス・水道・電 話などのライフライン 施設の耐震性の向上 47.1%	緊急時の警報や避難指示などを伝達する体制 や仕組みの強化/医療救護の確保など、災害時 の医療体制の強化(同率) 37.6%	
日本語が不慣れな方 (n=14)	水・食料・毛布などの 十分な備蓄 71.4%	電気・ガス・水道・ 電話通信などのライフ ライン施設の耐震性 の向上 57.1%	応援部隊や支援物資 の受け入れ態勢の整 備 42.9%	緊急時の警報や避難 指示などを伝達する 体制や仕組みの強化 35.7%	津波・高潮・洪水など による浸水への対策/ 避難方法や避難場所 の周知/医療救護の 確保など、災害時の 医療体制の強化/停電 や電力不足への対策/ 避難所(地域防災拠 点)の快適性向上の ための資器材購入 (同率) 21.4%

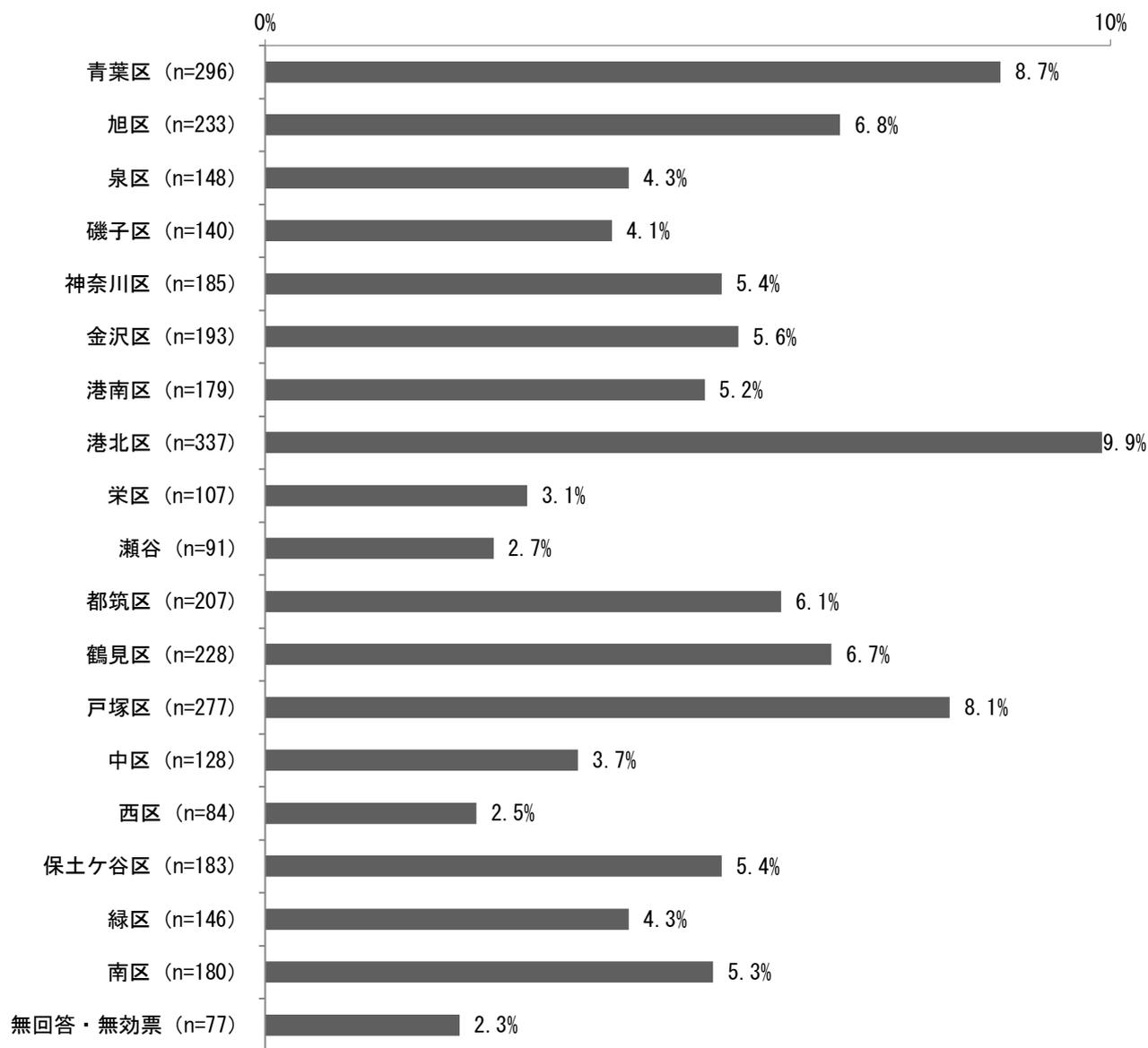
図表 23-4 : 横浜市に力を入れてほしい取組 災害時に自力避難が困難な家族別集計

6. あなたご自身のことについて

(1) あなた自身やご家族のことについて

問24 あなたのお住まいの区はどちらですか。(1つ選択)

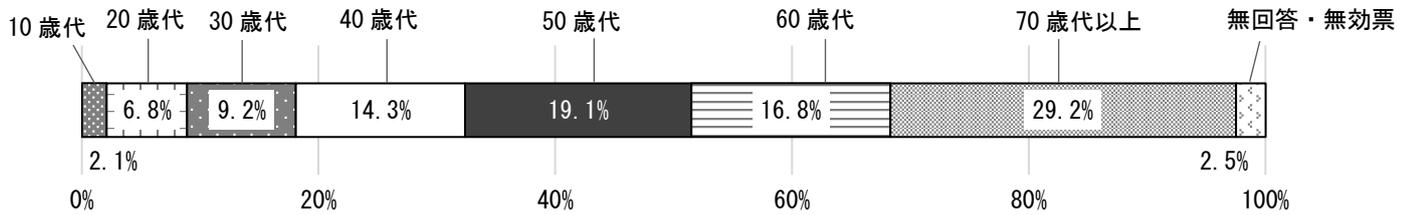
【全体集計】 n=3,419



図表 24-1 : 居住区

問25 あなたの年齢（年代）はどれですか。（1つ選択）

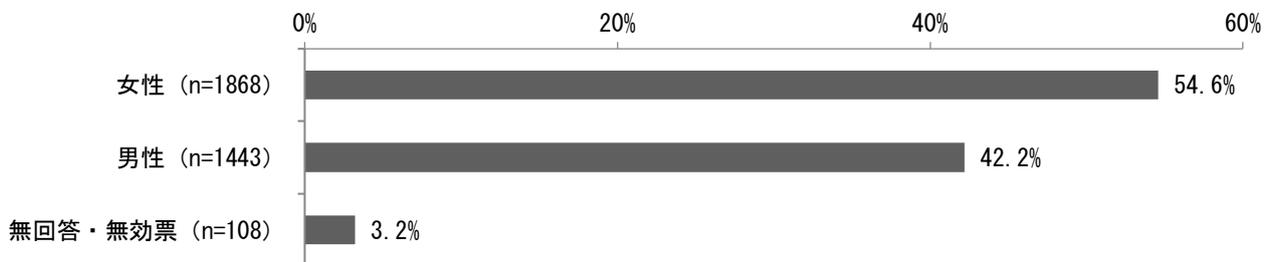
【全体集計】n=3,419



図表 25-1：年齢

問26 あなたの性別はどれですか。（1つ選択）

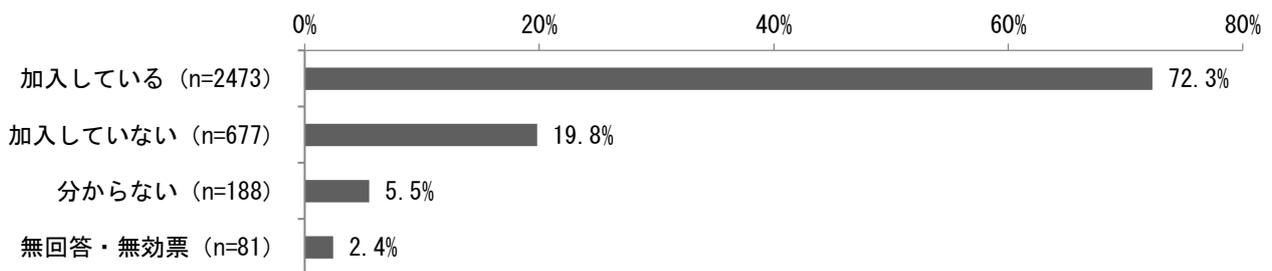
【全体集計】n=3,419



図表 26-1：性別

問27 あなたは、自治会、町内会に加入していますか。（1つ選択）

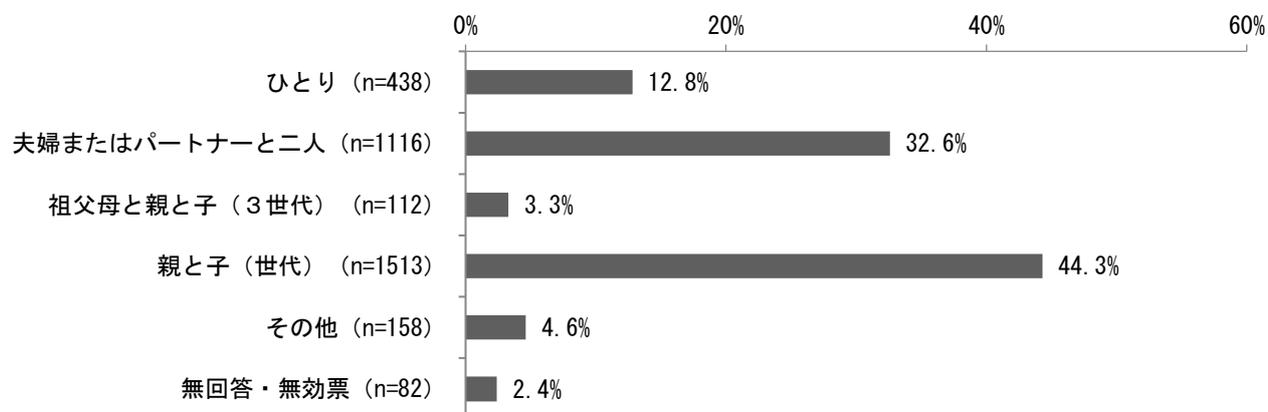
【全体集計】n=3,419



図表 27-1：自治会・町内会への加入

問28 あなたは、どのような家族形態で暮らしていますか。(1つ選択)

【全体集計】 n=3,419



図表 28-1 : 家族形態

7. 【自由記述内容】

(原則、原文のまま掲載(ただし、不明文字や商品名等は一部修正))

問1 あなたのお住まい(住宅)の形態はどれですか。
市営住宅
UR
高齢者施設
市営住宅
市営住宅
親族持家に居住
個人アパート
公営住宅
UR 賃貸住宅、社宅
アパート4所帯
実家
親族所有物件
市営住宅
親との同居
市営住宅
UR 都市機構
市営住宅
市営住宅共同住宅
主人の父の持家(一戸建て)
借り住まい(一戸建て)
障害者グループホーム
同居家族の持ち家
世帯分離。親名義持家(一戸建て)
テラスハウス
公営住宅
問3-2 耐震診断を受けていない、あるいは、耐震改修等を実施しない理由について、該当するものを選んでください。
耐震壁を効率的に配置設計されている
解体予定
建て替・売却を予定している
親族が必要を感じていない
建て替えを検討中
立替予定だから(団地)

夫婦二人(90代)死亡後使用する者がいないため
建て直す予定
<商品名>のため
特になし
リフォームを2度している
引越を考えている為
引越しの予定
<商品名>の為在来工法でない。
世帯主が無関心だから
永住する予定ないため
令和6年以内に移転の為
損傷しても倒壊しないと思う
増築部が大半で昭和56年以上に建築した
2階を造築する際、鉄骨で1階を囲むように組んだ上に建てている(神楽造り?)
公団住宅のため耐震等に関してはわからない
平成12年リフォームしたが、増築したので容積オーバー・市には増築申請、納税している。この地区は条例により容積率が厳しい。
建て替え
建てかえ時にと思い
新耐震後の増築部分がある
やっても意味がなさそう
数年前に診断を受けている
手続きが分からないため
一階改築済みのため
問4-1 あなたが家具類の固定(転倒防止)をしていない(一部のみの固定も含む)理由について、次の中からお選びください。
高い物がない
壁、天上が石コウボードの為強度がない。コンクリートにアンカーが打てない。(きりが無い為、可能なもののみ)
比較的低い高さの家具のため
あまり深く考えていなかった。
高さが低いもの
必要で手間はかからないが、面倒だから
今後固定するつもり
その時にしなくて、なんとなく忘れてしまった
ほぼ何かしらしていますが、不足はあると思います
家具を低いもの、転倒リスクの低いものにしていく

物が多くてどれが必要かわからない
天井がやわらかいのでつっぱり棒は無理
ローボードが多い為
寝室には、転倒するような家具は設置していない為。
危険性の少なさそうな物はしていない
固定以外の方法で処置済のため
天井がビニール製でつぱれない
全てでなく、必要最小限はしている。
寝ている時に危険なところは固定している
自分が必要だと思う所をやっている
仏壇・ドレッサーなど、低めの物は、理由なく、していない
普断使用していない部屋の為
転倒しても危険がない物に関してしてない
寝室以外は特にしていない
低家具の為。
やらなければならないと思うが、なかなか手がつけられない
固定しようと思いつつ、先のばしになってしまいました
低めの家具には!
主要な家具に固定したが、全部はしていない。
合致する器具がない
低い家具はしていません
低い家具にした。
家具が低く、重い為
家具のたおれる所に寝ていないため
高さがない家具は固定していない。
転倒する家具は処分するつもりなので!
家具ガラス戸付本棚は今後固定する予定。その他は固定している。
細かい食器類で使い勝手が悪くなるのを防ぐため
倒れる家具は固定してあるから
家具があまりない
天上がしっかりしてないのでつけられないと言われた。
リフォーム中のため
高さ1mの家具なので、固定していない。
固定がいらぬものもあるので
丈の高い家具は置いていない。高い家具は作り付けにしている。
防止をしてある以外は転倒しても被害の可能性が少ないと思われるから
低い家具とか軽量の家具の為

大きな家具の前には寝ていないから。
見まわした感じ大丈夫そうに勝手に思っているから
家具(対象となる)が少ない。冷蔵庫のみ固定防止している
天井のハリの位置が分からないため
倒れても危険性を感じない物は対策をとっていません。
必要と思われる所はやっている
一部の家具を固定しているので
一部のタンス等の上に箱を段ボールですき間を作らないようにしている。(寝室等の場合)
転倒の心配のある物は金具で固定したので、小物は、とくに固定作業をしていない。
自分でできることはしているが不十分と思っている
危険と思われる家具はできていると思っています。
これから他の所も考えている。
やろうとは思っている
考えていなかったが、これを機に固定します
夫の介護で考える間がありません。
東日本大震災で転倒や傾いた家具が1つもなかったため
クローゼットの中にタンスを入れていたが、クローゼットから出してから、固定はしていない
転倒と危険性有るものは既に防止策をしている
転傾しそうな家具のみ固定しています。
空室であるから
その内にと考えていた為
小さいタンス等は、していない。大きいタンス等は固定している。
低めの家具だから
物は必要以上置かないようにしている。
危険な物を固定している全ては無理
低い家具を作っている寝室はサイドテーブルのみ
ハウスメーカーから、つっぱり棒等での対策はやらないようにと言われているため、家の構造上の問題で
高さが低い為
倒れてもよい場所にある。
倒れて困る場所に倒れる家具を置いていない
寝室居間にたおれる家具はありません。
高い食器家具は一台固定し他の家具4台は高さ1m位の為なにもしていない
何が良いかわからない
倒れた場面に下に空間ができるため、(狭いため)
対応予定
家具の形態により器具の取付けが難しいため
家具によっては、高さが足りなかったり、軽くて必要がない。

高さ 1m 程度カラーボックスのため
やらなくてはいけないと思っているがそのままになっている
ふだん、使わない部屋のため
タンス等大物家具のみ実施
あまり入室しない部屋
低い家具は転倒しないと思える
器具はあるがやっていない
固定が必要な家具は固定が不要なものに変更予定
やろうと思いつながら、まだやっていない
引越すると決めてあるので
高い物があまりない
必要な家具には固定した。
今、転倒防止をたのんでいる
高さが低いから
就寝場所に倒れる家具と食器棚を重点にしている
必要なものはやっている
食器棚 2(高さがあるのとガラス食器が入っているため)はしているがタンス類は低いので転倒はないと思っているので固定はしていません
空部屋の家具はしていない。物置き部屋はしていない
今、少し時間がない
転倒しても、危険の無い場所で寝ているから
ねる部屋以外は、転倒してもはさまれる心配がないから
あまり行かない所はやってない
引越してまだ間もない、徐々にやります。
必要かもとは思いますが、とりくめていない
夫が倒れないように家具の上に収納をしているため。
賃貸住宅のため固定するのがむずかしいということもありますが、固定すると部屋の模様がえが、しづらくなることもあり、棚などの転倒防止対策は、棚と天井の間に、転倒防止器具をはさむ方法でとっています。しかし、棚が低くて、(ローチェストほどではないです)天井との間に空間が大きいとはさめる転倒防止器具がないため放置しています。
1つだけ固定が必要な家具があり、いつか固定しようと思っている。
高さの低い家具だから
1.8m 越す家具が 3 個あるが、すぐ側に身を隠すスペースがあるから
あまり高い家具でないから
固定しなければと思っているが、なかなか決断出来ていない
やらなくてはいけないと思いつながらしてない。
最近買ったばかりなので

倒れたとしても他の家具で防げる
背の高い物はすべて、固定している。低い物はしていない
25年間のほぼ単身赴任生活から一昨年定年退職し、水まわり改修後やっと自宅で一人暮らしはじめたところ、とりあえず食器戸棚のガラスにはシールを貼り、東北大震災の後、居室の飾り戸棚やケースのガラス戸はとりはずし、アクリルやかざりカーテンにした。
固定が必要な所には固定しているから
着がえにしか使わない部屋なので危険を感じない為
壁の強度が弱い為
何となく
天井などの構造が、器具をセット出来ない為
120cm以下の家具は固定してない
高さのあるタンスは1つの部屋にまとめてある。低い家具はしていないが
一部残ってしまい、すぐに実施予定
・東北大地震の時にも、何の異常もなかったため(震度5弱)固定しないままにしている。・家具と天井が心配
家具固定以上必要とせず
危険度の高い場所から順次やっている為
納戸の中なので
2030年以降実施予定
部屋に必要以外の物をおかない要にしている
重量物でないので転倒しても小さいので
ほとんど家具はない
大丈夫そうなものはやっていない
高さのある家具だけ固定してます。
倒れても心配ない場所にあるから
生活空間は固定しています
高さが無い(低い家具は、固定しづらいし、危険性は他と比べて低いと思うので。
安全
高さの低い家具は未対応
家具類は高さが低いから大丈夫と思っている(一部
ピアノ、冷蔵庫等は固定していない。TVは使用していない・タンス等は全て処分、作り付けのクローゼット内に、収納。
必要と思われる家具には行っている
高さのない家具
背の高い家具は少なくしている。
引っ越ししたばかりの為
やり方がわからない

宝クジが当たったら、耐震改修工事をする予定だから。
人が長く滞在するリビングやベッドルームに大きな家具をおいていない。本棚など大きな家具は固定している。
壁の制約がある
小さい計量の物入れのため
購入したが設置できていない
家具の転倒防止するという考え方を持っていなかった。そういう考え方、或いは、方法があるということを知らなかったから。
全ての家具を固定(転倒防止)するのは実質的に不可能で現実的でないと思う。特に危険な家具は固定し、それ以外は転倒しにくいものを選んだり、配置に気をつけています。
高さのない家具なので
床上 1m 以下の家具で統一している。但し食器棚はガラス破損防止の為固定している。
引越して来て、今まで使えた器具があわず、そのままになっている
必要な箇所は取付ましたが、その他は設置がむずかしい為
寝室には転倒家具がないから。
年齢のため余生長くないから
建てなおすつもりであるから
一部背の高い物だけ固定している
ウォーキングクローゼットに箆笥 2 棹のみあるが日常人が出入少ないため固定なし。
高さが低いから(1m 以下)
大きな家具は処分し、プラチックのケースにして押入れに段々に入れて入れています。
しなければと思っている
家具が傷つくから。地震がきても比かく的安全だと思われるものはしない。
大きな家具は、壁にはめ込みになっている。
冷蔵庫など買いかえたら、今までの転倒防止のつっぱり棒があわなくなってしまった
2011 年東日本大震災の時に何も被害がなかった(飾り扇子が落ちただけ)
クローゼット内のタンスは固定していません。
低い家具類にした。テレビはしてない
リホームの予定
一度トライしてタンスのつっぱり棒を購入したが、長さが足りずに使用できず結果そのままになっている。
後回しにしている
壁や天井が弱く補強しにくい場所に家具があるから。
一時期取付けていたが、天井が弱いと思はずした。
家具が少ない為
電器製品。
一部家具(1ヶ所のみ)の固定を忘れていたがこれを期に実施する。
転倒(高さ 1m 未満の家具)はないと判断している

リフォームを予定
寝室の家具は固定
対策を検討中
寝ている部屋に家具類はない
設置していないので知らない
危険度が低いと思える家具もあるので
寝室・台所・リビングには施工し、納戸として使用している部屋は必要なしと判断した為
作り付け家具がメインだから必要を感じない。
有効な対策が見当たらないから
夫が反対している
転倒しても大丈夫なものはしていない
やろうと思っているがまだできていない
背丈の低いものは固定していない
隙間に木材で作成したトレイをはめ込んでいる。
大型家具の固定が難しい
力がないため家具を持ち上げてシールを貼ることができない。家族も年寄りなので出来ない。
転倒防止の必要のない低い家具にはしていない。食器戸棚や本棚等は固定している。
転倒しても影響ないと思われる家具については固定していない
背の高い家具が少ないから
危険度の高い家具のみ対策済み
腰より低い家具で重心が低いものは固定しない
お金がかかるから
必要と思っはいるが、日常に忙しくて追い付いていない
建物の揺れる向きを考慮して家具を配置
背の高い家具がない
そのうちやろうと思って後回しにしている
滞在時間の極短い居室の家具は施していないから
問4の回答に「一部固定していない家具がある」が必要
大型家具、テレビ、電子レンジ等は固定しているため
高い家具無し
腰の高さより低い家具しか置いていないから
倒れたら困る家具のみ固定している
失念していた
必要な所はやっている
家族管理
冷蔵庫は必要か？必要性が不明
これからしようと思っている

考えていなかった
人がいるところは実施しているが、通常いないところは実施していない
つけようと思っていてそのままになっていた
倒れても被害がほとんどないと思われるものは固定していない
常時使う部屋ではないから
増設分の家具
直置きしているテレビをどうしたものか悩ましいため
特に理由はない
引っ越したばかりで設置まで手がまわってないため
倒れても怪我しない場所にあるから
最近購入したばかりなので
買ったばかりでまだ固定していない
やらないといけないと思いつつ後回しにしている
やろうとは思ってるが時間が作れないから
納戸で、人の出入りが無い
賃貸の天井や壁が突っ張り棒の圧に耐えられない程に薄い構造のため
しなくては。と思いながら先送りしてしまっている
転倒すると危険な家具は対策しているが、他は転倒しても安全な配置にしているため固定していない。
危険度が高いと思われるものは固定している
小さいものは固定していない
忘れてる
やらなきゃと思いつつ後回しになっている
低いものはしていない
いつかやろうとは思っている
家具が低いから
天井が強固でないため、支え棒が固定できない
倒れないものは固定してない
背の高い家具が無い為
前が台所で、止まるので、必要性が薄い。
残りはそのうち行う予定
しようと思いながら時間がたってしまった。
完全に転倒しない様に、配置上、考慮している。
大きい家具がないため
やらなきゃと言いつつ、やっていない
該当する家具が少ないから
背の低い家具など、こういった防災器具を使ったら良いのかわからない
背の高い家具が無いため

どこまでやるべきなのか、よくわからない
背の低い家具にはしていない
固定方法を検討中
部屋の形状に合う器具が無い
背が低いものは適切な転倒防止用対策が難しいから
高さのある家具がないから
転倒時の危険性が低いと感じるから
寝ている場所を中心に固定している。不十分だとも思う。
普段居るところで充分と考えているから
倒れるものが無い
家の構造上、固定器具を取り付けられない場所がある。
問 7-1 あなたが設置している「感震ブレーカー」のタイプは、次のうちどれですか。
設置のブレーカーが感震ブレーカーなのかがわからない
<デベロッパー>で設置しているもの
11 年前に建築されたマンションでその時説明うけたか忘れました。
かなり留守同然にしていたため詳細は忘れてしまった。
漏電防止ブレーカーを使っていると思う
漏電ブレーカーとの記載だが、同じか。
マンション設備
問 7-2 あなたが「感震ブレーカー」を設置していなかった理由は、次のうちのどれですか。
既設のものをそのまま使っている
解体予定
設置してるかわからない。
見た目が悪い。
簡易タイプを取付けてみたら本体の扉が閉まらないので取付けをあきらめた。必要性は感じているので分電盤タイプ交換を考えている
マンション室内の分電盤にどの様に取り付けてよいかわからない
分電盤を変えたばかり
自治会たのみ
知らなかった
火災発生の可能性が低いから
<町内会>の案内で申込み忘れた
よくわからない
設置位置がなかった為
知らなかった

一部行政の負担がある、市区町村がある。
あまり考えなかった
最適な方式が判らないため
超長期優良住宅で耐震能力良
気にしていなかった。
途中入居の為
公団仕様だから
簡易タイプをいずれ付けようかと思う
すぐ忘れてしまうから
知らなかった今後は予算次第
リフォーム中のため
設置する、スペースが無い為できなかった。
建て直す予定
手でブレーカーを切る。
感震ブレーカーがあるのを知らなかった。
組合で相談
不明
共同住宅なので全体で案内等があれば、設置してもよい
マンション全体で設置しなくても大丈夫か不安
マンションの理事会で決めること
マンション管理会社が建物全体を火災・地震等の災害から守るセキュリティシステムを導入していて、安全が守られているため
知りませんでした。
共同購入を計画
電気ヒーター等は使用していない。耐震装置付があれば大丈夫と思う。
マンション全体の決定
マンションについていなかった
マンションだからわからない
購入した時点で設置されておらず。
設置スペースがとれないから
世帯主が無関心だから
存在を知らなかったから。
良品が出ており実施予
新しい分電盤に変えたのに業者から、感震ブレーカーについての説明がなかった。
横浜市が令和6年度予算で感震ブレーカー等を3月補正で計上していたため、補助金を期待している
自治会での対応を待っている
行政からの広報で周知させていたのかな？

知らなかったから
マンション管理組合の方針確立時にきめる
分電盤の電源を off にすれば、通電しないと思っていたから。
種類が多くてどれを選んでいいかわからない
自分でブレーカーを落とす。
注文し、同商品が届くのを待っているところです。
購入したが今のブレーカーに合うかわからない・自動でブレーカーが作動すると思っている
在宅時は自分でブレーカーをおとせるから
毎年電力会社の人、点検に来ていますが指摘されない。
集合住宅なので個人ではできない
考えたことも無かったので
感心(関心)がないから
4.5 年前に中古マンションを買ったため不明
私に決定権がないからわからない
知らなかったから
マンション購入時に設置されていなかった
管理組合で判断
当時無かったから
マンション全体の問題
共同住宅マンション
ブレーカーはあるが電力会社のほうで管理されているかと
最近、自信が多く、避難レベルでなくてもブレーカーが遮断すると不便である
そんなブレーカーがあるとは知らなかった
リフォームしたばかりでブレーカーを交換したばかりだが、提案してもらえず、知識がなかった
有効性がよくわからない
賃貸であるため、設置されているかよく分からない。(多分設置されていない。)
選択を悩んでいる
家主が別だから
そもそも知らなかったため
取り付ける場所がない
気にしたことがなかった
地震時に自宅から離れる際、off したい
家のブレーカーが感電ブレーカーかどうかわからない
マンション、勝手に改造できない
設置しているかわからない
夜間地震時当ぶれーかーによる停電を懸念(地震で停電するかもしれないが)、避難時ガスと電気のブレーカーを落とす。

設置しているかどうか分からない 設置していなければ設置を検討する
今後設置の予定の認識の為
もともと設置されていなかったから。
行政からの支給または補助等を待っている
ブレーカーのカバーがあるから。コンセントタイプは付けられるかが分からないから。
全世帯がやらないといけないものだから
設置しているかどうか分からない、の選択肢がない
初めて知ったので調べてみる
<ホームセキュリティ>が切れるから
設置しているかどうか不明。建築後約 10 年と新しいので付いているのではと、このアンケートでブレーカーを見たが何を見れば良いか分からない。もう少しアンケートの資料としてどこを見て確認できるかの説明がほしいと感じた。
感震ブレーカかどうか分からない
最近はそのようなはないと業者にいわれた
知らなかった
話題にのぼらなかったから
マンションが対応しているか否かわからない。
自身で制御可能であることから
まだ現状で対応できると考えていた
マンションの管理組合で設置検討中
知らなかった
存在自体をしらなかった
建て替えも検討しているので
建物が耐震構造なのでつけていない、と施設担当から聞いている。
後回しになっている
知らなかった
つけられないタイプだったので
感震ブレーカーだと思っていたが、違った
問 8-1 横浜市では、 <u>ローリングストック法</u> ※などを活用し、ご家族全員分の食料や飲料水を 3 日以上、日常的に用意することを推奨しています。あなたのご家庭で、3 日以上の食料や飲料水の準備をしていない、又はできない主な理由は何ですか。
3 日くらいは OK なので
ローリングストック法は知っているが、実践できておらずムダにしているから
身近に感じていなかった
1, 2 日も 3, 4 日も変わらない気がするから
とりかえ期
必要はわかっているが先おくりしている

災害時は職場に出向くため自宅にいない
飲料水を購入する文化がなくローリングストック法が使えないから
病気の為
普段、ミネラルウォーターではなく水道水を飲んでいる。水の備蓄を試みたが、ローリングできず賞味期限が切れたことがあり、備蓄の仕方がむずかしい。
必要だとは思っている
その内準備しようと思いつつ、あと回しになっている。
やらなければと思いつつ出来ていなかった。
家族の人数が多いから・場所、費用、手間
食品は用意で来て、水3日分の量?
なかなか準備する気持ちがおこらない
多少食料の買い置きはあるが、日々の生活に追われきちんと準備する時間がない。災害は起こらないとは思わないが、やはり、自分ごととして捉えていないところや危機感が甘い。
高齢だから
今年目標で少しずつストックしている。
やろうとおもっていた(準ビ)
何となく
検討中
必要なことは知っているが、準備ができない
必要なことは知っているが、準備ができない
リフォーム中のため
準備をしないと思いつつ後回しになってしまっている。
マンション管理室がある程度備蓄してくれているから
そのうちと思いつつ毎日が過ぎてしまっている
それを持ってひなんできると思わないから
補充が間に合っていないため
なんとなく
お金も保管場所もないから
賞味期限が短いから
毎日の生活で手一杯。心の余裕がない。
2世帯住宅で、2Fの家族の備蓄を知らない。
すぐ食べてしまうから
少しの備えしかしてないのでこれからそろえる
あるていどは用意している
水は用意していたが、期限が切れてしまった食料はローリングストックを意識せず日常の生活のストックのつもりでおいている
使いがはげしくて備蓄が間に合わない

忘れてしまう
食料は1週間分以上確保しているが、水は3日分は無い。水以外の飲料(サイダー、コーヒー、ジュース等なら5日以上はある。
重い物が持てないから
何とかかなと思うから在庫で。
非常時にストックが不事なのか?
ストックの場所がない
一人だから買物が大変
風呂の水を流用
今の在庫で足りると思っていたから
引越してからまだ家自体がかたづいていないので
不在にしていた為
あるが消費期間を確認していない
気持ちはあるがなかなかできない
うまく使いまわせないから
知っているが後まわしにしてる
マンション管理組合が準備
準備をします
以前ローリングストックを実行したことがあったが、続かずそのままになってしまった。
準備する予定はある。
買ってはいるが食べちゃう
気がついたら消費期限が過ぎて捨てるハメになるから
1度準備したが期限切のため再度準備するのを忘れていた
●●●<判読不能>
家族が多く保存場所がないから
3日分を常に新鮮な状態で継続(管理し廃棄や新規購入)するのは難しい
賞味期限が切れて食べてしまってから買い足していないため。
非常食は用意しているが、期限切れのものがでてしまう。
最低限、水のみ確保できればと考えているから
なんとなく
近いうちに準備しようと思いつつ先延ばしにしている
購入しなければと思っているが購入していない
そろそろだと思って、準備している
用意しているつもりだったが、賞味期限が切れていたため
期限の長い水の確保が大変
必要だとは思いますが後回しにしてしまう
うまくローリングできない。備蓄品が消費期限を超える

水は貯めている最中で、食料品は7日以上可能
家を長期で空けることが多く、その度にストックする水や食料を買い換えることはコスト的にも手間の面からも難しい。
3日分準備していて、一部消費して補充していない
何回か準備をしたが、消費期限が過ぎ廃棄した
注文したが未配達
引っ越して間もないため
最近使ってしまった
マンションに備品があるから
1人1日あたりの目安は2リットルだと思っているから
やらないと思っているがまだできていない
これから準備予定
2日分は有るのでこれから増やす予定
まだ購入できていない
子供が産まれる前に準備したため
防災意識がない。3/11のときも水は出た。
今後やろうとは思っている
準備したいが乳幼児がおり共働きで準備する時間がない
高層マンションのため、断水するようなことがあれば、近くの実家に移動する予定のため。
準備しようと思うが後回しにしてしまうから
特に理由なし
いつかやろうと思っております
3日分まで、用意できてない
自治会で用意しているから
5年前ぐらいまでは倉庫に備蓄してましたが、それ以降備蓄していない。このアンケートをきに備蓄します。
期限が切れて忘れた
本当はもっと必要だと知ってはいるが、家に浄水器があるため上手く水をローリングストック出来ず、少ない本数になってしまっている。
これからやるつもり
3日分以上あるとおもっていた。
前回に準備した非常食が賞味期限を切れたため、なかなかちょっとした距離まで買い物に行けなかったからです。
問9-1 準備していない理由は何ですか。
特に考えていなかったのです。
これから準備したいと思います

真険に考えてませんでした
忘れていた
必要はわかっているが先おくりしている。
考えたことがなかった
災害時は職場に行くため
準備しなくてはと思いつつ不十分な数しか用意できていません
用意していたが日がたちすぎた。
どれを購入するか迷っている
必要だとは思う
パンフレットが入ってきてるのでいずれ購入しようとは思ってる
そのうち、購入しようか…のまま
準備しなければと思いながら忘れていました。
今後検討
何となく。
準備する気持ちが進まない
予定
準備が必要なのはわかっているが、日々の雑務に追われ忘れてしまっていた。
庭で用が済む
これから
準備する予定ではあります
何となく、やる必要はあると思ってはいる。
検討中
屋上に飲料があるから!!
トイレを買っている
やろうとは考えているが実行していない！
近くの講演に災害用トイレがあるから
いつか分からない
買入しようと思って、忘れている！
それをもってひなんできると思わないから
夫の介護でそこまで頭がまわらない
トイレパックに代用するものを準備しています
やろうとは思っている…
トイレについて考えていなかった
1~2個はあるがその数が必要なのが以外だった
他のビニール袋を準備にしている。
食料、飲料水の準備は知っていたが、トイレの準備は知らなかった
ついつい後回しになってしまう

購入を考えているが、つい、忘れてしまう。
特に意味はなく、なんとなく
今後購入予定
トイレパックを知らなかった
必要性を感じていない
いつか買おうと思ってそのいつかでとまってる
マンションで準備しているから
今後進める
不在にしていた為
気にはなっているがまだ準備出来ていない
準備の予定有り
前に用意したが期限が切れてしまった。
何個用意するなど知識がない
近くに下水用マンホールが有る
マンション管理組合が準備
準備しなければと思っている
近くに中学校があるから
今後、検討
準備しようと思いながら購入できていない
準備する予定はある。
以前から考え中でした。今なおもです。
庭が広いので穴を掘る
ポータブルトイレがある為
介護している為、介護オムツが有るので、活用しようと思っている
準備しようと思っている
後回しになっている
これから準備します
トイレまで意識していなかった
大人用オムツがあるから
危機管理が薄い
購入出来てない
キャンプ用のトイレを持っているから
買わなきゃいけないと思っているが、まだ買っていない
そろそろ、準備を始める
これから揃えていく予定
知らなかった
必要だと思うのですが何処で購入出来るのか分からない為

買うことを忘れる
ポータブルトイレがある
そこまでの意識がありませんでした
他の物で代用
しなければと思いつつまだ用意してない
老人用の簡易トイレがあるので代用できないか？
必要と思っているが、まだ未購入
近くにスーパーマーケットが有る
考えていなかった
気にしていなかった
買おうとしていたが、失念していた。
今すぐじゃなくても良いと思うから
購入予定があります。
巨大なバケツ、穴を掘る等すると思う。
用意していないだけ。
今後やろうとは思っている
準備しようと思いましたが何個購入したらいいのか分からず購入していない
意識していないから
準備しようと思っていたが時間が過ぎてしまった。
怠慢から
特に理由なし
以前用意したが、幸いに使用することがなく、破棄したため
同上
用意しなくては・と思いつつ未だしていない。
問 10 あなたやあなたのご家庭では、家具の固定や水・食料の準備等以外で現在、どのような対策をしていますか。
ラジオ、フェ、ケイタイトイレ、ライト、マスク、アメ
職場がない
すべてが古い、とりかえ期
キャンプ道具多数
家で過ごしている
数日分備蓄(職場)
仕事をしていない
勤務先に1人1セット防災セットの準備がある。水、トイレ、食品。
持ち出しルックを用意している
勤務してない。
防災グッズを用意

バケツ3ケに水を入れている
簡易トイレの常備
勤めていないので
比較的、公園や学校が近くにある。
無職のため該当せず
無職
現在は働いていないのでたいてい自宅にいる
自分の連絡先表を携帯(常時)
自宅が仕事場
定年退職後まだどこへも勤ムしていない。
わからない
バンソウコやマスクは常に持っている
ホテル等の公共施設を借用する(滞在する)
年金生活の為近隣と密にしている
無職
家に居る事が多い高齢者の為、外出の際は水と薬は常時持参
定年退職の為
18~22 対称外
在宅勤務
自営
いざとなったら何も持たないで逃げていると思う。避難所で自分ひとりで食べるわけにもいかないような気がする。
自宅での業務なので何もしていない
全員無職
視野を確保するため ICL を受けた。
勤務地なし
自宅にほぼいるため
外出先での備えが無い
スマホで確認する。
高齢の為、外出時の事は考えていない
高齢で勤務していない。
備え付けの家具にしたものがある。ドアストッパーをつけた。
年金生活者
わからない
近い。自営業のため。
自分の連絡先、家族への連絡先、病歴、服用している薬のリスト
外出先で被災困らないように絶えず鞆に細々入れている

退職済み。外出時には、必ず携帯電話・現金・カードを持ち歩くようにしている。
あまり、準備していない
各自部屋に防災グッズを用意している
アルミ蒸着シート、笛は携行しています。そもそもテレワークが多く、あまり出社してませんが会社には十分な防災の備えがあります。
自家用車(HV車)からの給電が可能
トイレにも水を用意している
問 11 あなたは、直近3年間で次の研修や訓練等に参加したことがありますか。
マンション内、定期訓練にて
マンション内で消火する時参加している
つとめ先
会社の訓練
施設に来て頂き消防訓練実施
横浜市民防災センターのツアー参加
車イスのため出来ない
職場
職場の防災訓練
旅行先(宇都宮)でやっていた災害・防災に関するイベント
会社ビルの防災
マンション管理組合
職場での訓練・研修
コロナ前は参加
職場の
職場にて防災の受講
会社の防災訓練
職場
市災害支援ナース登録、そこで開催される講習会に参加
会社の防災訓練
会社
仕事先での防災訓練
社内訓練
勤務先
職場にて防災訓練
職場での訓練
会社
ない

マンション内での防災放送等は見ている
職場での防災訓練
被災地派遣
町内会の支援会入会
マンションでの防災訓練
勤務先の研修、訓練
夫は参加していない
山口県のおじいちゃんからイロイロ勉強してます。
職場での訓練
学校での防災訓練
以前参加している
職場
会社
10年前に町内会の訓練に参加した
年齢、参加むり
職場の訓練
マンション内の訓練
避難訓練
職場
7月14日シンポ参加予定
会社の防災訓練
職場での研修
職場の避難訓練
職場の避難訓練
職場で消火器訓練
会社の防災訓練
マンション全体での防災訓練
職場での訓練(防災、火事)
アマチュア無線
栃木で10年、さいたまで15年勤ムしていたため、各病院・施設で県や市の指導のもと実施(管理職だったため)
会社の防災訓練
幼稚園の訓練の参加
Youtubeを見た
職場での訓練
会社の防災訓練
所属企業内でのオンラインセミナー

職場の防災訓練
3年より前に参加した
テレビ、雑誌などの防災関連記事は見て、参考にしている
会社で訓練
横浜防災センター
職場の防災訓練(横浜市内)
職場(保育園)での防災訓練
職場での防災訓練
職場での防災訓練(病院勤務)
職場の訓練
自治会の役員
職場での防災訓練
職場が入っている建物の集団防災訓練に参加
職場
マンション防災訓練
職場の防災訓練
管理組合の防災訓練
会社での訓練
3年前、防災訓練に参加しましたがコロナで行っていなかったので参加してません。
マンションと会社の訓練にさんか
COMPANY DISASTER PREVENTION
職場の避難訓練に参加
職場の防災訓練
会社の防災訓練
会社
職場での防災研修及び避難訓練
職場訓練
会社、保育園での防災訓練
消防点検時に消火器使用訓練
職場での毎月の避難訓練
職場での防災、防火訓練
職場での訓練
職場での防災訓練
職場での避難訓練
職場での災害訓練程度
職場での訓練(AED使用訓練を含む)
会社での防災訓練

職場での防災訓練
会社での防災訓練
職場の講習会
社内
職場の訓練
マンション管理組合の消防訓練
3年以上前なら防災訓練あり
職場での防災訓練
会社で
マンションの訓練
マンション管理組合による防火訓練
オフィスの火災訓練
横浜市アマチュア無線非常通信協力会青葉区支部、横浜市青葉区医師会災害時医療検討部会
職場の避難訓練
マンションの防災訓練
小学校に勤めていた際の防災訓練参加
上級救命
勤務先ビル主催の避難訓練
職場での防災訓練の企画実行の担当
会社内の防災訓練
職場にて消防の方から受講
職場の避難訓練
学校の避難訓練
障害者グループホームなので、年に2回自主的に避難訓練を実施している。
会社の防災訓練
防火管理者甲所持
会社の避難訓練
勤務先での避難訓練
親子広場での防災説明など
会社での避難訓練
職場での防災訓練
職場での避難訓練
職場
職場にて消火訓練
会社での防災訓練
職場で毎月消化器訓練をしている
会社の防災訓練

職場での防災訓練
勤務先での研修、訓練
会社の防災訓練
勤務先での防災訓練
会社での訓練
上級救命救助の研修
コミュニティハウス主催の講習
職場での防災訓練
町内会の班長時、防災委員を、4.5年前区での防災になり、講演、訓練参加。
会社での防災訓練
横浜市民防災センターツアー参加
会社での訓練に参加
会社の消防訓練
防災士取得
元消防職員なので指導的立場で参加
職場
職場での防災訓練・講習
車いす生活
問 11-1 参加していない理由は何ですか。
動けない
身体が不自由の為
参加しなければならないことを知らなかった為
開催されていることを知らないので
自宅がサ、高、住で新耐震基準を適用している高令者施設だから
勤務先にて受講
引っ越したばかりの為
妻が要介護4で外出できない
予定があったから
身体障害者です。耳がほとんど聞こえませんので。
高令のため、89才 85才
高齢で足が不自由な為参加が厳しい
病人がいて決められた日時には参加できない。
やってない
体調不良
仕事が忙しい
10年以上前に参加して安心していた

研修等は受けてはいないが、地域の独居老人の災害時の避難の手助けボランティアに登録している。
開催されていないから
職場での訓練に参加
体力がない
昔参加したが、今は高令で夫妻二人共、腰の手術をしていて歩行も大変なので今は参加していない。
高年令の為
いつ行はわれているのか知らない
町内会で無にもしていないから。
開催の情報を知らなかった。
体調が悪いため
知らなかったから
病気の為入退院が続いていたので。※7.8年前までは、1、2に参加していた。
病気のため
ひざが痛くあまり出かける事が出来ません
どこで開催か知らない
引越してまもないので
忙しい
体調が悪いから
以前参加したから
高齢な為足が悪い
参加する機会がない
機会がなかった
研修や訓練があることを知らなかった
家族の介護あるため。
身体が不自由だから。
地域で防災訓練があることを知らなかった。
体調不良・高齢・つえ付きあり
病気
何も知らなかった
もう何年も体調悪く歩けないよ。
老人のため動けない
体調病弱のため
訓練日に用事があり不参加
やってることも知らなかった。
高齢で足腰が弱い
高齢で参加できない
身体障害者

職場で研修等行っていたため足に障害があるため
高令で体が不自由
越してきて2年、研修、訓練がどこで開催されているか知らない
知人が居ないのでつい参加しづらい。
身体に負担がかかるから(老齢老)
知らない
以前参加したから
対人関係が苦手だから
高令のため
引越して1年なので
高齢の為86才
介護者だから
日本にいなかったから
聞いた事がない
今年の県外から来たばかりだから
開催しているのを知らなかった。
引っ越して1年くらいのため
以前に受けた
高齢のため
体調不良
個人的に連絡はない
体調が悪い
障害があるため
身体が不調で参加できない
体調不良
車イスのため要介護5
高れいの為行くのが苦
参加したかったが時間がとれなかった
5年前に参加
4~5年以上前に参加している
町内で実施していないから以前は何時も参加していた。
高令で参加出来ない
3年前は地域防災拠点の訓練に参加した。この3年間は予定とかさなり参加出来なかった。
組長の時に参加しているので
通院のため
特に何の連絡もない為
何となく

足が悪い
としより、参加無理
開催を知らなかったから
くだらない
身体障害者のため移動困難
足、腰が悪く参加しづらい
都合が合わない。
意識したことがなかった。
防災訓練に参加するという意識がなかった。考えることができていなかった
高齢の為
研修や訓練があることを知らなかった。
ひざが悪いので長時間は無理
以前は参加していたが、5、+6 で最近に参加せず。
自治会の防災訓練に、5 年程前に参加したが、近年はしていない。
研修や訓練があることを知らなかったから
介護 2 で思うように動けない
わからない
3 年より前に参加したことがあった
開催を知らない
高齢者などで無理です。10 年程前は、参加していました。
特に関心が無し・開催されている事に気付いていない為
自分の休みの日にやってくれ
引越してまだ間もないので
自由参加だったので
安全管理業務を担当していたから
日程が合わなかった
体が思う様に動かないから。
マンションの防災訓練に参加している
体が思うようについていけないから
案内がないため
以前訓練参加したから
年よりだから
体力的に無理と考える
足が悪いため
年れい、高齢
老人のため
高令

介護をしている家族がいるので外出がしにくい為。
病弱のため、うごけない
母親の介護で外出(参加)できなかった。
開催自体知らなかった
主人も私も入退院があったから
高齢で一人暮らし
知らなかった
なんとなく
体力がないので
移居したばかり
老人だから
時間がなかったから・今後参加しようと思う
責極的に広報していない
不在にしていた為
以前、消防団に在籍経験があった為。
機会がなかったから
コロナがこわかった
3年以上前に参加したことはあるが、その後はできていない。そろそろ参加しなければと思う気持ちはあるもののなかなか時間がとれない
九十才近い老人で、余り深く考えていない。(一人暮らし)
いつ訓練があるかわからない
体調がよくないため
日程の都合
そんざいを知らなかった
高年令の為
知らなかった
引っ越して来て町内会には入りましたが防災訓練等活動がコロナ等でおこなわれていなかった為
寝たきりで動けないから
歩行困難のため
体調が悪く参加できません
地域防災意識の高揚しつつある。
在宅酸素で外出するのに、呼吸苦でなかなか出られない。
高齢のため
老齢のため
足腰不全で参加不可能
自治会役員がしているから参加していない
コロナだったので

仕事とかさなり休めなかった。
足が悪かったため
開催されていることを知らない
地域でこの3年防災訓練やってない
以前、参加したことがある
会社で参加しているから
引越してから年数が短い
自分から行きたいと思えなかったから
よく分からなかったから
参加のしかたがわからない
参加の呼掛が無い
知らない
何も知らない
引っ越してきて間もないから
知らないから
特に案内がないから
高令者の為、活動不可 85才
1年に1回ぐらいでは危機感がない
参加のしかたがわからない
以前参加したから
高年者だから
高令者で外出は不可能だから
どこでいつ実施してるか不明
84才
開催されているのを知らなかったから
高齢者なので
案内が無い
どのような訓練がいつ行われているのか周知されていないので知らない
参加したい気持ちはあるが、つい後回しになってしまう
賃貸で、多分自治体などには参加していないため。
介護のため外出できないから
そもそも研修会の存在を知らない
コロナで、自治会の訓練などが行われてなかった
関心がなかったため
5年ほど前に町内会で参加したことがあったため
職場で実施される避難訓練に参加
必要かどうか分からないから

そういった情報が届いていないから
機会がなかった
以前、参加したことがあったため
訓練の連絡が来ていない。
参加する機会がなかったため
開催していることを知らなかった
引っ越してきたばかりだから
なんとなく
自分の都合と合わなかった
引っ越してきて3年たったのですが、いまだ地域に馴染めていないので参加しませんでした。
開催していることを知らなかったから
開催されてるのを知らないから
知らなかった
地域活動や近所付き合いが薄いから
開催を知らない
研修や訓練等があることを知らなかった
情報が得られなかった。
開催されていることを認識していないから。
開催されているのを知らない
5年前に参加しているから
開催日の都合がつかなかった
かなり前だが以前に参加したから
体力的に無理だから
参加したかったが都合が合わなかった
訓練が開催されていることを知らなかったから
開催しているのを知らなかった
高齢のため
気にしていなかった
横浜市に引っ越してきたばかりなので参加してない
引越しをしてから自治会関係のお知らせなどがなくなってしまったため。
参加呼びかけがないから
開催日を回覧板で知るが、大抵開催日が過ぎてから回覧板が回ってくる。
高齢のため
開催の知らせや掲示、広報がなかった
情報がない
知らなかった
過去に参加したことがあるから

参加する機会がなかったから
以前に何度か参加したことがあり、防災リーダーのライセンスも取得したことがあるから
引っ越してきたばかり
対人不安があるため
高齢のため出席出来ない
加入自治会の活動が定例事業的で新しく得るものがないから
障害者で具合が悪い。
そもそも開催しているかどうか分からない
心臓病がある、元消防団
自身がほぼ寝たきりで家族もそういった訓練に参加できないから
開催されていることを知らないから
子供を連れて行ける様な場所でやっているのかも分からない為
訓練等があることを知らないから
防災訓練の開催情報を積極的に調べにいかない
従来、職場の避難訓練に参加してきたが、感染症対策であるテレワークにより参加しなくなり、更に、退職したため。
案内が無い
いつ、どこでやっているのか知らない
知らなかった
海外に住んでいたのでは
あることを知らなかった。
引っ越ししてきたばかり
仕事の為。
認識していなかった
引っ越してきたばかりで知らなかったから。
知らなかった
情報がないから
高齢の為歩けない
あまり意識していなかった
二度参加したので
以前参加した時と同じような内容のため
やっているか知らない
歩行困難
コロナ禍で開催がなかった。
There should be online seminar in english
案内がきていないから

問 17 発災後に避難所へ行かず、自宅で避難生活をする際に心配なことは何ですか。
ペット
在宅酸素が必要な娘の酸素入手
ペットの水やエサ
お肉しか食べれないので食事が不安しかない…
家族の体調
家族に障害者がおり、体が弱い
酸素吸飲してるので、心配です。
透析をうけているため、どこでどうやって透析をうけたらよいか分からないこと
エレベーターが使用できない時の対策
特になし
ペット
全部
ペット(犬)との生活
足が不自由要手助
要介護者のケア
介護度 5 の親の世話
崖上にある住宅の崩落
難病にかかっているため、指定病院に連絡する
新生児を含む幼児がいるため、赤ちゃん用品や衛生用品の確保
発災後の経過日数により必要な事は変化すると思うのでこれとは選べない。
精神科薬、抗てんかん薬などの定時薬がなくなること
ベビ用品の確保
乳幼児の世話と情報収集などの両立
ペット
ペット
問 18 自宅等に被害があり、避難所で避難生活を送らなければならなくなった際に心配なことは何ですか。
コロナ対策
幼児(子)がいること
子供が人に迷惑を掛けないように、気をはらなければならないし、子供の心も守らねばならない。子供をとりまく安定、安心が得にくそう。
他の家のペットと同じ空間にいたくない
そもそも避難所には酸素がない。以前、長女と大地震の時にどうするか話し合ったら、「妹を連れて逃げることはできない状況ならば、皆で妹と共に残って死のう」と話したことがあった。(長女が)在宅医療の子どもがいる家族は皆こんなかんじだと思う

病気があるため
女性という事で必要以上に調理などを担当させられそう。
すべてに介助が必要
薬(内服している)の確保
横浜で生まれ育ったのでせんそうは知っているか解らない。
子どもの精神状態・安心して怖がらずに過ごすことができるか。
ぼくは人とお話しすることができないので集団生活もムリです。不安しかないよ。
生理用品の供給
薬
支援が必要な家族が1人ですごせる場所があるかどうか
家族に障害者がいる
透析の手段
トイレパック各家庭に市で配ってほしい
生理のとき
避難所内での当面動ける人での自衛組織の結成役割分担としっかりとした報集収の確保等の指揮・指導のできる方
補聴器の充電
入浴
透析の手配
安全な他所へ行く
全員への平等支援。
障害のある息子が安心してすごせる場所
子どもが泣く等した際の対応
常用している薬の維持
体力
性被害
医療的なケアがある家族のこと
幼い子供がいること(周囲への配慮など)
薬の確保
子ども達の情緒
仕事のこと
乳幼児の環境
避難所で性被害などのトラブルがあると聞いているので不安
判らない
避難所に入れる選ばれし人にどうやったらなれるか。
障害ある人の対応
仕事とのバランス

生理用品の不足(ナプキン、生理用ショーツ等)
自宅の家財の盗難
例え初期だけだとしても雑魚寝は断固無理
子供が安心できる場所の確保
犯罪
今のところ何も特にないの様な、強いて言えばでチェックしました
乳児が過ごせる環境
真偽不確かな情報の拡散
自宅の盗難
ペット同伴可
子どもの世話(1才)
ペットと同居は苦手です。
発達障害の子供の対応
問 21 あなたは、防災情報（日頃の備え）をどのような方法で入手している又はしたいですか。
Yahoo 天気、ウェザーニュース
正確な情報、指示をしてくれる友人たちのグループ
自治会連絡報
NHK 防災
ケアマネージャー
スマホのニュース
インスタ
ユーチューブ
<商品名>防災アプリ
所属の団体
生協のチラシ
youtube
マンション理事会便り
会社の<セキュリティサービス>
山口のおじいちゃんからイロイロきいてます。
インスタ
NHK ニュース、防災スマホにて
いろいろなツールを組み合わせている
アマチュア無線
自治会のセミナーやネット、本、
インスタ

在宅の要支援者、要介ゴ 1.2 の高れい者等の防災レベルでの訪問相談や実態把握ができると望ましい かぎりだが…
インスタ
SNS
ネットで調べて
net news
スマホの操作できないのでスマホからの情報は取れない、スマホ難民です。
ネットニュースやネット情報
学校
ネット
学校
youtube
ティックトック
インターネット
mixi ニュース
YouTube、tiktok
Net や携帯
YOUTUBE
Instagram
インターネット検索
プッシュ型の防災情報、避難情報、救援情報が欲しい
NHK ニュース防火
自治会
Instagram
NHK 防災アプリ
防災団体のメールや機関誌、HP
国等公的機関のホームページ
企業、学校からの発信
internet
<地域コミュニティアプリ>
Twitter
ネットニュース
東京防災ブック
YouTube
Instagram
Instagram
NHK 防災

自治会で作成した手引き書
<商品名>防災アプリ
YouTube
youtube nhk 防災ネット
問 23 災害対策について、横浜市に力を入れて取り組んでほしいことはどれですか。
鶴見川水位ライブカメラその他主要箇所ライブカメラ設置←現在あるのは知っています箇所をふやす
私 82 才で妻 80 才の要介護 4 の面倒みているので災害時特に不安。妻は車椅子。
ペット対策・避難所のトイレ問題
避難所(こちらは中学校です)どう考えても地域住民全員いけないと思っています。坂の上に中学校があり車いすの家の者を押して行けません。そして、床に寝ることができない、という障害あり、トイレもままならない、私たちは家にいるしかありません。
避難場所に希望者全員受け入れられるのか
木密地域の火災対災
台湾東部地震の時のような、予め役割分担が決まっている迅速な対応
そもそも地域の方は日頃から、病気と障がいを抱えた子どもが住んでいる事に意識していない。町内会の防災訓練や講習会に参加しても、お年寄りの話ばかりである。(高齢者・障がい者・子ども)の順番を変えて、意識改革してほしい。
ペット同行避難先の整備?よくブルーシートをケージにかけていたりテントだけで雨風をよけている映像を見ますが、テナント等を用意してほしい。ペットも家族という考えが浸透してほしい。日本の法律では、ペットは物として扱われていますが横浜市として対策等変えてほしい。国を変えるのは横浜のような大きな街からだと思っています。
トイレ設備
十分な避難場所確保(全く足りない現状のため)
仮設住宅地整備
ペット対策
NHKTV でイタリアの防災組織を見たが、市も、国も参考にしたらどうか。20~30 年前の考えでなく、トレーラーハウス、キッチンカー、トイレカー(水洗化)の全国自治体での分散化した保管いざとした時集めて、ボランティアの運営を日頃から研修する。
ペットの受け入れ
ペットの受け入れ
(治安の維持)災害時、ドロボーや強盗が普通に起こる。特に都市部は人口が多いので災害前は、普通の人でも災害後、失った物の大きさによって犯罪をおかす人が増える。また、ボランティアになりすましてる犯罪者は、能登のようなところでもいたので都市部ならその 10 倍、100 倍は簡単に増える。
自治会に頼らず行政のリーダーシップで対策を進めていただきたい。(住民に負担させること自体が行政の間違いだと強く感じます。他の先進国 4 ヶ国に住んだ経験から、日本の行政はかなり時代遅れだと懸念します。)
基本すべてが対象である⇒絞りきれない…情報入手手段が一番大事だろう…。

トイレ
移動トイレの保有
井戸をほる補助金、ひなん場を増やして近くにあるといい
ペットの受け入れに対してのマニュアル
公園を避難所にする事ができる整備
早急にトイレトレーラーを購入する。
・酸素が必要な為。停電などすると困まる。・身体も筋力が弱っているため、不自由で手助けが必要です。・訪問看護を受けている。
地震による建物の倒壊の対応として、ガラスの対策も考えてほしいと思います。住宅の窓ガラスを、割れにくいものにしていく必要があると思います。飛散防止フィルムでは不安です。新しく建てられるマンションのエントランスや、ビルがガラス張りなのを見つけると、こわくなります。ガラスですぐに死なないまでも、とても苦しい思いをしたいと思います。
災害発生後の行政の組織体制の広報役割など
治安のいじ
災害発生時、すぐに対策本部立てて、実際に動ける組織を作り、実動できるよう、国・県とも共力して、上に立つ人は知事や市長など名目上の長でなく、被災経験や災害プロと言われる人に上に立って一早く指揮系統を確立してほしい。
避難まで 3km 近く有る。(長津田小学校)どの道を行くか心配だ・バス通り 246 国道は歩道は整備されたない。
被災後の子どもの教育環境の保全と支援
東京都に比べ今迄のトップに考えが浅いのか私腹を肥やすことばかり考えてたのか?地震も大切ですが今中国×台湾が対立してる様ですが日本はすぐ近くにアメリカの基地が有り戦争になると巻き沿になると思いますがそれに対し核のシェルターを作る等考えているのでしょうか
重度障害者の避難の場所や仕組みの強化・周知
このアンケート全体について、答えられないことが多い。被災してみないと判らないです。平常から考えておけと言うことなのか、むしろ行政側がこういうものを備えておくので安心して避難くだいの方が良いのでは、行政の取り組みを明確にすべきです。
ペットとの避難生活の確保
①水面で、給水車を増やし臨時給水場所を設置しその所の必要資材、人員の確保、対応が必要。②感染症防止、拡大抑止並びに発生の際は迅速対応。③地震等の発生後に起きる可能性の津波や火災による道路や住宅などの被害状況を迅速且つ、安全に把握することと、一部物資などの運搬に空からのドローン活用を図る事、実施化を願っています。
ペットの同行避難方法
①避難場所でのプライバシーの強化②早期介入への体制作りの徹底

<p>②⑥資機材購入→トイレ(能登…で和式トイレにご老人が入りにくい映像を見たので様式を増やすように)⑥ 3.11 発災時川崎に住んでいましたが、防災無線の音がききとりにくかったため、デジタル系も大事ですが、 防災無線なども、無くさずに強化していただきたい。②スマホだけでなく、固定電話や電話ボックスも緊急 時には、役立ったので、無くさず防災時にも、利用できるようにしていただきたい③ペットも一緒に避難所に いかれるように充実を。</p>
<p>街の植栽を減らしてほしい→緑税不要・街でのかれ葉やせん定費用さく減・地しん時とうかいかい避 ・町内会にたよらない対策・町内会に入っていないと各種使用できないため・避難所も町内会員が管理し ているから非会員は対象外との事です。・町内会費ですべて準備しているからだそうです</p>
<p>ヒナンユウドウの手助</p>
<p>大きな木を見て切してほしい</p>
<p>ペット同伴避難所</p>
<p>簡易トイレの配布や案内</p>
<p>密集市街地を増やさない。＜ハウスメーカー＞に代表される、小規模密集戸建住宅の規制</p>
<p>災害ボランティア(労災未加入者)がケガや事故に遭った場合への補償制度の創設</p>
<p>医療的ケアのある人の避難について</p>
<p>各町会での世帯間の結束の強化</p>
<p>避難指示が出た際にペットはどうすれば良いのかフォロー</p>
<p>横浜市の道ですが、ヒビ割れや凸凹などが多く全体的にボロボロで危ないです。普段でもベビーカーや 車椅子では、この道を行くのは辞めようとおもうぐらいです。埼玉県に遊びに行った時、埼玉の道は全部 綺麗で横断歩道の白い線が掠れていることもなかったです。災害時のためにも横浜の道を工事でいつも 綺麗にしてほしいです。今は凄く汚くて危ない</p>
<p>避難場所までの唯一の道路が浸水するであろうと思われるので、別ルートで避難できるよう確立してほし い</p>
<p>町のスピーカーによる防災放送の訓練をやってるが全く言葉として聞こえないのに音が出るだけでOKに なってるのが怖い。聞こえる状態を維持して欲しい。</p>
<p>通信回線の確保(衛星を使った通信)</p>
<p>避難所の収容人数の対策</p>
<p>人口増、高齢者増を踏まえた避難場所増設、再検討</p>
<p>ボランティアを育てたいけど、働き盛り世代は有給を取ってまで行えるかなど、個人のモラルに反映され る。もっと、ボランティア活動の価値観が社会全体で改善されたら良いと思う。学生時代から運営訓練が あれば、もっと馴染む備えになるのだと思った。</p>
<p>市外への避難における交通手段の確保</p>
<p>市民が全員避難出来るだけの避難所を確保してほしい</p>
<p>ペット同伴避難受入体制／施設の充実</p>
<p>その地域の予想避難者数のキャパに見合う避難場所の見直し 運動会やっただけで敷地内から人が溢 れ出す学校を指定されてるが現実的には避難できず、そんな所を家族の集合場所に設定できない</p>

能登半島地震での被災直後の困りごとというと、トイレがあげられます。大規模な被災に備え、移動式のトイレトレーラーなどを平常時から準備しておく必要があると思います。(各市で確保しておけば、地方での災害時に貸し出しなども可能かと思います)また、能登半島地震においての避難所の映像を見る限り、避難所におけるプライバシーの確保は2011年から改善が乏しく、急務であると感じます。
プライバシーが確保された避難所の運営を可能とするための対策
女性や子どもなどが、安心して避難できる場所作りの支援
水、トイレの災害時の確保
避難時もペットと過ごせる場所
そもそも現状の避難所では受け入れ可能人数があまりに少ない。行政が主導・運営する避難所を設置すべき。
ペット同伴避難の態勢整備
ペット同伴
コロナで自治会の防災対策が止まったままで不安
ペットにも支援を考えてほしい
災害時の治安悪化、性犯罪等の増加に対する対策の強化
ペット防災へのペットと飼育者への市民理解の啓蒙
スペース不足の為、避難所に来ないでと言われている
電気が使えなくても地域ごとに連絡できる、昔の鐘のような仕組み
コロナワクチン接種予約等、横浜市は18区の温度差を大きく感じたので防災時には各区役所を大きく活かしてほしい
老朽化した空き家の撤去
高齢者、障害者だけでなく乳幼児への支援や対策
ペット同伴避難
被災した自宅の空き巣や、避難所等での犯罪への対策
無電柱化
敷地内の崖の防災強化への補助金
ペットの対応について
防災無線の設置
トイレやお風呂など衛生問題の整備
何をしてるか、分からない。発信力が弱い